

第8 会員ひとこと集



3期  
東中光雄

思い出など

私は、1950年、大阪弁護士会での弁護  
修習の際、時の弁護士会長白井誠さんは、私  
達修習生との夜の会食懇談の席で「弁護士は  
基本的人権を擁護し社会正義を実現すること  
が使命だ」と胸を張って述べられました。

私は始めて聞いたこの命題（実は前年9月  
施行の新弁護士法第1条の規定）に強い感銘  
を受けました。それが私の弁護士活動のバッ  
クボーンとなりました。弁護士は、この「弁護  
士の使命」「職責」を忘れた「法的サービス提  
供業者」にならないようにしたいものです。



3期  
古川毅

むかし50年前に春秋会が創立の会をもった

の生い立ちが重なる。時は六〇年安保闘争の  
前夜、平和と労働者の権利を守る夜昼なき活  
動の日々も今は懐かしい。

春秋の時は移ろい、今八十の老いの坂。レッ  
ドパージは、憲法違反と断罪したわが日弁連  
の勧告や、名古屋高裁のイラク派兵違憲判決  
に励まされ、初心に帰って、日本の宝平和憲  
法守れと毎月の9の日パレードを元気に歩く  
この頃である。



9期  
山口伸六

近況

裏庭に少し空地があるので、四季の野菜作  
りをしています。雑草を引いたり、虫を取っ  
たりしています。

テレビを見ていて、雑草と共に共生する野  
菜作りのあることを知りました。後期高齢者  
には、手抜きができ、まことに好都合であっ  
て、これからは、なるべく楽をしながら、虫  
食い野菜とも付き合っていくことにしようと  
思っています。

光景をまだかすかに記憶しています。昔の会  
館でやったと思います。何時までもこの記憶  
と共に私は3期の春秋会員です。3期の人々  
は春秋会をつくり発展させたために努力したり  
又春秋会を脱会したりするなどいろいろでし  
た。けれども今は殆どおられません。静かな  
ものです。何時までも春秋会が素晴らしいも  
のであることを願っています。



9期  
池尾隆良

近況雑感

後期高齢者の仲間入りをしました。未だ  
現役で、仕事量は減りましたが、日々の  
案件の処理に追われる毎日です。

健康には特に気をつけていますが、禁煙を  
2回失敗し、貼付薬も効果なく現在に至って  
おります。友人からは、先ず節煙から始めよ  
とか、年賀状などで公に禁煙宣言を試みて  
らどうかとか、更には禁煙成就のための願を  
かけたらいとか、いろいろの忠告を受けて  
いますが、何か良い案はないのでしょうか？



10期  
熊谷尚之

結成の年(大弁100年史から)

会員総数686名(小生、入会)、4・30  
都教組勤務評定反対10割休闘争、6・1 申  
合寄付金の率を1割5分から1割に軽減、会  
費1ヶ月700円を900円に増額、6・30  
扶助協会大阪支部結成決議、7・5 春秋会  
結成、10・25 臨時総会警察官職務執行法の  
改悪案撤回決議(12・7 審議未了で廃棄)、11・  
9 日弁連第1回人権擁護大会、監獄法改正  
を決議。  
50年の歴史の変遷の激しさを痛感せざるを  
えません。



11期  
宇賀神直

50年の弁護士人生と世の中



9期  
石川元也

最近、春秋の会合にも足が遠のいている  
が、これでも会発足以来の原始会員である。

それなりに、会活動、弁護士会活動にも努  
めてきたつもりだ。とくに、日弁連では刑事  
法制委員会を中心に、今も活動に参加してい  
る。裁判員制度の実施にあたって、裁判員の  
負担軽減のみが強調され、個別の争いある事  
件での防禦権、弁護権の擁護や、共に国民参  
加に値する「裁判員の使命感」が軽視されてい  
ないか危惧している。



9期  
橋本敦

若き日の思い今一度

古き赤煉瓦の大阪地方裁判所、その面影と  
古き弁護士会一新をかかげたわれら「春秋会」

10月17日に司法研修所卒50年記念の集いが  
東京であり、90余名が出席した。11期の修了  
者は260名程で、3分の1が出席した。死  
亡者は100名程。私の5組では40数名の内  
12名が出席した。この50年間の変化、世の中  
の移り変わり、司法の在り方の変化。平和と  
民主主義、働く人々の生活と権利を護る弁護  
士生活を始めて50年。50年後の世の中はよく  
なると思っていたが。



11期  
小林つとむ

先人の志を偲んで

春秋会は現在では大阪弁護士会内の最大  
派で、大弁どころか日弁までの運営を左右す  
るほどの大勢力であるが、あらためてわたし  
は草創期に活躍された方々の志をおもひ、謙  
虚さと純粋さを忘れないようにと自他ともに  
語りたい。わたしが仁藤一、伊多波重義さん  
とのメンバーで常任幹事に就いたのが昭和43  
年、まさに司法反動の前期の波が押し寄せた  
ときでした。わたしたちはよく闘いました。

そして当時は自由活発な雰囲気春秋会から弁護士会全体に満ち溢れていました。このような歴史と環境に恵まれて今のわれわれがあるということ、50年という機会に多くの先輩の姿とともに思い出したいものです。



12期 井関和彦

2008年の世界

イラクへの詐欺的不正義な戦争、アフガンの軍事占領は、当地無辜の夥しく数知れぬ、子供を含め住民生命の抹殺、負傷をもたらし、家族・生活、国土を無残に破壊し、平和を破壊し、人間の幸福を根底から奪った。又、戦場に駆り出された数千人ないし数万人の戦闘員の死亡・傷害をもたらした。これらの被害は回復すべしなく、救いようがない。しかも今後も長く引きずることになるだろう。

この侵略を率先した者は当然、加担した者の責任はとてつもなく重い。この罪はどのように償うのであろうか。

ようです。

生れも、生得的に与えられた能力も、資質も違い、もともと中味の平等でないものを平等に扱っているかのような見せかけの慰めではないのだろうか。

突き詰めて言えば実質的な平等に対する視点が、すっぱり抜け落ちているのではないかということですか。どうでしょう？



12期 松本健男

ひとこと

いつのころからか、松本清張が私の魂の宿り木になっていく。多分弁護士になって数年たったころであろう、本屋で清張の初期の作品を見て読んだのが最初と思うが、「日本の黒い霧」が出版され、文芸春秋新社から三部に分けて売り出されたのを待ち受けて買ったことを思い出す。以来数十年、特に最近の十数年、清張を買って読む癖が続いてきた。

主立ったものをあげれば、「砂の器」、「ゼロの焦点」、「草の陰刻」、「落差」、「影の地帯」、「黒

人権と社会的正義を守ることの職責にありながら48年の馬齢を重ねた今、春秋会50周年に際し、活力ある若手法曹群の活躍を心から期待するばかりである。



12期 川村俊雄

近況

幹事、実行委員の皆様ご苦労さまです。何のお役にも立てず申し訳ありません。

私は、今年から事務所では職務専念義務を免除され、自由出勤の身となりましたが、今のところ大巾な生活環境の変化により、急に老けるのを避けるため、格別の支障がない限り毎日事務所に出て、最新の知識を必要とする分野は若い人達に任せ、永年の経験でどうか誤りなく処理できそうな仕事だけをやらせてもらっています。

い樹海」、「波の塔」、「けものみち」、「わるいやつら」、「神々の乱心」、「若い描点」など。そのほか、昭和史発掘や傑作短編集など、既に見たものを間違って買ってしまったものも少なくない。

何が私をこうも清張に引き付けるのか。清張が生きた人生が私の心情に重なりあう部分があるのだろう。しかし、いずれにせよ、残り少ない人生を清張とともに歩んでゆきたい思いがある。



12期 三橋完太郎

感謝と願い

入会以来、48年間に亘って春秋会から与えられた数えきれない貴重な友誼に対して只々感謝あるのみです。

これからも春秋会が自由でとらわれない意見交流・討論の広場であり続けますように！



12期 木村保男

春秋会50周年おめでとうございます。過日少し入院したのですが、今は家に帰り、元気でおります。ただ、本調子ではないため、夫婦で申し込んでいた50周年記念旅行（ベトナム）は、キャンセルさせていただきました。大変残念です。

春秋会の益々の発展をお祈りしております。

（奥様の木村祥子様からお聞きしました「福田健次」）



12期 長山亨

雑感

近年は、なんとなく「法の下の平等」なんて幻想じゃないかという思いが強くなっている



12期 吉田訓康

老人からの一言

春秋会も50周年を迎えることになり、感無量です。当初は、研修所出身者ばかりの若手で弁護士会の改革を目指して結成されたものが、いつの間にか最大派閥になり、組織の老朽化を来しているのではないのでしょうか。この際老人組を別にして、若手を中心とした新しい時代の弁護士会に対応させて行くべきではないでしょうか。



13期 赤沢敬之

時間との競争

統計上日本人男子の平均寿命は79歳。私の場合あと7年の命である。平均余命では13年程。普通の健康を維持できても10年が精一杯

のところか。時間にすると9万時間もない。睡眠・食事など生命維持の必要時間を半分位としても、自由時間は僅か4万時間。これを仕事と趣味や読書などの楽しみにどのように割り振って活用するか、時間との競争を続けている昨今である。こんなこと若い時分には想像したこともなかったのだが。



13期  
上原洋充

春秋会創設50周年を迎えて

春秋会が生まれてもう半世紀かと、感慨も一人です。

昭和33年の創立時の綱領では、役員選挙の弊風を刷新し、公正・明朗な選挙の実現を期すとあり、その後会員の熱心な努力が実り、公正な役員選挙が実現されたことを思い出します。

私は春秋会結成の3年後に弁護士として登録し、春秋会に入会したので、長年にわたり春秋会と共に歩んできたといえます。約三年後に開業50周年を迎えるが、御世話になった

最近、同期の有志による祝賀会があった。その出席者はいずれも、身分は弁護士、年は大半が後期高齢者、体調は語らずも身振手振から老齡の兆が否めない。懇談時も、日頃の健康管理(長寿思考?)に話題が集中した。数年前までの同期会では、手掛けた業務の披露(自慢話?)・骨董集め(贋作の買占め?)等に尾鰭が付いて活気に溢れていたのとは、様変わりも甚だしい。そのような相違とは、やはり素直に納得しがたいところである。



13期  
原田 甫

まだGOLFか

相変わらずゴルフを趣味にしています。70数歳になって実力の低下はやむを得ないと諦めています。近頃「まだらほけ」に困っています。物忘れがひどくなりました。ホームコースで私と時々競技に参加していた同年齢の人、最近出てこないのその息子に尋ねたら、まだらほけになってホールのスコアをごまかす結果となり競技に参加不可能と。悲しいことです。

諸先輩、同輩、後輩の皆様には感謝の念で一杯です。春秋会は、今後も様々な困難を克服して、活発な諸活動と多様な人材の活躍により、重要な役割を果たし続けてくれると信じています。春秋会の充実発展と会員の皆様方のご健勝を祈念します。



13期  
楠木圭介

ひと言

春秋会創立50周年おめでとうございます。会員諸兄が大阪弁護士会や日本弁護士連合会で活躍されており、御同慶の至りであります。

今後とも更に一層発展されるよう祈念してやみません。



14期  
片山善夫

春秋会と私

私は1962年(昭和37年)4月に大阪弁護士会に登録し、春秋会に入会して46年になります。私たちの14期生は60年安保闘争・国会デモなどを経験した元気で正義感の強い人が多く、弁護士会の旧弊、特に会長選挙の際の買収・供応などの悪弊の打破等を目的として結成された初々しい会に、当然のこととして多数入会しました。春秋会は1965年に初めて副会長を出しましたが、その際、私は候補者の方に立候補の目的などについての質問状を提出したところ、一部の先輩から「あいつは生意気な奴だ」と叱られたことを覚えています。



13期  
小林保夫

弁護士会と春秋会の存在意義について

私は、日弁連、単位弁護士会が、一種のNPOとして日本における人権擁護や社会的正義の実現について刮目すべき巨大な役割を果たしていることに深い敬意を表するものです。そして、春秋会が会としても個々の会員においても、大阪に限らず、日弁連においても、いろいろな場面でこのような活動の牽引車となっていることには、みずからが寄与貢献していないことには忸怩たるところがありますが、これを誇りとしています。いつその発展を祈念します。



13期  
得津正熙

同期会についての感慨



14期  
葛井重雄

近況

若手だと思っているうちに、気がつけば71歳になっていました。あいも変わらず、事件の処理に追われ、登山も淡路島の別荘に行くこともままならずいたずらに馬齢を重ねている毎日です。体の動く間に、もう一度室道から槍ヶ岳の縦走をしたいと空想している今日この頃です。



14期  
久保井一匡

春秋会50周年に思う

春秋会の50年を振り返ると全体としては大阪弁護士会の中で大きな役割を果たしたと思う。とくに人権・公害・消費者問題・司法改革の各方面で先頭に立って活躍をしたことは

8月が来ますと、あの戦争が思い出されま  
す。戦場に狩り出され生き残った元日本兵の  
悲惨な報道に釘付けになります。辛かった語  
りの途中、声を詰まらせ下を向いてしまう映  
像を見ていると、こんな戦争を始めた連中の  
無謀さに怒りを覚えます。自民党や有力マス  
コミが憲法改正案発表を競い合った動き、ブ  
レーキがかかったように言われるがそんな生  
易しい話ではありません。戦争はダメ・憲法

15期  
杉山 彬

そのほとんどに使われている「永眠」という  
言葉について一言。この言葉は、漢和辞典に  
はないから、漢字ではないと思われる。ほ、  
読了しかかっている、佐々木閑著の「厚の角た  
ち」は、科学と仏教についてなかなか興味深い  
論稿であるが、最近、親友の死顔をみて思わ  
ず「おい」と声をかけそうになった。  
彼は、眠っているのである。臉をとじてい  
るだけなのだ。  
「永眠」は非科学的表現だろうか。たいした  
ことではないかも知れないが、人の死は科  
学と仏教のはざまにあるといえるのでは…。

切望すること  
朝刊をめくる。社会面に至るまでは、記事  
に付いている写真はほとんど男性ばかり。15  
年前に1年間のドイツ滞在から帰国して、日  
本のテレビニュース画面が余りに黒いので驚  
いたことを思い出した。女性がほとんど写っ  
ていないからだ…と気がついた。  
とりあえず、国民の1/2を占める女性が、  
種々の場面の1/2に参加していてくれるこ  
とを切望している。現実の事実が、どのよう  
な理屈よりも説得力をもっているだろうから。



15期  
滝井朋子

は変えないの声を広げる道を歩むだけです。



16期  
中嶋邦明

春秋会と私  
弁護士会の役員推薦はしない。役員選挙の  
公正を監視する。政策集団として民主的運営



15期  
東垣内 清

春秋会と46年  
春秋会員として46年、会の若い時代からで  
す。当時、派閥・人脈で会長、副会長選挙が  
競われておりましたが、政策によって競うこ  
とを提唱し実践してきたのが春秋会であり、  
その存在意義を誇らしく思ったものです。以  
来どの会派も研究会等をもち、政策を掲げて  
弁護士会の発展に寄与するようになりました  
が、春秋会の先駆的な取り組みは記憶に止め  
るべきでしょう。更なる発展を祈りつつ。



14期  
堀 弘二

春秋会と私  
春秋会に入会したのは弁護士になった年  
(1962年?)で、私は亡岡本尚一先生の原  
爆訴訟の訴状を読んで息子の岡本拓先生の事  
務所に入れて頂き、当時春秋会の綱領だった  
選挙粛正の呼びかけに応じ入会しました。  
その後、辛島さんや稲田さんと常任幹事  
を引き受けたこともありましたが、この頃の  
会誌は編集に当たっていた中山会員の提唱で  
「春秋会よ、どこへ行く」という特題だったと  
思います。春秋会が粛清団体から選挙団体へ  
と転換しつつあった時期で、会のあり方を真  
剣に考えていた頃でした。



14期  
前川信夫

このような経過もあったのですが、その後、  
忙しかったと見え、私も業務に関連して学校  
や会社の経営まで関係するようになって、何  
時の間にか会の方も疎遠となりましたが、あ  
のころは今でも懐かしい。  
それが、会費会員?ながら今でも会員とし  
て連綿と続いている理由です。

会長選挙の昔と今

私が弁護士となった頃までは、弁護士会長  
になりたがるボス連中が選挙ブレーンを動員  
して買収供応まがいの派手な選挙活動を行  
い、新聞にも極道社会の会長選びと変わら  
ないなど書き立てられて批判され、この悪弊  
を一掃すべく有志の先輩方の結果として春秋  
会を立ち上げられたと聞いていた。そこで私  
もその趣旨に賛同して入会させていただいた  
が、それ以来公正な選挙が実施され今日に及  
んでいるのは当然の事とはいえ喜ばしい限り  
である。



14期  
増井俊雄

近況

最近我が家のお寺の依頼で、心ならずも西  
本願寺の地方議員になったのを機に、初めて  
仏教の本を読むようになりました。私は若い  
頃、旧約聖書の歴史書の面を魅せられて、キ  
リスト教に興味をもったことがあり、多くの  
人達の心を掴んだ東西の世界的宗教に共通点  
が多いのに驚いています。

いま「歎異抄」にある親鸞の有名な「善人な  
おもって往生を遂ぐ、いわんや悪人をや」の一  
文に悪戦苦闘しています。



15期  
大錦義昭

永眠  
喪中のはがきを受け取る時季がきた。

をする。年長者で経験十数年、大家も長老もボスもない。魅力的。1964年登録と同時に入会した。

その後、会運営に参加、日弁会長最多の会派へと変貌した。私も春秋会推薦の大弁副会長を経験し、常任幹事も2回。お蔭で充実した弁護士生活を送れた。在野法曹の視点ある政策集団として、原始春秋会の精神性は将来も生き続けると信じた。



17期  
高島照夫

オバマの勝利に思う

オバマの勝利はアメリカ社会が変わって来たことを象徴する歴史的な出来事と思えます。この勝利によってアメリカの政治は大きく変わるのではないかと思いますし、日本にも大きな影響が生じるものと思われまます。ところが日本の政治状況は目もあてられない様な惨状で、これを何とかしない限り世界の流れからも取り残されるのではないかと危惧します。

17期  
浜口卯一

想い

歳を重ねて参り70歳に手が届くようになりました。お陰様で今でも現役として仕事をさせていただいております。これが何時までかは判りませんが、自分では終着点を設けておりません。唯、今まで通り人様にお世話になりながら続けて行ければと思います、その間に色々な人との出会いを楽しみながら過ごしたいと想っております。最近の風潮なり状況なりを見るに付け聞くに付け年寄りの愚痴はあります。それは心に秘めて置きたいと思ひます。



17期  
吉田清悟

故道田信一郎博士(元京大法務部長、元学術会議会員)の思い出

同博士は昭和63年3月当会経由で弁護士登録の申請をされたが、専攻が基本的な法律学

でなかったこともあって異議があり、小生外2名の小委員で審査を担当して結局は同年5月入会して戴いたものの、一か月足らずで他界された。この度「国際物品売買契約に関する国連条約についての一考(民事法情報266号掲載)」を執筆するに当り同博士の多大な功績(同条約採択外交会議政府代表として成立に尽力)を今更の如く知ったような始末である。



17期  
渡部孝雄

地球温暖化

地球の温暖化は、二酸化炭素が犯人ではないという説がある。一読の価値があるように思われる。

現代のガリレイとなるか。

記

「地球温暖化論に騙されるな」

著者 丸山茂徳(東京工業大学、大学院教授)  
発行所 株式会社 講談社



18期  
青木永光

昨年、琴線に触れたこと

昨秋、ある被害者支援シンポジウムで、本村洋氏の話を直接聞く機会を得た。同氏があれほどの悲劇から立直れた最大の理由は職場の上司にあった。事件後辞表を提出した同氏に「仕事が嫌で辞めたければ辞めてもいい、社会に対していろいろ発言もしたいだろう。しかし、毎日働き、税金を払って、先ず社会人たりなさい。そうでなければ君がどんな発言をしてもそれは犬の遠吠えにすぎない。」と諭し、辞表を預った。この痛烈な一言が同氏の胸を刺した。刑事裁判における被害者参加や賠償命令制度が施行されても、結局、被害者や被害者遺族の救済は、その取り巻く社会と職場の環境にある。



18期  
熊野勝之

再び 権力は腐敗する について

前回「権力は腐敗する。絶対的権力は絶対に腐敗する。」(アクトン卿)を引用した。2000年11月の臨時総会以来、歴代日弁連執行部の歩みはこの格言に照らしてどうであろうか。委任状の数を増やして反対意見に耳を傾けず強行採決を繰り返す、総会はやらせのタウンミーティングと化した。その結果が、今日の窮状だとすれば、腐敗防止には質疑討論以前に委任状で事が決まっているという手法をチェンジするしかないのではないか。



18期  
細見 茂

関法テニス合宿

私は40歳代から硬式テニスを始め、約2年



18期  
山下 潔

後にレッスンを受けた。初回のレッスンは後にゲームをする調子が狂い、レッスンは1回のみで後は我流テニスでした。私は関西法曹テニスクラブ員ですが、関法では毎年秋に合宿があり、この10年ほど私は皆勤です。この間ずっとUコーチが合宿での指導を下さっています。土曜の午後から翌日夕方までは練習、夕食時も話題はテニス、夕食後は一室に集ってテニスゼミ。ゼミでは各人の欠点が指摘されたりし、指導は上達のための方針を各人に考えさせる、というものです。私にはこの「考えさせる」という点が面白く、この合宿が重要行事となっています。

9年前から国際、国内における規制緩和路線(新自由主義)を日弁連、大阪弁護士会、春秋会その他有志会員に注意を促していたが、殆ど耳を傾けていただけなかった時期がある。春秋会において「資本主義グローバルゼーション」と規制緩和の潮流における日本の司

「法」を会報に出させていただいたこと、今回の記念シンポで一つのシメができたと思う。このようなことは約20年にわたり、ぶれなく国際政治等の見地から述べてきた成果であり、また、大学、大学院において「司法制度論」を論じてきた成果でもある。



18期  
山村恒年

ひと言

18期、日弁公害環境委員長、神戸大・関西学院教授を経て現在弁護士に復帰。

皆さんにお薦めしたいこと。人生30年計画による弁護士業アセスメント。特に健康アセスメント。忙しいと情性型人生で終えることになる。人生目標をいくつか作る。その実現に向けて5ヶ年計画を作る。第1次から第6次まで。何を目的として人生を生きるのか。社会のために弁護士としてできることを目的として生きる。これが人生アセスメントのすすめ。

その意味で、弁護士生活この10年間、本当のびのび仕事をする場を与えて頂いた先輩伊多波先生や研修所同期辛島先生の配慮に心から有難く思っている次第です。



19期  
辛島 宏

山路越えて

当年66才、左右、貧富、善悪を問わず、様々な人々と共に奔走した弁護士稼業42年が夢中で過ぎてしまい、未熟で煩惱多く、学成り難いままの自分の精神年齢は少年時代のままの気がする。

しょうがない。開き直って、小学時代の日曜学校で習った「我が儘を捨てて、人々を愛し、毎日の務めを成さしめ給へや」と念じつつ、神のご加護を信じて、更に山路を淡々と歩きたい。



19期  
赤坂久雄

ひと言

金融工学の名のもとに、リスクの分散を目的とした金融商品が、意図した目的と全く逆の結果を惹起し、新しく得体の知れないリスクと不安を世界中に撒き散らし、世界の金融市場を揺るがし、ひいては、世界同時不況も現実のものとなってきた。

米国はイラクに費やした膨大な戦費を「貧しさに飢え、恐怖に脅える子供たち」に恵んだら、地に落ちた名誉を回復し、世界から尊敬を得ることであろう。



19期  
大兼利夫

我が家の柴犬

我が家に来て2年目の柴犬ヒナ(♀)は誠に



19期  
河村武信

皆さんにお薦めしたいもの

「職場」近くの東洋陶磁美術館にお運び下さい。何よりも、私の好きなものは中国の青磁。名状しがたいと言うとボキャ貧と誇られよう。しかし、深みのある青緑で淡白な味は、見ていて倦むことがない。飛青磁の花生。私はこれを真中から二つに割る。どうだ。それは見事な対称を示しているではないか。美には型がある。その一つは全き対称だと秘かに思っている。



19期  
鈴木康隆

雑感

昨年9月に麻生太郎氏が首相になりました。この首相は、就任するや、定額給付金なるものを言い出しました。要するに、国民一人あ

無愛想。名前を呼んでも全く無関心。尾っぽも振らない。処が大の卵好き。卵料理の匂いがすると、何処からかやって来て、私の膝をガリガリと掻き、私のおかずの卵料理を催促。更に大の寒がり。炬燵に入ったとき出て来ない。昔懐かしの「雪やコンコン」犬は喜び庭駆け廻り、猫は炬燵で丸くなる」の童謡の歌詞に些か疑問を感じている今日この頃である。



19期  
大沼容之

法曹41年感懐

裁判官31年、弁護士10年合計41年の法曹生活のうち、判決書きに追いまくられた重苦しい裁判官時代よりも、弁護士転身後の短い10年の方が、私にとっては中身の濃いものだったように思われます。

専業同期弁護士諸氏の仕事には勿論質量とも遠く及ばないものの、自分なりに全力投球し、成果の上った事件について、終始信頼を寄せて呉れていた依頼者や関係者から衷心感謝されるには無上の充足感を覚えます。

たり1万2千円を配るといふものです。老人と子供は割増しで2万円だそうです。その総額は2兆円、そして配る費用が実に800億円ほどかかるそうです。

もとよりこのお金のものは、国民から集めた税金です。折角集めた税金をこんな形でバラ撒くというのは、まったくの愚策といふほかありません。たしかに生活が厳しい人にとつては2万円でもないよりマシかもしれません。しかし、1回だけの2万円では、使ってしまったらそれだけのことで。やるべきことは、生活に困っている人についてみれば、少しでもその生活を支える仕組みを作ることです。税金は、そのように使われるべきです。それが政治であり、政治家の仕事です。麻生首相の定額給付金なるものは、心ある政治家にとっては、政治家であることが恥ずかしくなるような代物です。



19期  
相馬達雄

春秋会員40年

弁護士40年のうち、最初の約10年は弁護士業に専念。ついで約10年は、ある政党の衆議院議員公認候補者として、政治活動に参加。その後の約20年は再び弁護士活動に専念することになった。最初の約10年間こそ、春秋会の各種活動に参加していたが、やがて政治活動をするようになって以後、すっかり春秋会活動から御無沙汰。たゞ、会費をお支払いするのみの会員となった。大変申し訳なく思っている次第。



19期  
谷 五佐夫

戦後の大きな誤り

現今の世情で最も悲しいことの一つに、青少年の残虐な犯罪が多いということがある。振り返って見ると、戦前、戦中には、少なくとも初等教育の中で修身という道徳教育を受けた。それもあって、戦後の一時期までは少なくとも青少年の犯罪は少なかったと思う。しかし、戦後は戦中以前の教育が儒教的忠君愛国を中心とした封建的教育であり、それ

を排除する意味で道徳教育が、真剣になされないことになった。

けれども、現今の世情に思いをいたすと、道徳教育が取り上げられてよいと思う。

現在の民主主義的社会においては、それに相応した新しい社会観があつてよいし、それに相応した社会的倫理があつてよい。最も易しい言葉で青少年に人のあるべき社会的生活態度を考えさせるような科目があつてよいと思う。

人と共に生きる子孫に、未来の幸福のために人のあり方に重きを置く教育を確保してやりたいと切実に願う。



19期  
徳田 勝

泡沫会員の呓

大阪弁護士会在会40年の祝賀を受けた身であれば、春秋会50年史の5分の4相当期間、春秋会員であることになるが、顧みれば、真に泡沫会員であつたと言ふほかない。

時代が変転し、弁護士の活動領域が益々拡

大多様化し、誠に慶賀に堪えない。

私自身としては、マックススウェーバーが喝破したような「精神のない専門人、心情のない享楽人」にならないよう自戒し、勤勉であり続けたいと念じている。



19期  
福山孔市良

思いだすこと

春秋会の常任幹事をしたのも遠い昔のことのように思います。中島さんが副会長の時で、片山善夫さんの副会長選挙も今では思い出の一つです。一緒だった宮崎誠さんも今では日弁会長で春秋会も50年のうちに大きく変化したことを実感します。70歳を越えましたが、仕事を続けながらまだまだ遊びに徹したいと考えています。



19期  
三瀬 顯

亡霊とともに

夜ごと女は亡霊になって現われた。男が呼びかけるとまた、すぐ消えた。女は突然ガンで亡くなった。女は男よりずっと長生きする積りだった。60才ながら美しく、元気で無邪気だった。男は女を深く愛してきた。虚しいぞ。男は生きる力をなくしていた。孫3人がよく遊びにきてくれた。ジイジ、ジイジとあどけなく絡んでくる。すこし、生きてみるか。秋は深まる。しきりに思う。女と温泉やゴルフに、も一度行きたいな。



20期  
佐々木信行

役員選挙について

修習時代のこと。会長候補のA先生に北新

地のクラブに連れて行ってもらいました。

そこには、数名の弁護士がおられました。A先生は、立ち上がって「今日の君たちの支払いはわしのおごりにしてくれ」とおっしゃり、数名の弁護士は感謝の拍手をされました。

そのころは、会長に当選するためには家産を傾けるほどの資金が必要とこのことでした。

東京での後期修習のとき、大阪からわざわざ春秋会の幹部の方が来られ、春秋会はこちらまでの金のかかる役員選挙の弊害を改めるべく尽力をしているとの話を聞き大いに共鳴して、春秋会に入会いたしました。

春秋会も設立50周年を迎えたとのこと、最大会派として他の党派と異なる独特の綱領のもと各種委員会においても有能な会員を輩出していることは慶賀の至りであります。



20期  
辻 公雄

歴史の流れにたたずみながら

食べて遊ぶことに夢中だった幼少年期。価値観を模索しつつも自分流にやっていたころとした

青年期。理想と現実の相克にとまどいを感じた壮年期。残り少ない老年期に入り、歴史や社会の無限の広がりの中にたたずみ素粒子よりも小さく無色になる自分を感じる。

しかし、偶然生かされた人生に好きな色のエネルギーを注入しなければもったいないのかも。



20期  
西岡芳樹

近況

今年の日弁連憲法委員会委員長と人権擁護大会のシンポジウム実行委員長を兼務して、月に3〜4回は東京出張で大変でした。春秋会は結成50周年ということですが、私も来年弁護士40周年で顕彰していただけるという通知を弁護士会からいただきました。まだまだ現役と思っていたのですが、そろそろ色々考えないと老害に近づいているのかもしれない。自分の定年を決めることが、これからの課題です。



20期  
原 滋二



20期  
松井清志

春秋会50年に思う

春秋会は、人材が豊富であるといわれている。日弁連会長に中坊、鬼追、久保井の会員を選出したところは、私もそう信じていた。ところが司法改革に関連して、弁護士人口がフランス並に5万人必要であり、そのために、2010年に司法試験合格者が3000名になった。前記会長はこれに積極的に賛同したとって過言ではない。本当に人材が豊富であるかどうか宮崎会長に大いに期待したいところである。



20期  
松井千恵子

若き日の思い出

高校3年生の時、マーガレット・ミッチェルの「風と共に去りぬ」の映画を見て、その翻訳本を受験勉強そっちのけで読んだ。私は、クラーク・ゲープルの大ファンであったため、クラークが扮したレット・バトラーに恋をした。スカレットがどうして軟弱なアシユレーに恋をし、レット・バトラーの男気が解らないのか憤慨したものだ。今、そのレット・バトラーを主人公に描いた小説が全米でヒットしていると聞き、その翻訳本を読んでいるが、若き日のパッションはもうない。



20期  
安木 健

40年を振り返って

我々の業務は、大筋をつかむことが大切であるが、同時に、細部をおろそかにしてはならない(神は細部に宿る)という言葉もある。私は、細部に目を届かせる意欲を失えば、その時点で業務を止めるべきだと自分に言い聞かせてきた。幸い、現在のところ、そこまで至っていないと思う。しかし、40年を振り返ってみて、何だかつまらないことにエネルギーを使ってきたという思いがしないでもない。



21期  
大川真郎

近況

間もなく、弁護士になりすぐに春秋会に入って40年を迎えます。信じられない歳月



21期  
津乗宏通

最近 思うこと

去る7月27日(日)に研修所21期の40周年行事があった。クラス50名中、2割相当の10人が故人となっていた。我々ら、66歳の馬齢を重ね、年金を受取る年齢までも長生きが出来たものと思う。頭は多少パーでも、丈夫な身体を与えて呉れた両親に感謝するこの頃である。後は、後期高齢者の仲間入りが出来る迄、生きればと願うところです。



21期  
中山 厳雄

健全・健康をめざして。

訃報に接すると、はっとします。元気で活躍しているように見えて、実は病んでいたのだと思ひ知らされるからです。無理はいけません。身近な目標を見つけて、向き合うようにしています。何事にも興味を持ち、確かめ、休まないこと。  
<http://nakayamalaw.cocolog-nifty.com/column/>は習慣になりました。趣味も真剣がよろしい。自ずと、手順や健康管理を考えるからです。



21期  
平山正和

司法の「再改革」を

今般の「司法改革」の評価について弁護士会



21期  
三上孝孜

死刑に思う

現在、世界的に死刑廃止国は、存置国を上回っている。ヨーロッパの国々は死刑を全廃している。日本では永山事件最高裁判決以後、死刑判決は少なくなっていたが、被害者対策の強化に伴う刑罰の引上げや、光市事件最高裁判決の後、死刑判決が著しく増えている。鳩山法務大臣は、数カ月おきに死刑執行をし、新聞で「死神」と批判された。私は、死刑については、誤判があった場合、

失われた人命を回復することができないことや、人殺しを悪とする文明国が、国家の名において人を殺すことを命じることの矛盾等から、死刑は廃止するべきものだと思う。もっとも、身内が殺された場合、犯人に対する処罰感情については動揺するかもしれない。

死刑廃止については、世論の納得を得るには、その代替刑としての終身刑の新設が望ましいと思う。終身刑といっても、社会に復帰する可能性を一切奪うのは適切ではなく、恩赦等何らかの救済制度は必要だろう。

春秋会50周年、私の弁護士生活40周年にあたり、死刑制度の早期廃止を望んでいる。



21期  
宮崎 誠

日弁連で多に議論を

日弁連の会長室には多くの春秋会会員の方が何かの用事にかこつけては、顔を見に来て、やさしい言葉をかけてくださいますし、また委員会に行けば、春秋会の方が積極的に発言されています。そういう意味では、大変心強



22期  
寺沢 達夫

きのこ

最近はこのこに凝っています。奈良のあちこちの山を歩き回ってハタケシメジ、アマタケ、ヌメリイグチなどを見つけては採って食べています。スーパで売っているきのここと違って、天然物はおいしいですよ。ガンの予防にもなるというしね。先日は札幌まで行ってハナイグチやナラタケを狙ったのですが、雨が全然降らず収穫なしで残念でした。ええ、仕事はしているのって？ま、少しだけね。



22期  
戸谷 茂樹

裁判員裁判への大いなる憂慮

国民参加の美名の下、裁判員制度が始まる。

く、東京にいてもあまり孤独感を感じることはありません。

しかしながら、刑事弁護センターなどを除くと若い会員の顔が少ないように見えます。そのせいか、インターネットなど情報があふれているにもかかわらず、春秋会内の発言や行動がややローカル化しているような気がします。

もっと多くの若い会員が日弁連の委員会に参加し、多様な議論をし、それを踏まえて、大阪をひっぱり、そして全国に発信していただければと思っています。



22期  
菅 充行

国連個人通報制度の実現を目指して

国際人権(自由権)規約に付帯する選択議定書は、人権を侵害された個人が国連の人権委員会に通報して救済を求める制度を定めた条約ですが、日本は未批准のままです。大阪弁護士会の選択議定書批准推進協議会、昨年設立された日弁連の個人通報制度実現委員会な

しかし未だに不評と不安が渦巻く。これは冤罪防止の制度設計を忘れたツケである。誤判の片棒を担ぐのはご免蒙りたいのが国民感情だ。この不安をそのままに参加を強要するのは愚作。可視化と全面開示が無のまま、簡易迅速のみを看板にするなら、冤罪防止に役立つ、拙速な裁判に堕する。我が国で、全面的可視化と開示、弁護人立合権が実現するのは、失敗を覚った後のことになろう。



22期  
山田 庸男

弁護士の将来についての雑感

いつの間にか、ベテランと呼ばれるようになったが、内心は未だに青春真っ只中である。最近、法曹人口増への不満が強く、弁護士の将来について不安感や閉塞感が噴き出している。根底には、訴訟中心の伝統的な弁護士像にこだわるのか、それとも司法改革が目指す社会の様々な領域に進出する「社会生活上の医師」としての転換を目指すのか、弁護士の将来像に対する見方の相違の対立のように思

どを通じて批准のための活動を続けていますが、すでに18年余りが経過してしまいました。あまり高齢にならないうちに批准を実現したいと願っているこの頃です。



22期  
寺沢 勝子

山歩き、里歩き

週末、春は花と山菜を求め、夏は花と涼を求め、秋はきのこを求めて山歩き、里歩きにいそんでいます。ササユリに注目してからは、奈良県にはこんなにも自生のササユリがあちこちの低山にあるのかと驚くほど、沢山見つけました。きのこも見つけ上手になったのか、関西にはあまりきこの好きがないおかげか、沢山見つけて、味を楽しむことができています。健康にもいいので続けたいと思っています。



23期  
井上 善雄

「ひと言」への「ふた言」

会派を親しい者の交際団体とすると各会派共その役を果たせない。政策集団としての会派は弁護士会運営の一「下請け」はできるも、テーマにより内部に厳しい意見対立を抱える。これは交流誌でも「解消」できない。会派誌よりも弁護士レベルでの顔写真付の「自己紹介」が欲しいが、個人情報開示の壁があるのでしよう。弁護士職業域と会派の視点にとらわれたくない「古手」で、任を荷えぬ(わぬ?)こと御免下さい。



23期  
浦 功

私は1971年に弁護士登録をしました  
が、当時、会派とは何をするのか全くわから  
ないまま、上坂明先生に勧められてすぐに春  
秋会に入会しました。私は1993年に政策  
委員会の委員長を命ぜられて、1994年版  
の政策集を発刊したことがあります。それ  
以外は、春秋会の会員といっても名ばかりで、  
実質的な活動はほとんどしておりません。し  
かし、それでも私は、春秋会の一員であって  
よかつたと思っています。それは、春秋会の  
皆さんの各分野での御活躍が、私にとつてと  
ても刺激的だったからです。



23期  
大江洋一

春秋会は「戦後民主主義」の申し子である。



23期  
野村正義

しの所属となりました。東京三会からみて地  
方会いわゆる大阪弁護士会の一派派にすぎない  
春秋会ですが、日弁連活動のなかでも、顕著  
かつ画期的な役割を果たしてきたと考えます。  
それは、春秋会の私的ではなく、公的たろ  
うとする透明かつ公正な立場の維持と継続に  
あります。そして、大阪会も巨大な組織となっ  
た現在、春秋会にとって大切にしなければな  
らないのは、会員同士の「人としてのつながり」  
を全ての活動のなかで、紡ぎだすことでしょ  
う。とりわけて、若手会員への様々な支援を  
一つの柱にすることが必要ではないでしょう  
か。私もそうした活動と「人の輪」に参加した  
いと考えています。

近況

近頃変わったことは、母が亡くなり、孫が  
誕生したことである。孫はまだ話しができな  
いが、様子を見ているだけであきない。  
車の運転が億劫になりゴルフをやめ、ウ



23期  
大槻 守

私達の世代の会員にとってその点は自明とい  
える。50年を経過し、その認識はもはや共通  
基盤とはいえず、時代の変化に即して変えな  
ければならないであろう。しかし、春秋会で  
ある以上、変えてはならないものもある。その  
点を見据えつつ「司法改革」における成果と傷  
跡に学び、寛容さを運営の基本に据えて、相  
互の理解を深めることがいま求められている。  
あらたな発展を期待します。

一言

昨年1月から、自宅を事務所として、のん  
びりとした弁護士生活を送っています。お蔭  
で、テニス、囲碁、蕎麦打ちの腕前は、上達  
したようです。



24期  
赤澤博之

オーキングを始めた。  
人生いろいろで、周りの景色が変わってく  
る。これからどうなることか、なるべく健康  
で、平穩に過ごしたいものである。

堺の地ではや36年が過ぎ、25期の相棒との

2人の共同事務所も25年を経過しました。  
次々と新法ができるため、なかなかこれに  
追いつけず、長年培った勘に頼っての事件処  
理に追われている毎日。月イチのゴルフと月  
イチの囲碁で気分を紛わせ、それでも1日の  
経つのが早いこと。とにかく身体が動き、忘  
れっぽくなった脳もまだ回転している限り、  
今しばらくは弁護士活動に精を出そうと思う  
この頃です。



23期  
桐山 剛

天才の軌跡

いずみホールでベートーヴェンの弦楽四重  
奏曲全曲演奏会が進行中である。

ベートーヴェンは、生涯に16曲の弦楽四重奏  
曲を作曲したが、ピアノ・ソナタと同様、青  
年期から晩年に至るまで作曲されているので、  
天才の軌跡をたどるには格好の分野である。  
「ラズモフスキー」のような脂の乗りきった  
中期の作品もすばらしいが、何と言っても真  
打ちは、晩年の作品である。



23期  
豊川義明

透明、公正な会派、

春秋会の強化点は「人のつながり」

春秋会半世紀の歩みのなかで、私も39年少



24期  
井上二郎

我流自己紹介

好きな人物 石橋湛山

1920年代、列強が植民地拡張に奔走し  
ていた、あの時代に、「日本は植民地を捨てよ」  
と、徹底した平和主義に立って、政府・軍部  
批判の論陣を張った硬骨のジャーナリスト  
政治的信条  
小選挙区制と2大政党制には反対。選挙民  
の選択の幅を狭めてしまう。そればかりか、  
「大政翼賛会」(1940年、近衛内閣のもと  
「聖戦」に向けて作られた「挙国一致」体制)復  
活の危惧さえ感じる。



24期  
蒲田豊彦

雑句十句

結界の青竹も焼くどんだかな

鈍色の湖に降り込む春の雪  
葦の丈越え焔立つ野焼かな  
葦芽の水の中なるまくれなる  
一病を得て十薬の花白し  
万緑の谷にははらけ投げ放つ  
遠ざかりまた近づき来鬼やんま  
鶯鳴く宮の名水汲みをれば  
庭に干し青さの残る今年藁  
寒鯉の棒のやうなる水の底



24期  
小松英宣

光陰矢の如し

いつの間にか、紅顔の美少年も65歳になつてしまいました。

弁護士になったこと自体、周囲の人々のお陰だし、偶然だったのに、事故に出会うことなく弁護士の道をがむしゃらに走ってきたように思います。

思いおこせば、高校を卒業して、商社に入社したことも、1年遅れて夜間大学の法学部に入ったことも、私にとっては偶然でした。

春秋会へ入会したのも、故松田道夫先生の事務所でお世話になったことが理由でした。しかし、春秋会に入会してよかったと思っています。



24期  
細見利明

雑感

お人好しが弁護士になって長い年月が経過した。私のことである。その間に、裁判官の二割以上はダメなことを知り、検事は威張りたいたいで正義感がないことを知り、相手方の弁護士にもだまされることを知った。いやなことはいっぱい経験した。こうして一人前になったというわけではないが、お人好し加減が少なくなってきたことだけは事実である。果たして弁護士になってよかったのかどうかと感慨深い今日この頃です。



24期  
松森 彬

50年目の誕生日

50周年記念行事の準備に参加しました。事業の意味の議論もありましたが、「誕生日をしよう」ということで意見がまとまり、「誕生日祝い」の内容が、式典、講演、シンポジウム、ゴルフ、記念誌など、次々と決まりました。弁護士会の選挙のあり方がおかしいと思った若い弁護士が春秋会を作りました。おかしなことに取り組む法律家らしい精神は、その後、形を変えても、結構、引き継がれてきた気がしますが、どうでしょうか。



24期  
丸山哲男

今こそ新自由主義にNOを！

米国発の金融危機は、世界同時不況という

経済危機に発展しつつある。この元兇は、自由な競争と市場の動向に経済を委ねるのが唯一最善の社会システムであるとする新自由主義にある。それは、資本主義が基盤とする人間のエゴイズムを暴走させる危険を孕んでいた。わが国でも、新自由主義に基づく規制緩和が人間性を押しつぶし、社会格差を拡大すると共に、医療・福祉・年金をはじめ、労働や環境など「社会生活上の相互扶助的な共同部分」をバラバラに打ち砕きつつある。今こそ新自由主義にNOをつきつけ、失われた「社会の共同性」を再構築する必要がある。



25期  
井上 啓

近況、雑感

永年、弁護士生活を送っていますが、日々の生活は、登録時と殆ど変化のない毎日であります。

青春時代の18才頃より、50年間、最低週3回、約1時間30分位の軽いジョギングを現在も継続中であります。ただ、歳を取るに従い、

走る速度は段々と遅くなり、現在では時速約7km程度となりました。

人より、老人になればジョギングよりも散歩の方が最適であるとの助言を多数頂きました。しかし、私は、散歩は、あくまでも機能回復のためのリハビリの一種であると思いつ、走ることが出来るならば、遅くあっても走れるならば走った方が心肺機能を高め、且つ、骨髄にも活性を促すと思いつ、継続しているのであります。

生ある限り、一日でも元気で朗らかに天寿を全うしたいと願っています。ただし、私の全く独善・私見であるので、誰様も真似をなさらないようお願いいたします。



25期  
金子武嗣

時代の感覚・春秋会50周年によせて

今年還暦をむかえました。団塊の世代です。9月13日(土)に、故郷の富山市で48年ぶりに小学校の同窓会があり55名中30名ほどが集まりました。当時の思い出を語り合い一晩余韻

にひたりました。思い出というのは不思議なものです。小学生にタイムスリップしたような不思議な時間を過ごしました。春秋会が結成されたのはその時代でした。

世界はちがってどこかで繋がっているように：時代の感覚は同じなのでしょうが？



25期  
松丸 正

過労死した人のながせなかった涙を力に

弁護士になって35年余り、気がつけば手持ちの事件は殆ど過労死・過労自殺の労災認定と損害賠償請求の事件ばかり。やりたい事件だけを「せいたく」な思いで仕事をしてきた結果に納得している。これからも、遺族の涙のために、いやそれ以上に涙さえながすことができないまま理不尽な死に至った働く人の思いを大切にして仕事を続けられれば幸いです。



25期  
吉岡良治

春秋会50周年「還暦記念お稽古事始」

還暦を記念してルネッサンス・リユートを始めました。お師匠さんは息子ぐらいの年齢の方で、ほめ上手の雰囲気の中で、月一回のお稽古も楽しくやっています。

楽器と音楽を実体験しながらルネッサンス文化にあやかると、全く予想もしませんでした。モダン楽器に比べて音は狂いやすく、譜面は五線譜ではなく6本の弦を示した線で左指をいつ押さえるのかを示しただけのもので、慣れるまでそれなりの時間がかかりました。

それにしても名手にかかる音色は絶品です。疲れきった頭には、音そのものが癒し系です。2声、3声の音が調和を求めて動きまわりますので、それも癒し系です。ダ・ビンチやミケランジェロはもちろんエリザベス1世までも弾いていたのですから、当時、万人に愛された楽器であることは間違いないでしょう。指先がいつまで動くかわかりませんが、弾けるかぎり続けたいと思っています。



26期  
大野町子

土を掘りたい

変われるものなら、考古学をやりたいと思っています。

出雲の荒神谷遺跡から358本の刀剣が出て、数年前大阪美術館にずらりと展示された刀剣や銅鐸を見たときは、涙が出るほど感激しました。幸い、島根大学に知人がいて案内してくれ、現地を直に見ることができました。今年の秋も、あきもせず行ってきました。奈良はもちろんですが、私が住んでいる高槻市には、継体天皇の墳丘(今塚古墳)があり、散歩していた通路1メートル下から弥生式土器が大量に発掘されたり、こんなロマンはありません。



26期  
川窪仁帥

雑感

今頃、〃元気で長生きして人生を楽しむ〃というのが第一かなと実感しています。でも現実は病や金銭など障害物レースです。免疫力を高めるにはミトコンドリアの活性化を、その為に良い食物と良い息をすることというのが得られた結論です。うまいものを食べ、うまい酒を飲んだまにゴルフが出来れば上等でしょう。そのうえ世の為人の為が出来れば万々歳です。春秋会には全てこなせる人がいっぱいいます。春秋会よ永遠なれと思う今頃であります。



26期  
坂和章平

二足のわらじをこれからも

たのですが、なかなか答えがでないままです。

映画評論家のわらじをはいた02年6月から6年半の間に「SHOW-HHEYシネマールム」と題する映画評論本は既に20巻となり、試写室通いも年間300本を突破。観るのも大変だがそれをすべて評論するのはもっと大変。本業の方が儲かるのになぜそんなことを？それは楽しいだけではなく勉強だから。弁護士の世界は意外と閉鎖的だが、映画の世界は無制限で学べることも無限だ。還暦を迎える09年、二足のわらじをこれからも。



26期  
津留崎直美

1ヶ月の休暇で

還暦を迎え、家族に後押しされて行った5月の人間ドック、これまでの不摂生がたたってか、出てきた検査結果は、「精密検査」「再検査」の赤字で一杯でした。それから生活が一変、節酒を含む食事規制、それに留まらず、手術、入院、自宅療養で仕事から離れての1ヶ月を過ごすことになりました。区切りの無い弁護士生活を見直すいい機会と思っ



26期  
出水順

近況等

今年、研修所終了35周年の集まりが先日箱根でありました。春秋会が50周年と聞くと自分が入った頃は若い会だったなあと思ひ出します。この間、弁護士をとりまく環境も大きく変わり、年のせいか環境のせいかわかりませんが、仕事の内容にも変化がありました。最近、普通の弁護士としての裁判や調停、倒産関係の事件をするだけでなく、法科大学院、調停委員、社外監査役、法務総合研究所国際協力部の仕事等に関わっています。



26期  
中川秀三

雑感

人並み外れた怠け者  
口だけで、動かさず  
不快を避けて生きていく  
時々気が狂ったように頑張るが  
すぐ元の木阿弥  
目的もなく、気紛れに漂ってきた  
ボーフラのように何十年と  
お粗末人生  
地獄に行くしかないの  
やむなくそこで極楽を作ろうと密かに画策している、  
でも、仏様は偉い、とんでもなく偉い、  
こんな人間でも救ってやるとのこと  
そこに胡座をかいてあと何十年か生きてみようか  
罰当たり目が！  
でも、結局引つ張ってくれてるんだな  
すべてお任せしようかな  
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏



26期  
西本 徹

「カラヤンとフルトベングラー」という本

カラヤン生誕100年ということで、音楽の世界では話題になっています。私は以前から、カラヤンに対し、余り好感を持っていませんでした。それが、標題の本を読むうち、ナチスドイツの下、カラヤンとフルトベングラーがその協力者だったらしいという程度の知識が深まり、遂には嫌悪を催すようになりました。おまけに20世紀の他の名指揮者は、どうであったか気になり出しました。読むんじゃないかった(?)。



27期  
木内道祥

50年前の世相

春秋会の誕生が1958年(昭和33年)7月

当初の理想、理念は今も健在でしょうか？小生登録35年になりました。早いものです。この「なりわい」でなにを貢献してきたか？世界恐慌の中、埋没をしながら、いまだ見えない日々を過ごしています。



27期  
平栗 勲

弁護士になって本年度で35年になる。この間弁護士として何をやってきたのだろうか？と自問自答することもある。健康上では癌などの病氣もしてきたし、仕事では刑事事件、民事事件など一通りの事件をこなしてきた。この中で貝塚ビニールハウス殺人事件は大きなエポックメイキングの事件であった。しかし僕の弁護士業での中心はやはり医療裁判であるうか。それにしても「日暮れて道なお遠し」というのが医療裁判を通じての実感である。

です。当時、私は小学5年生でした。学校の先生方が勤務評定阻止で大変だった記憶があります。総理大臣は岸信介氏でした。今から言えば、60年の日米安保条約改定を控えて「政治の時代」だったのではないかと思います。それから半世紀を経過しました。すっきり様変わりしたようですが、何が変わったのでしょうか。

27期  
斎藤 浩

人も組織も完全ということはないので、是々非々が大事ですね。春秋会もそうですし、活躍されながら事故を起したような方の評価を一律に非とせず、是の面も想起したいです。私は人権伸張のために弁護士を多く増やし、普通の職業人として社会の隅々で働いている状態をつくりたいと願っています。弁護士の初志は人権のために働きたいということですから、意見の違いはあってもわかり合える基盤を持っていると思います。

27期  
松尾直嗣

趣味三題

ひとつは映画。基本的にはアウトドア派なんです。20年ほど前から映画の世界にも入り浸っています。ふたつ目は週末ファーマー。自分が食べるものは自分で作ろうと思いつき、我が家の食糧自給率50%をめざしてがんばっています。三つ目はチェロ。いい音楽も聴くだけではない、自分でも音を出そうと習いだして6年目。頭は命令すれど体はなかなか言うことを聞かずの毎日です。



27期  
三木俊博

二ころに残る言葉

「罅ぜり合い」と「法を弄ぶ」

春秋会が50周年とのこと。私も35周年だから、もうそんなに経ったのであろう。はなは



27期  
桜井健雄

春秋会をやめない理由

私にとって「春秋会」とは何なのかを考えてみました。会派活動をしていないにもかかわらず私は春秋会を積極的にやめようと思つたことはないし、私と同じ事務所の後輩弁護士も2人春秋会に入っています。なぜだろうと思いましたが、その理由は、最近の司法改革への方針は例外として、春秋会の掲げている理念や政策についての共鳴があるからだと思います。



27期  
西枝 攻

50年、半世紀、済んでみるとあつという間。この間、高度経済成長、バブル、泡のあえない崩壊。ジグザグの50年でした。春秋会発足

だ劣等会員だが、一言でも全員から、との関係者の熱意に押されて、古くて新しく、私のころに残っている言葉を紹介して責めをふせぐこととさせていただきます。

つい最近、司法修習生時代(35年前)に読んだ角川文庫「裁判の書」…著者三宅正太郎氏(※)が懐かしくなって書店で探してみたが見当たらないので、ネット古書店で当初単行本(昭和18年出版)を入手して読み返した。三宅(大審院)判事のエッセイ集だ。

(※)当時大審院判事。後に大阪控訴院長、戦後弁護士・中労委会長。戦後一時期公職追放。

さて、そのエッセイの中に「罅ぜり合い」という一文がある。こう言っている。「裁判官と弁護士と、裁判官と関係人との間に火花を散らす白兵戦が演ぜられた頃は、裁判官の修行のためには、仕合せな時代だった」ところが、最近二十年、世上の風潮につれて、いつとはなしに訴訟関係者までが、お互いに好い子になることを競ひ、正しいことでも他人の機嫌を損ずることは口にしないのを美德とするようになったために、弁護士もよほどの事情のない限り、進んで裁判官に苦言を呈したり、抗争を挑んだりしないのを賢明なりとするようになったかに思われる」このように嘆いた上で「いやしくも恥を知り求めてやまない精進を持つ者なら、進んで事件の中に、身

を投じて罅を合ひの機会を掴まんとすることとを結んでいる。直接には当時の裁判官に向けられた言葉であるが、私には、現在の弁護士にもよく当てはまると思えて、こころ打たれた。

また、形式に墮してはならない、法律(文言)に囚われてはならない、実質を見極めよ、と繰り返し説く同氏の言葉も重い。

「法を弄ぶ」と題して、「元来、法は形式の上に立っているのだから、よほど気をつけないうり、末に走ることは当然である」(中略)「これを救うには、いつも具体的事実を睨んで、その底にある人事の葛藤を探り、その上でこれに適切なるように公式的論理をあてはめてゆかなければならない。具体的事実の香りのない抽象的論理をまづ宙に描いて、その上で空に論理を弄ぶことは、裁判の上に百害あって一利もない」と論じておられる。

残念ながらいまなお「法を弄ぶ」判決は多い。法律家として同氏の遺志を継いで歩んで行きたい。



28期  
石田 法子

春秋君。君は今年50か。ふふ、まだまだ若いなあ。

この原稿の締切日が私の誕生日。不惑40になった時はうれしかったなあ。とらわれていたものから開放された自由感で息がしやすくなった。同時に初めて「おばさん」と呼ばれた新鮮なショック。耳順50。「ああ、もうこんな歳」とげんなりしていたら、思いもよらない人から深紅の薔薇50本のプレゼント。「よし、頑張るぞ」と思った日。そしてめでたく還暦60。さて何が起ころかな。

あつ、線香60本のプレゼントはいりませんから。



27期  
渡辺 和恵

近況

弁護士生活三十余年。今日まで、夏休みなめるものを取ったことはありませんでした。取りたいと思うこともなく、ひたすら弁護士業務と社会活動に邁進してきました。昨年、大病を患い、「休息を取る」ことの重要さに気付きました。家族で旅行したり(写真)、田畑の残る住まいの近くを散歩したり、子どもの頃好きだった絵を描いたりしている今頃です。お陰で、社会の動きに付いて行けません。今、流行のスロー・ライフを学習中です。



28期  
北本 修二

感謝

大阪弁護士会入会後33年目に入り、還暦を迎えた。

これまで、無事、過ごせたことは有縁の人々のおかげである。いくつもの弁護士団や共同弁護で、優れた先輩、同年・年下の友人と共に活動することができた。多くの優秀な相手方代理人、裁判官、検察官をはじめ様々な人々から常に貴重な教えを受け、鍛えていただいた。依頼者はもちろん、相手方からも、いつも多くを学ぶことができ、感謝している。



28期  
南野 雄二

今年の山行

このとこ山登りの回数が増えました。8月



28期  
池田 啓倫

15年後を目標に

私が後期高齢者となるまで、15年間ある。それまでは現役でと言いたいが、少なくとも目標はその辺りに設定しよう。弁護士になってもう33年だから、その半分くらいを走る感じかな。

これまでの弁護士人生の中で、RCC(整理回収機構)の役員(取締役・常務執行役員)の経験は、貴重で、視野の広がりを与えてくれた。中坊・鬼迫両先生(両社長)という、弁護士界を代表する個性と社長・業務担当役員という関係で相当期間接することができたことも、私の財産となっている。

15年間現役という目標のために日々鍛錬を怠らなければ、まだ新しいことが出来そうだと、期待する日々である。

最後に、春秋会50周年おめでとう。



28期  
西出 紀彦  
ペンネーム  
リー・シャンウェイ

に御嶽3067m、西穂独標2701m、9月に蓼科山2530mに登りました。麓の駅からバスやロープウェイで標高の高い登山口まで運んでくれるので、正味登るのはせいぜい800m余り、芦屋や岡本から931mの六甲山に登るより楽チン(のはず)。しかしそこは高山。空気は薄いし、風は強いし、身体は冷えるし、雨も降る。でも蓼科では日本アルプスの大部分を見せる大展望に満足してきました。

告発の憂い

鉛色の都会の空に押しつぶされそうな感慨を抱いて上海浦東空港に降り立ったシャンウェイは、到着ロビーの人影の中に、一瞬、チャンチャンの姿を認めたような錯覚に陥った。3年前、突然、シャンウェイの前から姿を消し、そして間もなく黄浦江で死体となって発見されたチャンチャンがここにいるはずはない。しかし、あの告発の協力者であり、そして最愛の人であったチャンチャンを失ったシャン

ウェイは、今、尽きることのない(未完)

半農半弁15年

三田市に引越した時、花でも植えようかと思ひ、花壇を作りました。最初は、名前も覚えていない花を植えたのですが、翌年は、妻が朝市で買って来た茄子とミニトマトの苗を植えてみました。思いもかけない出来栄に大喜び、以来、3月お彼岸のころの夏野菜の種まきから12月末の大根の収穫まで、庭一面野菜だらけです。苗を買うことなく、種まきから始めて育てますが、発芽した苗の成長、結実を見ていると、日ごろのストレスも吹っ飛んでしまいます。

28期 橋本二三夫



28期 平野鷹子

ひとこと

近頃歳をとったせいか、わずらわしい仕事より、可愛い孫の笑顔を見ている方がずっと楽しいと思うようになりました。肩こりも、うっとうしい事件の準備書面を書いている時と比べると、重い孫を抱っこしている時の方がずっと我慢できます。

いたいけな子供たちが私のDNAを後世に伝えるリレーをしてくれると思うと、その寝顔すら神々しく見えるのです。

しかし、ふと、この子たちが大人になった頃、この世の中はいつたいていどうなっているのかと考えると、空恐ろしくなります。この子たちにどんな未来が待っているのか、少しでもましな未来を残してやるために、今何ができるのか。

と考えて、やっぱり難しいことを考えるより、孫とかくれんぼでもして遊ぼうと思う今日この頃です。



28期 藤原猛爾

絵画を読む？

海外調査の度に、フェルメールの絵を20点近くみてきた。彼の絵は、特異な所蔵歴、贋作、盗難問題など話題に事欠かない。彼の絵画のどこに魅せられるのか。美術館では、他の画家の絵も多数みたはずだが、なぜか彼の絵が心象として残っている。実は、最近になって画像解読学(イコノロジー)という興味深い学問分野があることを知った。絵画には、ある時代に生きた画家の構想が強く深く描きこまれており、それを解読する楽しみがあるという。あるひとつの時代に力強く生きる芸術は、その時代のもっとも能動的な精神の持主の観念を反映しているはずであるという。「絵を読む」ということで絵をみる楽しみがふくらんだ。

日弁連の運動の危機

間もなく裁判員裁判が実施される。裁判員裁判に対する日弁連会員の立場は日弁連をほぼ二分する。

こんな時、日弁連運動のベクトルはどうあるべきか。意見の対立する場面での問題の取り上げ方によっては、日弁連の強制加入団体としての基盤の自壊をもたらさそう。

賛否はひとまず置いて、裁判員裁判についていえば、職業的基盤であり法制度上も他にあって代われない刑事弁護の責務の徹底という観点から、会員の大方の一致点に立つ論点整理をこそ、春秋会はやるべきなんだ。

なんだか日弁連がおかしい、役所の下請けのような感がしてならないと思うのは私だけではないと思うのだが。

29期 伊賀興一



29期 岩嶋修治

春秋会50周年おめでとう！

昔は人生50年と言われたことからすると、春秋会さん、あんたも長生きやね。

でも、私は、来年生誕60年だから、春秋会さんも、まだまだやな。

あと10年経てば同い年？  
いつしよにがんばろう！



29期 小杉茂雄

25年と50年

二足の草鞋歴が25年を超えました。学生と事務所の若い弁護士さんの指導(?)をしていきますが、25年前とは、学生も、弁護士も様変わりをし、学生は、総じて謙虚さ、素直さに欠け、変な自信をもった、法学生が多くなっ



29期 水田利裕

進歩なし

40周年の記念誌を読んでみた。そこに「30周年の記念誌の自分の文章を読み返してみた。」と書いてあった。今回も同じことをしている。進歩なし。

さらに、ローマ人の物語の第7巻「悪名高き皇帝たち」はおもしろいと書いてある。今も「ローマ人の物語」をベースとした「ローマから日本が見える」という文庫本をちようど読んでいる。全く進歩なし。

10年後は、弁護士はどうか判らないが、世間は好況になっているだろうと書いてある。いまは、弁護士も世間も不景気のまったただ中。読みが甘いのは変わらず。この点でも進歩な



29期  
山口健一

し。読みの甘さをさらけ出すだけなので、今回は、10年後の予想をするのは、やめよう。  
2008年に50周年記念誌は発刊されているだろうかと書いてある。無事発刊された万歳。  
2018年に60周年記念誌は発刊されているだろうか。

春秋会に入会したのが1977年ですから、もう32年。この間記憶に残る私に取って最大の出来事は、山田選挙勝利でしょうか。20周年の記念誌に書いた、「けなげに保育所に行っている長男」も今や二児の父親。時のたつのは早いものです。

500人を超える春秋会。いざ鎌倉という時の団結力は、すばらしいものがあります。社会正義の実現と基本的人権の擁護という、弁護士法1条の実現のためにこれからも大阪弁護士会の先頭に立つ春秋会でありたいものです。



30期  
早川光俊

5度目の年男

早いもので弁護士登録してから30年。昨年3月に独立し、今年が5度目の年男です。英語ができないのに、20年間地球温暖化問題の国際交渉に関わり、参加した国連関係の会議も20を超えました。今年は、地球温暖化問題の国際交渉や微小粒子状物質(PM2.5)の環境基準の設定問題が正念場を迎え、また、ノーマア水保近畿訴訟にも参加します。これから忙しい日々が続きますが、健康に気を付けて、楽しみたいと思っています。



30期  
山川元庸

RCB(整理回収銀行)悲話

平成11年4月、RCB(整理回収機構)はR



30期  
上山勤

近頃思うこと  
体重が知らないうちに20キロ落ちて、体の中にふつふつと何か燃えている。ハングリーな心があえいでいた。あの頃にもどれたらな、30年前に。



30期  
関根幹雄

あと10年

弁護士生活30年になりました。弁護士としての仕事もあと10年位でしょうか。法曹人口(弁護士人口)3000人体制については、弁護士会としては見直しの方向で検討に入りましたが、果たしてどこまで見直しを現実化できるかは全く予断を許しません。見直しがないうまま3000人体制が継続されれば10年後

CBを、吸収合併した。ノンバンクがバンクを呑み込む世界金融史に例のない合併であった。私は平成9年からRCBの顧問弁護士(回収業務の管理職)であり、RCBに移籍した。11年3月下旬、取締役本部長から以下のとおり言い渡された。「職員は全員を、救命ボートに乗せました。山川先生の働きに、感謝しています。もう、あっち(RCC)へ、行って下さい。これは沈没前の、私の退艦命令です。」



31期  
伊藤健一

「登山」はしないけれど

山の頂を目指し、脇目も振らず懸命に登っていたのは何時ころまでだっただろう。今も、山を登っているのだけど、山頂に目をやるだけでなく、空を仰いだり、登ってきた麓を眺望したり、廻りの景観を楽しんでいる。太陽の光や吹く風、木々や草花の香りも魅力的だ。

目指す頂があるからこそ出会える人達があり、かけがえのない人たちを得ることができ



30期  
田中美春

但馬牛の歩み

おかげさまで、体力などは別として、「但馬牛」のごとく人生を歩んできたと思っています。

年輪の幅が狭く、未だに18歳の頃と体重も変わらず細木のままですが、何とか風雪に耐えながら、ほちほちと歩みを進めてきました。私の頭の歩みは前からゆっくりでしたが、年齢を重ねるごとに、更に遅くなってきた「但馬牛」です。  
疲れたときは、道端で寝ているかもしれないので、どうぞお声をかけてください。



31期  
齋藤ともよ

た。

もう少し、いや、まだまだ登っていきたいと思う。

春秋会50周年に寄せて

私にとって、今年が登録30周年、年女と大当たりの年ですが、常任幹事として春秋会50周年記念事業に関われたことが最大の収穫でした。  
20周年の記憶はほとんどなく、30と40周年の記念誌は懐かしさを感じますが、準備段階から春秋会の存在意義や求心力などについて議論しようやく迎えた50周年行事は、思い入れが大きいです。これをステップに、春秋会が人権活動を強め政策実行力のある会になることを期待したいのです。



31期  
澤田 隆

春秋会30年の感想

31期で春秋会に入会して30年になります。春秋会活動は付かず離れずというようなもので、傍観者の立場で振り返ると、会としての最盛期は中坊先生が日弁会長に就任された時で、以後行政との密接な関係でき、いろんな意味でそれまで有していた在野法曹の味が薄まっていった歴史ではないかと思えます。法曹人口問題で宮崎会長がこれまで承継してきた路線を修正するというのは、会の自己責任ともいえるでしょう。



31期  
福本富男

自己紹介

弁護士になって最初の3年は楠木圭助法律



32期  
佐古祐二

詩を書いている

約15年前から詩を書いている。あちこちの詩のイベントで朗読もしている。書き始めたきっかけは、病気の悪化であった。ちよつとばかり格好をつけさせてもらうと、趣味というのとは少し違う。真剣さを伴う。縁あって、詩マガジン「PO」という詩を中心とした文芸季刊誌の編集長をすることになって既に数年が経つ。同人誌でなく、しっかりした本だ。他に、気の合った三人組で年二回発行の「イリヤ」というのも昨年からは出している。



31期  
正木みどり

事務所勤務しました。82年に木村澤東元弁護士と市民総合を立ち上げ、93年まで一緒に居りました。その後は、一人事務所15年、名も無く貧しく現在に至っております。そろそろ還暦を迎える旧友達からは、お前は定年が無いから良いと言われますが、逆にセカンドライフのある人生を羨ましく思う今日このごろです。じり貧となる定めの個人商店、いつ、どうやって結末をつけるのやら。

最近、映画を見る機会が増えた。「夫婦50割引」が利用できる、1人1000円で済む。休日に、家族と一緒に映画を見て、日帰り温泉でゆったりして、食事をする。映画に触発された会話ははずむ。幸せを味わえます。



32期  
関戸一考

ロースクールの教員として思う

今さら「合格者を減らせ」とは残念です。修習生の質の低下の原因をロースクールにもってこることは承服できません。大量増員に加えて1年間の修習期間で就職活動に追われ実務修習に身の入らない現状で2回試験不合格者が大量にすることは当然の結果です。質を維持したければ修習期間を2年間に戻すことです。司法研修所が必要ならば、関西にもう1つ作ったらよいでしょう。そのため司法予算は増加すべきで、2割司法からの脱却は、それらを前提にして可能と考えるべきではないでしょうか。

32期  
提中良則

私が春秋会という会派に入ったのは、検事

31期  
宮地光子

昨年、ひとり息子が社会人となり、沖繩へ行ってしまいました。お正月も休みをとれず、深夜当直勤務のある過酷な労働現場なのに、喜々として働いている息子からのメールを読むと、複雑な気持ちです。血筋は争えないと思う一方で、そんな働かせられ方を何とかしないといけないと思ったり。

この複雑な気持ちは、わが日常にもそのまま当てはまるのが、辛いところです。後顧の憂いなく仕事ができるようになったので、私の帰宅時間はますます遅くなり、夫から呆れ顔で見られています。



31期  
和田誠一郎

シーズン到来!

スキーにはまってから10数年が経ちました。毎年10月頃になるとそろそろシーズンの

を辞めた後1年間程、弁護士業務を教えて頂いた久保井一匡先生から入会を勧められたからです。当時、本当は私の友人が入っていた別の会派に行こうと思っていました。

私は若い頃は、春秋会という私が入っている会のことを、ほとんど意識せずに毎日の弁護士としての仕事をただこなして行くだけでした。

こんな私が始めて春秋会のために頑張ろうと考えたのが、山田庸男先生の会長選挙の時でした。

山田先生が会長に当選された祝賀会で、私の先輩の弁護士の先生達が本当に喜ばれているのを見て「春秋会」という組織はいいなあとしみじみ思いました。

私も今後、春秋会の一員として、微力ながら精一杯尽くさせて頂きます。



32期  
段林和江

この秋、興福寺の南円堂の観音菩薩に出

会った時の感動が忘れ難く、次には清水寺へ。この観音菩薩は33年に一度しか開帳されない秘仏中の秘仏。金色の大きな観音様の指から伸びた紐に触ると、仏縁を頂けるとのこと。早速紐を握って瞑目。先日は、大阪市立美術館の三井寺展にて、秘仏の観音坐像を拝する。遅まきながら、日本に素晴らしい仏教美術があることを知り、これから、西国33カ所観音霊場巡りをしようと思う日々です。



33期 岩田研二郎

会務と介護とジム

昨年度は、弁護士会の筆頭副会長としてチーム山田という好メンバーに恵まれて会務に打ち込みました。また27年の弁護士人生の中で、西淀川大気汚染公害訴訟、国労不当労働行為事件に続いて力を注ぎ込んだ中国残留孤児国家賠償訴訟も5年をかけて解決をみましました。他方、ケアマネージャーをしている妻とともに、同居する両親の介護を続けています。10年続けているエアロビクス、ヨガによ

る身体鍛錬はアンチエイジングには効果を発揮しています。



33期 岡崎守延

テニス歴29年

弁護士1年目からテニススクールに通い始めて、今年はいよいよ29年目に突入する。「テニス歴29年」と聞けばものすごく上級者のように聞こえるが、実体はほど遠い。それというのも、週に1回だけテニススクールのレッスンを受けるだけだから、上達は端から望めない。目的はひとえに体力の維持と運動不足の解消だが、最近ではクラスの若者に圧倒されてきて、肘や膝も痛くなり、いつまで続くか不安なことである。



33期 河村利行

鍛え直そうと思っています

先日、エスカレーターでキャリアバッグが倒れ、右手首を捻挫しました。50周年の記念ゴルフは欠席できないと思い無理をしたら、悪化し、全治3か月と言われました。子供部屋の模様替えをしようと思い、2段ベッドをシングルベッドに組み替えていたら、手首の痛みでベッドの側板を足の上に落とし、左足の親指を亀裂骨折しました。反射神経が鈍っているようで、こころで、身体も精神も鍛え直さなければならぬと思っています。



33期 坂田宗彦

最近の趣味

高校生の頃まではロックに狂っていて、高

3の夏休みには広島からはるばる甲子園球場まで、当時世界的に人気のあったエマーソン・レイク&パーマーのライブを聴きに行きました。30年以上前のことでした。しばらくまえからモダンジャズを聴くことが多くなり、ピアノトリオから始まり、新主流派を経て、次第の時代をさかのぼり、今は自分が生まれる以前の50年前後のホーンをCDで楽しんでいます。それにしても50年以上も前の音がとても新鮮なことには驚きです。



33期 柿田喜代隆

現代の如來

母の老人賃貸住宅への転居に伴い、我が家に仏壇が来た。今まで、念仏をあげることはなかったのに、灯明をあげ南無阿彌陀仏(なんまいだ)と手を合わせている。煩惱具足の我こそ救済されるべきであるという親鸞の言葉が頭に浮かぶ。環境破壊、格差と貧困の問題を抱える末法のような現代にあって、世の中を変えるために取り組む人々こそ如來だと思う。



33期 森下 弘

40周年記念のときには、司法改革の胎動はあったものの、現実的には司法試験の丙案導入などの後ろ向きの動きしかなかった。しかし、この間に、不十分ながらも被疑者国選弁護制度が創設され、来年(2009年)5月からは、裁判員裁判制度がスタートする。そして、良くも悪しくも、この間の日弁連の活動を支えて来た人の多くは春秋会会員であった。次の60周年記念のときまでには、その功罪についての審判が下されていることであろう。



34期 青本悦男

ひと言

修習34期ですので、27年目に入りました。若い先生方を見ると羨ましく思う今日この



34期 出田健一

頃ですが、話をしている時々違和感を感じてしまうことがあります。これも時代の流れでしょうか。

最近思うこと

簡易・迅速な不当労働行為救済機関である大阪府労働委員会(府労委)の公益委員に大阪弁護士会会員が就任されます。私が係ってもう7年になるある事件は数年前に府労委で9割放棄されましたが、この原稿の締切日に、中央労働委員会で見事逆転勝利しました。私が心血をそそいだ事件ですから感激する反面、思うのです。制度趣旨に則りもつと早く府労委で同様の命令が出ていれば労働者の苦労はもつと報われたのに。府労委に猛省を促したい。

34期 岩永恵子

マリアちゃん

マリアちゃんが我が家に来たのは、

2006年5月3日のことです。

誕生日が2月15日だから、生後3カ月目で

我が家の一員となりました。

2人の娘は大歓迎でしたが、つれあいは最初から反対。潔癖症で、臭いや毛が飛ぶからと敬遠します。マリアちゃんは、ミニチュアシユナウザーの女の子です。活動的で愛くるしい子です。2歳6カ月になりましたが、寂しがり屋さんで、1人での留守番は苦手です。クーンクーンと鳴くので、娘たちを保育所に預けて出勤した時の「後ろ髪をひかれる切なさ」を再び味わっています。でも、家に帰ると真っ先に出迎えて、嬉しさを体全体で表現してくれる心地よさに感激もしています。マリアちゃんに癒されている毎日です。



34期 梅田章二

ビデオ編集とホームページ

どんな趣味も長続きしない私ですが、ビデオ撮影歴は20年を越えました。自然と腕前は上達するもので、最近は編集ソフトを使って15分ものなどつくっています。裁判でも映像などが多用される昨今です。もうひとつは「WSFおおさか連絡会」(WSFは世界社会フォーラム)というホームページをヤフーの無料提供版で立ち上げています。ほちほち還暦という年になりました。これからもよろしくお願ひします。



34期 中井康之

輪

1982年4月、堂島法律事務所に入所し、



34期 野仲厚治

余人の後塵を拝しつつ趣味に生きんと欲す

昭和46年3月、友新会17期故安村幸先生の門を叩く。3年余勤め、漸く54年に合格。大学同期の取りをとった。妻は、ボスの親交深き加藤幸則先生の元事務。お陰か、今は杜労士。英Oxford大学の学訓に、「男子たる者、本業外の趣味において一芸に秀ずることなく人生を全うしたと想う勿れ」とあるらしい。名言、痛く感ず。師と仰ぎし幸先生と盲人の亡父に学び、還暦を経た今、何よりも趣味に生



34期 宮崎裕二

きて人生を全うしたいと念ずる。

副会長になってしまった私

春秋会の50周年記念の年に、図らずも春秋会から推薦を受けて副会長をしていることに、不思議な縁を感じます。というのも、私をよく知っている同業者からは、異口同音に宮崎は春秋会らしくないと言われるからです。歴代の春秋会出身の副会長の皆さんを思い浮かべると、確かに私は、それらの方々と「空気」が違うような気がします。60周年のときに自分がどうなっているのか、今からとても楽しみという、超せっかちな私です。



34期 宮崎陽子

近況

今年には諸般の事情により、事務所を任せられたため、趣味も休息も吹っ飛び、旅行にも行けず、お盆休みもない夏でした。(泣)もともと、この夏は義父が亡くなったこともあり、どこかに行きたいという気力も失っていました。あと、数ヶ月、無事にご奉公を終えて主人が帰ってきたら、気合を入れて遊びに行こうと思ひます。皆様、それまでどうぞよろしくお願ひ致します。



34期 村松昭夫

ひとこと

アメリカ型大量消費社会の崩壊とそれに伴う金融危機、やむことなく続く戦争、すでに



35期 国府泰道

佐井孝和弁護士のお出

2002年8月に佐井孝和弁護士(28期)が亡くなられて6年が経ちました。弁護士などでよく御一緒させていただくとともに、郷里(正確には隣町)の先輩でもありました。

私は、今も時々、そんな佐井さんのことを思い出して、セルフコントロールに利用させてもらっています。

人前でのスピーチでいやに緊張するときがあります。そんなときに佐井さんの様子を思い出すと不思議と落ち着いて喋ることができるようです。佐井さんのスピーチは軽妙で、自

分自身で愉しんでおられました。私も「佐井さんのように」と自分に言い聞かせて、佐井さんの宴会などでのスピーチの様子を思い出すと、「時間内に喋ろう」とか「いかに要領よく話すか」といったプレッシャーから自分が解放され、話したいことを話そうという気分になれるのです。



35期  
杉本啓二

ベース配分

裁判所から弁護士会に途中入社し、振り返って思うことは、自営業であるからこそ仕事と休息の配分を自分のベースに合わせる事が難しかったことです。遊びの用事でも先に入れてしまえばいいと秘訣を教えてもらったりしましたが、なかなか実践できません。そうした中で、遠距離の出張の場合、できるだけ宿泊するようにして、ご当地巡りを楽しみました。正味の仕事時間が少なくても、仕事をしたという気持が余裕を生むようです。国内に関しては、仕事がてら、そこそこ廻ることができました。



35期  
田中茂

邯鄲夢枕

私は大正14年に大阪で生まれ、軍隊生活のほかは大阪暮らしです。昭和25年から市役所に勤め、定年をむかえました。幸いに昭和30年に司法試験に合格していましたので、弁護士としてお役に立ちたいと、昭和58年に弁護士登録をしました。

この83年の人生は、盧生が邯鄲の枕で粟飯一炊の間にみた夢の感があります。暮れてなほ、命の限り、蟬しぐれの心境です。



35期  
谷田豊一

春秋会50周年の半分の期間にあたる約25年間在籍しております。



36期  
西村健

春秋会が50年を迎えたという。私も2008年で50歳。ちなみに同期会も25周年、ついでに結婚25年でもあり、何かにつけ節目の年となっている。

40歳のときにもう3という数字を年齢の頭にもっていけないことを寂しく思ったが、しばらくして慣れてきた。今も、4という数字を頭にもっていけないことを寂しく思っているが、しばらくすると50という数字にもなれるのである。

40になったとき、人生、仕事その他に40としての責任を持たなければならぬと自覚しようとしたが、できたかどうか自信がない。今も、50にふさわしい責任を持たなければならぬと自覚しようとしているが、あまり自信がない。

節目といえば、2009年から裁判員制度が始まる。私は、1997年の自由と正義に、「刑事陪審裁判―200X年、日本で―」という原稿を書いた。2010年までに陪審裁判を実現しようとして、その場合の刑事裁判を

春秋会に所属したこと、人権委員会、刑事弁護委員会、扶助協会を経て現在、日本司法支援センターの活動に参加させていただいています。

大阪の1992年3月の当番弁護士の取り組みから2009年5月の被疑者国選の本格実施まで、17年の経過を見ると、日本の弁護士の集団の力はすごいなと思います。これからは縁の下でささやかな力を出す一人であり続けたいと念じています。



35期  
若松陽子

記念誌に、近況報告ができることを慶んでいます。今まで弁護士業務や様々なことを経験することができました。やり甲斐もありましたが現場処理に終始しがちとなったので、母校(大阪大学)の博士課程に入り、関心事を研究しました。学位論文を書き単著を出版して博士号を拝命し、大変勉強になりました。その頃、法科大学院ができ、御縁があつて関西大学の専任教授として今日までできてい

予想したものである。形こそ違うものの、司法参加が実現する。40から50の10年間の課題はこればかりといていくくらいであったが、60になったとき、どのような10年間になっているであろうか。



36期  
福田健次

生涯一弁護士

夢にも思っていなかった弁護士の生活が25年も続きました。生まれながらのトラキチは変わらず、野村克也捕手にあやかり、「生涯一弁護士」が私の目標です。これから先、まだまだ未経験のことにたくさん出くわすことになるのですが、何事にも逃げずにぶつかっていくことができらばと思う今日この頃です。それにしても、法改正がすぐ早くて、多すぎます。ついていけるかどうか不安ですが、この気持ちを忘れないようにといたところでしょうか。



36期  
長野真一郎

す。大学院入学に際しては春秋会の先生にお世話になりましたし、学位拝命時には同期の春秋会の先生方がお祝いの席を設けて下さいました。今後、少しでもお返しができるようになりたいと思っています。

近況

大学生の娘2人が下宿して喧嘩から解放されたせいなのでしょうが、昨年からは急ピアノの曲を聴くようになりました。ピアノはホコリをかぶった娘用はありますが自分では一切弾けませんし、この数十年間、音楽を聴こうなんて全く思っていなかったのです。これが結構よくて、昨年は来日したピアニストの追っかけのような真似をしました。



36期  
松田 繁三

全国証券問題研究会の執行部を担当し、証券取引被害問題に取り組んでいます。変化を求めて、今秋から、勤務弁護士を採用し、ロースクールに関与するようになりました。  
早、50歳を超え、夢としては、数年後には第1線を引いて、行きあたりばったりの旅がラスの旅ができる生活を送りたいですが、諸般の事情から許されるかどうか問題です。しかし、働き蜂で終わらず、精神的に余裕をもって充実したいと思う今日この頃です。



36期  
村本 武志

近況  
弁護士になったら、やってみたいな〜と思っていたことは、ほぼ、達成できました。い

私は、シノノケリングをするが、海の中の珊瑚の世界の大宇宙も素晴らしい。身体と海は、似ている。外から見ただけでは、気づかないが、中に入れば全く別な素晴らしい大宇宙が展開している。

37期  
池谷 博行

春秋会50周年に寄せて

50周年、おめでとございます。私は、1985年に入会して以来23年間お世話になっていますが、その間2回の常任幹事をしました。常任幹事をして、当会会員は他の会派に比べ当会に対する所属意識が薄いと感じました。その原因の一つは、他の活動が忙しいことから当会の活動に参加できない会員が多いことが考えられます。でも、他の活動が忙しいということはむしろいいことではないでしょうか。そのような会員にも、当会の活動にも参加したいと思える企画が必要だと思います。

れも、ごく「ささやかなもの」なので、それを披露することは控えさせて頂きますが、至極満足しています。もともと、人と争うことを好むタイプではないことは自覚しており、その制度や学校がいつまで存続するかは不透明な法科大学院で、机に向かう今の生活は嫌いではありません。欲を言えば、院生に教えるくてもよければもつといいのですが。



36期  
柳村 幸宏

ひと言

今、日弁連会長は宮崎誠先生で、私の出身事務所の先輩にあたります。そして今年、大阪弁護士会の副会長に、無二の親友である福田健次君が就任します。彼らお二人に迷惑はかけられないので、発言は「控え目」にすることにします。

春秋会は大きくなり過ぎました。巨大な組織は必ず腐敗し崩壊します。春秋会が壊死する前に分割(分裂ではない)すべきです。まず、政治思想を中心に「春」と「秋」に分け



37期  
加藤 安宏

30周年記念誌表紙のデザインをする暇のあった20年前が嘘のようです。ある市で某府知事に罵倒される教育委員をしています。が、小中学校の教科書選定で数ヶ月間何十冊も読むなど、結構大変です。それにしても弁護士が地方行政にもっと内側から関わってほしいです。「全ての自治体は人口3万人あたり少なくとも1名の法曹有資格者を常勤職員として採用しなければならない」という法律があれば、若手弁護士の就職難解消にも役立つと思うのですが、春秋会で考えてみませんか。



37期  
徳井 義幸

古代ロマン

先日、宮内庁管理の陵墓参考地である「御

ます。右寄りを「春会」とし、左寄りを「秋会」にします。顔も名前も知らない若い会員が多くなってきて「春」になり切れない会員たち、彼らは「早春会」とします。また、年老いて陳腐な考え方しか出来なくなった多くの人たちに「晩秋会」とします。冬には「冬眠」していただきます。

で、当職は血気盛んで、思想的には非武装中立なので、春秋会を脱会し、「盛夏」会を結成します。



36期  
山内 良治

身体と海の大宇宙

今、「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社)を読んでいる。立花隆氏がガンの闘病手記を書いているのを読んで、自分の身体を知りたくなったからだ。読みはじめて、驚くことばかり、いかに自分は身体の事を知らなかったのか、愕然とする。と同時に身体の構造と機能の精密さには、驚異と畏敬の念を感じる。まさに、身体の中の大宇宙である。

廟山古墳」の一般公開に参加してきました。仁徳陵とされる「大仙陵」の近くの前方後円墳です。仮設の橋で周濠を渡り、墳丘の裾野部分を発掘現場を見学しながら、約半周するコースです。当時の埴輪が、その形を崩しながらも並べられているのを確認することができました。そのうち車弥呼の墓かと言われている箸墓古墳も一般公開されることを期待して、古代ロマンを楽しんでいます。



37期  
山下 誠

夫婦共通の趣味

最近、離婚が急増！春秋会の皆様は大丈夫ですか。熟年離婚、嫌ですね。そこで、私は、「夫婦円満」というよりも年いってから棄てられないために、夫婦で共通の趣味を持つことにしました。私も大奥様も50歳を過ぎてからテニスを始め、一緒に(仲良く?)、コートを走り回っています。最近では、大奥様もゴルフをお始めになりました。年老いていく中で、共通の趣味を持って楽しく過ごせれば、棄て



38期  
岡村久道

られることはないと思っています。

コンピュータ関係の法律に関係したことがきっかけで、この10年の間に、インターネット関係、個人情報保護法、そして情報セキュリティ関係の「法律書」？を書きました。頻りに東京へ出かけて、迷惑メール規制、違法有害情報規制などの法整備にも関与しています。そのため、いまや「電波系弁護士」と呼ばれることを危惧しながら執務している毎日です。でも、中味はアナログで浪花節のままですので、どうか皆さま、お見捨てなく。



38期  
岡村泰郎

2008年演奏会・印象3題

○ウイーン国立歌劇場「ロベルト・デヴェリユー」IIグルペローヴァの年齢を感じさせない熱演。感動。○マリオ・プルネロ・リサイタルIIバロックに混じつてのソツリマ「アローン」。チェロ奏法の多彩さと可能性。現代音楽はライブに限る。○ベルリン・フィル&ラトルII「リュッケルトの詩による5つの歌」の広大な寂寥感、生ならではの音空間。また、ブラームス2番第4楽章の弱音超高速合奏の凄さに鳥肌が立つ。



38期  
田中義信

夢の実現に向けて

いつの間にか若手と言われなくなりました

リカに肩を並べる貧困大国になったのです。次代を担う子どもたちの貧困に対しては、緊急な対策が必要だと思います。子どもを持つ親として、また弁護士として、できることは何か考えています。

最近飲んだお酒の中でおいしかったのは、福井県松岡町田邊酒造の「氷天然」。この蔵は、あの「有名」な「黒龍」の蔵のそばにあり、小さいけれど若い兄弟2人が一所懸命頑張っています。最近、北陸の小さな酒造を回って楽しんでます。若狭の「早瀬浦」もポップなラベルとおばあちゃんが素敵です。



38期  
丹羽雅雄

ひと言

「戦争と貧困」、この事実は過去の遺物ではない。現代の国際社会においても、「テロとの戦争」と市場優位主義によって生起される「貧困」が、世界を席捲しているかのごとくである。現代の「戦争と貧困」もまた、分かちがたく結び付いており、貧困のために戦争に志願させ



38期  
増田勝久

られ、人間を殺し、自らも殺される若者達がいる。「戦争は最大の人権侵害」であり、「人権侵害と差別は戦争を生み出す」という歴史の教訓は、「すべての人々の人権」を擁護せんとする、私達弁護士の心すべき教訓でもある。

仕事に、家庭に、競馬に、日弁・大弁の委員会に、乗馬に、テニスに、最近はおースクールまで加わって、完全に劣後化してしまいました。私と同年の春秋会、決して嫌いなわけではなく、大好きなのですが。記念講演の高村薫さんも「黄金を抱いて翔べ」以来のファンなのに、前日ロンドンの裁判所へ出廷していて、残念……。写真は、フランス・トゥールーズ大学にて、法学部教授の教壇での服装を拝借したものです。



38期  
長岡麻寿恵

が、大過なく、健康で毎日仕事ができていることに感謝する日々です。最近、本業以外では、母校関西大学の校友会活動やゴルフを楽しんでいます。

また、登録当時から、「いずれば、西天満で」という夢を持っていましたが、いよいよその実現に一歩ずつ近づいており、非常に楽しみにしています。私は、自分のモットーである「全てに悔いを残さない」という信念を持ち続け、これからも体力の許す限り頑張っていきたいと思っています。

最近読んだ本で興味深かったのは、岩波新書「子どもの貧困ー日本の不平等を考える」(阿部彩著)。10年以上前にアメリカで暮らしたとき、世界の富を集めたような国でありながら、子どもと子どもを抱えた女性の貧困率が余りに高いことにショックを受けましたが、今や小泉「構造改革」の結果、日本もアメ



38期  
松尾園子

海外旅行

昨年から良く海外に出ています。昨年はベトナム、ラオス、タイ。今年はいンドの大旅行とロシアとウクライナ。アジアでは文化の精神性、ロシアではその豊かさ、最近のウクライナでは政情不安を肌で感じました。



38期  
村上久徳

捨て台詞

この職業に就いて20年余り。その間に残した財は皆無。私の子供に「弁護士は」と問えば、「儲からん仕事」と答えること必定。白状すると、この20年間は「弁護士なんか辞めたる」という台詞を吐きたいと念じ続けてきた時期と重なる。お気楽に大向こう受けする発言を連

発し、今は違う立場で過激発言を繰り返す元(?)タレント弁護士の姿を横目で見つつ、私は、先の台詞を吐く勇氣と覚悟もないまま生きて行くのでしょうか。



38期  
森 信雄

映画に魅せられて

「良質な映画は人生を豊かにする」というのが持論である。学生時代に観た数々の名作は今でも大切な想い出である。引き際の鮮やかさに惹かれた「カサブランカ」、理想を追い求める姿に感動した「スミス都へ行く」、仲間との連帯に熱くなった「同胞」等々。  
いかにDVDが普及しても、映画館でしか味わえない感動がある。高齢になっても凛とした佇まいで映画館に通いたいものである。



38期  
山崎敏彦

庭のハナミズキ

我が家の小さい庭の真ん中に、大きなハナミズキの木がある。滅多に花を付けないので、去年の春、思い切って抜くことにしたのだが、娘の「もうちょっと待って」との助命嘆願を受け入れたところ、突然、この5月、薄紅色の可愛い花を咲かせた。この秋は、来春のつぼみを付けていないのだが、今度は息子の「小鳥の餌台を置こう」との提案を受け入れたので、今後もしばらく庭の中心は、ハナミズキの木が占め続けることになった。



38期  
横山精一

「忘忙会」報告

春秋会のメンバーだけではありませんが、

10年ほど前から、数名で「忘忙会」と称し、勉強会をしています。年に3〜4回程度。勉強会にあてるとは約3時間半で、その後の飲み会は勉強会の時間を優に超えています。テーマは報告者の趣味を尊重する。歴史物(縄文時代、古墳、卑弥呼、朝鮮半島との交流、大化の改新、壬申の乱、聖徳太子、明治維新、2・26事件、太平洋戦争、東京裁判)、哲学(ヘーゲル、マルクス、レーニン、ニーチェ、マックス・ウェーバー、ハイデガー)、文学(日本書紀、万葉集、平家物語)とこだわりはない。何より、勉強の後の果てしない交流を楽しんでおります。



39期  
井奥圭介

たかが弁護士、されど弁護士

弁護士になって22年が経過しようとしている。決して「楽な商売」と思ってたわけではないが、想像していた以上に「きつい仕事」というのが率直な感想である。  
弁護士の仕事は、煎じ詰めれば、「他人の

喧嘩の肩代わり」のようなものであり、強度のストレスが伴うのは不可避であろう。それでも弁護士になろうと思う人が後を絶たないのは、やはり弁護士という職業に某かの「自由」を求めるからであり、自分もそうであった。人口増の中で、弁護士像も変容を迫られているが、弁護士というものがいつまでも魅力的な職業であって欲しいと思う。



39期  
今村峰夫



39期  
鎌田幸夫

「道」の厳しさと楽しさ

8年前の40歳過ぎから、週1〜2回竹刀を握っている。中学まで剣道部で初段を取ったが、長男が小学生1年のとき剣道クラブに入ったの

がきっかけで、26年ぶりに再開することになった。子供のころ読んだ本を大人になって読み直すとは違った味わいがあるが、剣道もそうであった。今年の初め、4段に昇段したが、その奥の深さが少しだけわかり始めたような気がする。8段範士の先生でさえ「剣道は何年やっても難しい。特に基本に忠実であることが難しい」と口癖のようにおっしゃる。何事でも「道」を極めることは遠く、厳しい。今、私が考える剣道の魅力は二つである。ひとつは、自らの未熟さや弱さを教えられることである。多少稽古を積んで自信ができて、上位者には全く通用せず、自分の打ちができないし、簡単に返されて打たれてしまう。稽古の後、面をとり汗を拭くときに自分の技量の未熟さや弱さを痛感する。ひよつとしたら俺の弁護士としての技量もこの程度ではないかなどと思ってしまうこともある。ふたつめは、捨身の心構えである。「勝ちたい、負けたくない」という気持ちがあるやると、どうしても早打ち、無駄打ちになってしまう。その気持ちを押しさえて我慢して、じっくり攻め、ここぞというときに身を捨てて打つことの大切さである。残念ながら、今の私はこのような打ち方ができる領域にはない。しかし、この2つの心構えは、今後、弁護士人生を生きていく上で活かせることのように思う。この先、何年やっても「道」を極めることはできそうにないが、体の続く限り、



39期  
木村圭二郎

「道」を歩いていくことを楽しみたいと思う。

春秋会が50周年を迎えたということである。私は、今年48歳なので年齢としては、ほぼ同じ年ということになる。かつては人生50年ということであったようであるが、組織も人間も50年も経てば来し方を振り返り、反省すべきは反省し、謙虚に、しかし前向きに進むことが求められるように思われる。



39期  
下村 泰

一句献上

一願の彼岸の鐘を一つ撞く

以上



39期  
城塚健之

労働がこれだけ大問題になるとは思っていなかった

駆け出しのころはいろんな事件に首をつこんでみましたが、人間、あれもこれもとはいかず、事務所経営上やらねばならぬ事件は別として、すっかり労働弁護士となってしまいました。それにしても、雇用流動化により格差社会が広がり、金融危機に乗じた大量首切りが横行し、「年越し派遣村」が国政を揺るがすなど、これだけ労働が大問題となるとは予想しませんでした。まったく、新自由主義構造改革の罪を思わずにはいられません。



39期  
杉本吉史

オウム真理教の被害対策に関わって

昨年、オウム真理教についての破産事件が終結し、また「オウム真理教犯罪被害者等を救済するための給付金の支給に関する法律」に基づく給付がなされ、20年にも渡った被害者支援活動にようやく終止符を打つことができました。しかし、その過程で明らかになった社会の抱える課題は未だ残されたままです。次の世代に伝えていく責任を感じつつ、日々追われる毎日です。



39期  
田島義久

この頃、思うこと

私の趣味はと聞かれて、ゴルフ、英会話、絵画鑑賞と言うことになっています。しかし、絵画鑑賞はともかく、ゴルフと英会話は困ったもので、全く思うようには上達しません。ゴルフは良いかと思うと突如崩れ、英会話は一向に進まず。英単語を思い出そうとしても該当する日本語すら思い出せないことがある始末。努力がいくら、おもしろくて、楽な趣味はありませんでしょうか。教えて下さい。

39期  
濱岡峰也

今年で弁護士23年目を迎えるが、弁護士になった頃と比べ、法制度のみならず社会経済環境の変化に戸惑いを覚える。とりわけ、弁護士大増員時代を迎え、他の「士業と比較して、我々弁護士および日弁連を含む弁護士会組織の対応の鈍さを痛感する。これも過少供給型業務独占体制の弊害という気もするが、優秀な人材が法曹を忌避することを防止するためにも、単に合格者数の増大緩和だけでなく業務対策を含む抜本的な対策が必要と思われる。



40期  
市川智

弁護士20年

弁護士になって20年。ようやくってきたと思う。最初はあらゆる法律問題を処理してきたが、最近先が読める事件しか出来ないようになってきた。年をとったということである

うか。

こんな調子で、あと10年、20年とやっているのだから。毎年毎年法律は変わっていく。それについていかななくてはと思う今日この頃である。



40期  
岩城 穰

「韓流ドラマ」の魅力

日本のTVドラマはほとんど観ることがない私だが、あることがきっかけで、「冬のソナタ」をビデオで観て以来、「韓流ドラマ」に結構はまっている。もう15本くらいは観たと思う。1話が1時間、1つのドラマが20〜60話くらいだから、300時間以上になるだろう。個人的には、最近日本のCMにも出ているチェ・ジウさんのファンで、公式ファンクラブにまで入ってしまった(ちなみに、妻はパク・ヨンハのファンである)。

ストーリーには「お決まりのパターン」もあるが、ひたむきに生き、働き、恋をする、親



40期  
中井洋恵

水野さんありがとう

私は6年間一緒にいた事務員さんをJRの列車事故で亡くしました。彼女は「30年ローンを組んだので、後30年は働いて下さいね。」などと言って、2人共いつまでも一緒にいれると思っていましたが、突然、今日の続きが明日でないことを知りました。過払いの明細開示の最高裁に、事務所全員で行くことを楽しみにしていたのに、最高裁が、彼女がこまめに明細の督促をしたと認定してくれたのが、はなむけ 餞になってしまいました。



40期  
西 晃

皆さんこんにちは。

大きな歴史の転換期に際し、足ることを知り、主体性を維持しながら日々選択し、生じた結果に責任を自覚して行きたいと思う毎日です。

いつの間にか人生50年を目前に控え、この利那に想いを込めることを心がけております。

最近とみに、体力の衰えを感じる機会が多く、心身共に健康である事の大切さをおかみしめております。

春秋会50周年おめでとうございます。日常業務のほんの些細なノウハウや教訓を皆で共有しあえるような企画を期待しております。



40期  
松田成治

春秋会かくあるべし

春秋会というものは、たとえ時と時節が変わろうとも、いつまでも、会員が自由に発言でき、各会員が自己の理念に従って行動できる会派であってほしいと思う今日この頃である。



40期  
山名邦彦

執務室からの風景

私の事務所からは堺の裁判所、市役所、社会保険事務所、税務署、郵便局などが見渡せる。堺は2006年に政令指定都市になり巨大な新庁舎が威容を放っている。裁判所も新築工事がほぼ終わって工用のシートが完全に取除かれ、新庁舎が全容を現した。予想以上の大きさである。旧庁舎はそれなりに趣



40期  
山西美明

気が付けば20年

気が付けば弁護士になって丸20年。いつまでも若手だと思っていたら、新人弁護士から見れば、相当年季が入っているとのこと。怠け者で、期日が迫るまで仕事が出来ないタイプ。「よくやってきた」というよりは、「よくやってこれたな」という評価。仲間を大切に、より一層刺激しあって、これからの10年、いよいよ「弁護士としての人生」の仕上げに入ろうっと！



40期  
吉田肇

人生50年を生き、弁護士として20年を生き、これからは弁護士、経営者、そして一人の人間として、どう生きるべきなのだろうか。自分にできることを、少しずつ楽しみながらやってゆけばいいと自分に言い聞かせるが、課題の多さと自分の無力さに自信を失うこともしょっちゅう。いつのまにか「やわらかなファシズム」にこの社会が覆われてしまわないように注意しながら、あらゆる人間の尊厳が大切にされる社会を目指したい。



41期  
青木佳史

拓く

「切り拓く」という言葉が好きです。「春秋会50年の歩み」を拝見すると、「切り拓く」とい



41期  
秋田仁志

外部監査と春秋会

10年前、外部監査が制度化され（地方自治法改正）、自治体財政のコンプライアンス制度と評価し、制度にも関与した。しかし、多くの自治体では監査法人が多くの監査人を占



41期  
秋田真志

言葉の力

マイク・ケリー。

ここ数年会った人の中で、最もインパクトを受けた人物である。

彼は、全米法廷技術研究所 (National Institute for Trial Advocacy NITIA) の講師の一人である。日弁連、そして大阪弁護士会が、裁判員裁判の研修のために招いた。カリフォルニアで2007年スーパーロイヤーに選ばれた強者である。

彼は、とにかく人を惹きつける。言葉で惹きつける。態度で惹きつける。目で惹きつける。リズムで惹きつける。アクセントで惹きつけ



41期  
岩城裕

近況と雑感

平成21年1月から事務所の弁護士が増えることになり、年末に事務所を改装した。これにもなって10年以上積み上げていた事件記録を整理せざるをえなくなり、記録を眺めてしばし感慨にふけた。事件数は多い方ではなく、忙しい同期の半分くらいではないかと思うが、それでも結構な数の事件があった。どの事件でも手を抜いた形跡がなく、我ながらえらいもんだと思った。今後も同じように

め、小さな自治体、民営化を求めることに、違和感を感じていた。昨年、デヴィッド・ハーヴェイ著「新自由主義—その歴史的展開と現在—」を読んで、遅まきながら違和感の意味に気づき、春秋会50周年の今年も気持ちのゆらぎを感じています。

る。彼の話は何度も聞いた。毎回同じ話のずなのに、なぜか毎回感動する。そこには言葉の力がある。生の声の力がある。生の話の力がある。無名だった黒人バラク・オバマを大統領に押し上げたのも同じ力であろう。さて、裁判員裁判で、私たちは、言葉の力を駆使することができるだろうか。 Yes, We can!



41期  
黒瀬英昭

やっていきたいと思っている。

20年で身についたものは

春秋会50周年おめでとうございます。私は弁護士20年目になりますが、私が弁護士となったときの20年目の諸先輩の域にはまだまだ及ばないと思われまます。確実に身についたのは体重位ですが、これは失わなければならない(削らなければならない)ものです。月日のたつのは早いですね。



41期  
佐井利信

弁護士へのアクセス

最近、知り合いの弁護士幾人かを、その事



41期  
巽昌章

近況

1年かけて600枚ほどの推理小説を書き上げました。雑誌連載なので毎回の締め切りに追われてずいぶん苦労しましたが、さて、単行本にしてくれるでしょうか。思えば、私のボスであった故豊川正明先生も、陪審関係の翻訳書や『事例研究 誤判』などのセラ直しで四苦八苦しておられたので、なんだか因縁を感じるこのごろです。



41期  
田中厚

人生の嵐の後の夏休み(川柳)

平成元年登録後、著名事件(信楽事件、雪印事件、マンション・シックハウス集団訴訟事件等)も含め連戦連勝、青法協大阪支部事

務所に訪ねる機会があった。その時、ふと気付いたこと。近頃では、入口扉がガラス張りのオフィス風事務所も見られるが、大半は重々しい鉄製扉である。これが入りにくいのだ。事務所の主(あるじ)は、仲の良い気の置けない間柄の弁護士。だが、いきなり開けて良いものかどうか迷ってしまう。かといって、ノックをするには硬そうだ。

弁護士の私でさえこうなのだから、心に悩みを抱えた一般の人(潜在的依頼者)は尚更だろう。弁護士事務所は、敷居が高いのではなく、扉が重くて硬いのだ。せめてインターホンでも付けるしかなさそうである。



41期  
財前昌和

近況報告

2004年から法科大学院で刑事系の科目を教えている。春学期3コマ、秋学期5コマなので、授業だけで1週間のうち1日ないし2日が潰れる。これまで刑事弁護は比較的やってきたつもりだったので、準備にそれ程

時間を取られないだろうと高をくくっていたが、始めてみるといかに知らないことが多いかを痛感しつつ放しである。結局、自分自身が刑事法を学び直す羽目になっている。せめて弁護活動の成果につなげたいと思っている。



41期  
竹橋正明

ひとこと

春秋会の誕生と私の生まれ年は、偶然同じということ縁を感じながらも、会派から遠ざかって暫くになります。常任幹事や広報委員長に就いたこともあるのですがね。近況はといいますと、元来不器用な生き方しかできず、損な役回りでも誰かがしなければと受けてしまつて(かといつて、利にさとい人を羨ましくは思っておりませんが)、ある法科大学院の研究科長となり「てんやわんや」となっております。これでは春秋会への足は遠のく一方ですが、60周年のときには、春秋会との係わりのあるひとことが書けるようになっておればと思っております。



41期  
七尾聡

肉離れ

2、3年前にふくらはぎの肉離れを経験しました。それ以来、何の脈絡も無く、突然にふくらはぎがつる様になってしまいました。普通に歩いているだけでも、寝ころんでいる時でも、つります。結構な痛みが突然にやってくるので、恐怖です。今も、気がつけば、自分のふくらはぎを揉んでいます。明らかに他の筋肉よりも硬いと言うか、柔軟性がありません。やばいかも…



41期  
日高清司

思うこと

つい最近登録20年目の同期会がありました。この間、日々雑多な事件を処理し、最近では会務(修習委員・消費者保護委員長)も担当し、何とか無事に過ごしてきました。一方周囲を見渡すと、仕事で扱う事件だけではなく、身近なところでも波瀾万丈、人生色々。少し遠目で見ても、この業界の今後はどうなるの?まだ小さい子供らの寝顔を見て、大きくなるまでもう少し頑張ろうかあ、と思う今日この頃です。



41期  
平野恵稔

40周年の記念誌を見ました。意外にも法曹人口問題など現在の議論かと思うようなこ

とが書かれています。この10年では大きく変わらなかったのかもしれませんが、その兆しには事欠きません。訴訟は迅速になり、法科大学院ができ、裁判員制度も始まります。人口問題では就職難が始まり、一方企業内弁護士など多様な進路が開けました。激変後の60周年には、弁護士が今以上に誇り高いプロフェッショナルとして残っていますように。



41期  
細見孝二

私こと、この度事務所を開設いたしました。旧事務所の居心地のよさに月日の経つのも忘れ、浦島太郎状態で20年間もお世話になってしまいました。そしてめでたく旧事務所の皆様に暖かく送り出してくださいました。鶴に变身しないように頑張ります。事務所名は「扶桑共栄」です。因果関係はないのですが、前の事務所が「みずほ総合」ですので、同じ意味となりますね。思考回路が旧事務所で作られたでしょう。皆様宜しくお願い致します。



41期  
松本七哉

新自由主義の終焉

1、世界的な経済危機のなかで、私たちをとりまく状況は、大きく変化をする兆しを示しています。労働事件にしても、借金の相談にしても、生活保護等の問題にしても、私たちがかわる様々な分野で、どうしようもないような危機的状況と、それを何とかしようというたまたかに光があたりかけているように思われます。まさに、新自由主義が終焉を迎えつつあり、その大きな激動に、弁護士として、当事者としてかわることができていくという実感を感じることができ、弁護士冥利につきると思えます。  
2、それにしても、いまだに新自由主義を乗り越えることができていないのが、司法の分野ではないでしょうか。私たちの足元で、法曹人口の問題等で、規制緩和が進められようとしています。遅れてスタートしたので、転換点も遅れてくるのかな。これからだんだん現実面に直面して、他の分野の新自由主義的改革のように綻びが、国民に見えてくるのか



41期  
茂木鉄平

もしれません。それにしても、問題は簡単な洞察力や情勢判断能力にありました。また、特殊な分野の問題を国民に理解してもらうことは困難なことです。しかし、それをリードすべき弁護士が、ミスリードをしたり、その役割を果たせなかったことは、反省すべきです。他の分野同様、地獄を見てから反転攻勢でしょうか。

奇しくも春秋会50周年記念行事の当日に50歳の誕生日を迎えたのですが、その週は、ブエノスアイレスで行われたIBA（国際法曹協会）の年次大会に参加していたため、春秋行事に参加できませんでした。代わりに、当日は世界3大瀑布の一つであるイグアスの滝を訪れ、滝にうたれながら（冗談ではなくポイントツアードで滝壺まで連れて行かれ、ぐしょぬれになった）二人半世紀の生き方を振り返っていました。



41期  
吉田之計

西天満の住民として

西天満に引っ越してきて8年になる。西天満小学校に娘が転入したため、西天満小学校のPTAとして西天満の行事に参加することが多くなった。毎年西天満小学校の男子児童から天神祭の神童が選ばれる。娘の同級生の男子も神童に選ばれた。そして西天満小学校の父兄の多くが天神祭に奉仕していることから、僕もこの数年天神祭の陸渡御と舟渡御に西天満の講である神鉾講の奉供人として参加している。老松通りは大阪天満宮の参道であるため、講は大阪天満宮を出発すると老松通りを西行する。陸渡御中も仕事の手を止めない方が多いと思うが、一休みして3時半ころ老松通りにお越しいただき陸渡御をご高覧いただければ幸いである。



41期  
吉田義弘

和事仲間募集中!

3年前から日舞を趣味で始めた。動機は、晩年に備え身体を動かす必要、海外でのレセプションに着物を着てみたい、であった。優雅な外観とは裏腹に、中腰のままゆったりと動くのは結構キツイ。ただ、まったく別次元の空間と音の中で汗を流すと、不思議と元気になる。ハマったついでに着物で写真名刺（この写真）まで作ってしまった。将来は着物で仕事したいとまで思っている。「変」がつくようになったら、春秋会の方々から御忠言いただけるかと信じています。



42期  
赤津加奈美



42期  
加藤高志

最近思うこと

弁護士になって20年。50歳を目前に控えながら、人間として、弁護士として、「向上したなあ」という実感が沸きません。また、「弁護士に飽きた」という気持ちはないものの、益々わがままになり、「興味のあることしかやらない」「嫌なことはしない」「やらなくてもいい仕事はしない(当たり前か)」という意識がどんどん強くなっていきます。それゆえ開き直って、今後はこの「わがまま」を「発展」させ、「自分のテーマ」を明確にして過ごしたいと思えます。



42期  
岸本由起子

50周年に寄せて  
春秋会の幹事は、何回か務めさせていただ

いたのですが、幹事会もさぼってばかりで、役にたたない会員で申し訳ない次第です。

50周年にひとことを寄せられるようなことを何もしておらず、恥ずかしいので、ひっそり、静かに、身を潜めていたところ、赤津さんから原稿の督促を受けて、かえって、迷惑をかけてしまったのでした。

子どもらの手が離れたら「お礼奉公をしよう」と思っているうち、いつのまにか、長年月が過ぎました。いつまでたっても、お礼奉公できる余裕がないのでした。今日やらないことは、明日もできないのだなあ、余裕ができてからできることはないのだなあ、と妙に、感心し、納得しています。

子育て真っ最中のみなさんには、「子育ては一時期だから大丈夫」なんて、助言は、とてもできないのですが、落第生の経験を提供しつつ、お力になればなあ、とは思っております。平凡で普通の生活ができる弁護士の世界であってほしい、と願っておりますが、これからの50年には、正直、暗い気持ちです。弁護士の世界だけでなく、日本・世界全体の50年先も。

春秋会の100周年まで、生きているのでしょうか。ちなみに私の祖母は100歳まで生きたので、もしかしたら、と思うと、むしろ、怖かったりします。



42期  
村田浩治

「生活と労働」をこれからもテーマに

春秋会には、弁護士登録以来、不義理の連続でした。最初の年の旅行企画と結婚式の日程がぶつかり、同期のほとんどの会員を招待して企画をつぶし、その後も殆ど参加していませんでした。非協力で無関心な会員でしたが、2008年人権大会で「労働と貧困」シンポの実行委員となり、会の企画で報告もしました。過労死、保育所、派遣、登録以来と取り組んできた「労働と生活」問題で、今後は弁護士会活動にも積極的に関わりたいものです。



42期  
雪田樹理

近況報告

2002年に女性共同法律事務所を開設し

春秋会の先輩のみなさんも、50年前には、不安を抱えながらも、勇気を持って、それぞれの局面を切り開いて、生き抜いてこられたのでしよう。

殺伐とした、生き残り競争ではなく、助け合い、支えあう弁護士の世界としての春秋会を築くことができたらいいなあ、そんなお礼奉公を夢見て、筆を置きます。

かなちゃん、迷惑かけちゃって、ごめんね。そして、ありがとう。みなさん、これからもよろしくお願ひします。



42期  
長添 節

20年目の雑感

社会という座標の中で自分が佇んでいる地点は全く変わらず何らの進歩もないのに、20年の間に座標軸自体が動いてしまったというのが実感である。大きな変動があったのは体重だけである。恥ずかしいかぎりである。これからの時代は、弱者ベース、飢餓ベースの

て以後、主にDVや性暴力などの被害を受けた女性の事件に追われる日々を過ごしています。2年前に体調を崩してからは、健康を保ちつつ、絶えることのない被害と立ち向かえるように気をつけて、毎日を過ごしています。と言いながらも、最近「女性に対する暴力」を中心に、国際的な人権活動にも足を伸ばしています。事件での経験を、広く立法や施策につなげていきたいものです。



43期  
浦川義輝

一言

私の現在の春秋会との関わり合いは、会費を支払う、選挙の時に可能な限り春秋会の候補に投票する、ネットを覗く、といったところでしょうか。

司法改革の嵐の中、自分にできることは、小さい舟を必死で漕ぎ続けること位だし、その結果は引き受けるしかないと感じています。

制度設計が中心になると言われる。レヴィナス風に言えば、弁護士という生業についた時点で社会に対して有責である。その責任を果たせるかどうかこれがこれからの課題である。



42期  
峯本耕治

50周年おめでとうございます。この5年ほど春秋会の活動からは、完全に御無沙汰してしまっていて申し訳ありません。最近、趣味では、懲りずにラグビーをやっているのですが、試合をする度に重い怪我をしてしまい年齢を感じています。仕事では、事件活動に加え、子どもの権利の関係で児童虐待や学校教育の問題にどっぷりとはまってしまいバタバタの毎日を送っていますが、何とか楽しくやっています。今後よろしく御願ひします。



43期  
菊元成典

あと20年くらい一緒によろしく

春秋会50周年の年、私もなんとほぼ（人生）50周年です。

で、共に70周年を迎えるくらいまで、春秋会の皆様、よろしくお願ひ致します。

私にとっては、事務所メンバーと同じくらい頼りにしている同業者集団ですので（70才でこの仕事をしている自分は想像しにくいのですが、沖繩への春秋会旅行にも一緒に行った愛娘（写真ご参照）がまだ5才なのであと20年は頑張らないといけないのです）。

43期

桐山昌己

ウチの新人をよろしくお願ひします。

桐山昌己（43期）です。当事務所は約7年間、弁護士1名、事務局2名の固定スタッフで執務してましたが、今年から、新61期の山元真

里弁護士が加入しました。

独立して10年余り、事務所の事件内容も偏りが生じつつありますので、春秋会の皆さんからも、是非いろいろ教えてあげていただけますようお願いいたします。

今後ともよろしくお願ひします。



43期  
青海利之

近況―春秋会よりは若いから

昭和37年生まれの際は、小さな文字を見るのが辛くなってきましたが、春秋会よりは4年程、後を歩いています。

ここ数年は、天気のよい週末には30分〜1時間ジョギングをしています。最低何分続けたか、欠かさずとかいったノルマ感を持たないのがよいのか、案外長続きし、ここ1年は、走った後に筋肉が張ることも、関節が痛くなることもなくなっています。

43期  
妹尾純充

私は、春秋会に属してはいるものの、会派としての事業や会合には、新人の際の研修旅行に参加した記憶があるくらいで、ほとんど参加していません。ですので、一言を...といわれても、困ってしまうというのが正直な感想です。ただ、当初、各種委員会の会派割り当てで、いくつかの委員会に所属させていただいたことは有り難かったと思っています。短いですが、当会の今後の発展を期待しております。



43期  
谷 英樹

登録10年目の2001年、春秋会の会報に次のように書いていたことを発見しました。

「これからの10年間で実現したいこと

弁護士の数が増え、地方にも弁護士を配置するような弁護士会の政策を推進して、法的

サービスが市民全体にあまねくいきわたるよう

にすること。  
弁護士業務を含む司法サービスを大きくして、法による紛争解決をいき渡せること。

弁護士からの任官を進め、裁判官制度を改革して、官僚司法を打破すること。」

これらの課題は実現に向けて大いに進展しましたが、道半ばです。今後もこれらの課題を追求したいと思います。



43期  
中 紀人

常幹の思い出

中山巖雄筆頭常幹のもと、平成6年度の常幹を務めました。当時から人数増員問題が問題となっていました。常幹の仕事も今振り返るとのんびりしておりました。末席庶務として、お役に立つこともできませんでした。個性の異なる中山巖雄、金子武嗣、水田利裕、高橋典明の各常幹の議論や事務の進め方を近くで勉強させて頂いたことは、得難い経験で

した。また、平成7年3月に常幹全員でオーストラリアに打上げ旅行したことも、忘れられない思い出です。



43期  
宮下尚幸

近況

43期の宮下尚幸です。はばたき総合法律事務所に所属しています。近年、会派活動にはほとんど参加していません。私のことを知らない方が多いかと存じますが、どうかお見知りおき下さい。健康が気になる年頃に差し掛かってきたので、最近、テニスで運動不足の解消を図っています。ストレスの解消にも良いので、まだまだ未熟ながらも、このところかなりはまっています。



44期  
井上洋子

もしも生まれ変わるなら

生まれ変わるなら樹になりたい。望むらくは梅檀の木がよい。花のあわい芳香、薄紫の小さい花々、薄い緑色の葉がひそやかに上品である。丸く広がる枝ぶりが大らかで、たまたまづまいが優しい。5月に花をつけた梅檀は、風に揺れ、光に優しく輝き、とても美しい。梅檀に限らず、木は存在を誇示せず佇むだけ、しかし、風を表し、鳥を休ませ、虫を養い、人を憩わせる。そんな生き方に憧れる。



44期  
斎藤英樹

最近思うこと

弁護士になって早いもので16年、事務所独立から8年が経ちました。毎年新しい会員が



44期  
松本 徹

近況報告

春秋会50周年おめでとうございます。私の近況報告ですが、来年が独立開業して10年の節目の年となること、今年からゴルフクラブのメンバーとなりゴルフにすっかりはまってしまったこと、40歳から毎年1回トライアスロンのロングディスタンスのレースに参加していたのに今年はスキーで膝の靭帯を損傷したため初めてレースに欠場したこと、等々でしょうか。最後になりましたが、春秋会の更なるご発展を祈念しています。



44期  
松本康之

春秋のある話

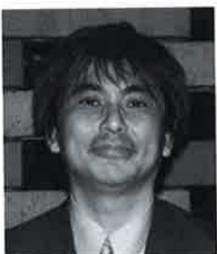
犬を2匹飼っています。朝晩、犬と散歩をしています。近くに大学があり、散歩の通り道、高台からは、グラウンド、校舎、それから遙か遠くに大阪の町並みが一望できます。春夏秋冬晴れの日も雨の日も雪の日も2匹の犬と高台から遠くを眺めます。別に何を考えるわけでもなく、眺めて、家に帰ります。特にお勧めするほどのことではありませんが、なかなかいいものです。



44期  
湯川健司

メタボな私

私は、着る物に頓着がなく、既に登録から16年を過ぎているにもかかわらず、修習生



45期  
江野尻正明

座右の銘

子どものころから、多読・濫読・速読であった。和漢洋の古典も好きで多くの名著を読んできた。しかし、深く味わう読み方をしないため、この歳まで座右の銘に巡り会えなかった。最近読んだ何ということもない小説に、これだ！と思う一言を見つけた。自分の仕事・生活・人生で大切にすべき事柄であった。「凡事徹底」  
出典は不明であるが、それは問題ではない。要領よく人生を切り抜けてきた私にとって、肝に銘ずべき言葉である。



45期  
神山公仁彦

近況の二報告

だったころ、あるいは弁護士になりたてのころ購入したスーツやブレザーを着ていることがある。

それは、多少窮屈な思いをしながらでも、16年間体型があまり変わらなかったということだけでも、そろそろ限界が来たよう、息を吐いてお腹を凹ませてからでないといズボンがはけないようになってきた。

スポーツクラブに通うか、ズボンを買って換えるか、悩みながら毎朝息を吐いている今日このごろである。



45期  
李義

雑感

平成18年10月に独立開業して、まもなく丸2年が経過しようとしています。今のところ、経営状況は、結果的には順風満帆な状況ですが、確固たる経営基盤があるわけでもなく、ある意味で「その日暮らし」の不安定な状況であって、大量増員の影響がとも心配な今日この頃です。弁護士が将来の不安を憶える商



45期  
河原林昌樹

結婚前は70キロだった体重が一時期88キロになり、肥満解消のために一昨年の秋から自転車通勤(片道約50分)を始めました。また、休日には山歩きをしており、昨年は初めて大阪府山岳連盟主催の大阪府チャレンジ登山大会(春のダイトレ)と生駒チャレンジ登山大会にも参加しました。おかげで体重も76キロまで減りました。結婚前の70キロを目標としてさらに頑張っていきたいと思います。

弁護士にとって最も価値あることは、時代の苦悩に寄り添うことである(ホームズ判

事)。この15年の経験を通じて、改めてこの言葉の重みを実感しています。米国では史上初の黒人大統領が誕生する年に、わが国では裁判員制度が始まります。市民の司法参加は画期的なことですが、あまり歓迎されていません。制度論に終始することなく、働き方や生き方の問題に取り組むことこそ、私たち弁護士にとって大切なことのように思います。

売だとは思っていませんでした。だから酒量ばかりが(体重もですが)増えます。



45期  
宇賀神徹

バタバタして、ジタバタせず

私は平成20年4月で登録15年目になります。振り返れば、ただ目の前にある仕事をバタバタとこなしていくだけで、気がつけば15年が過ぎたように思います。このままでよいとは思わないのですが、現状を打破する方策も見いだません。そうであるならジタバタしても始まらないので、これからもバタバタした弁護士生活を送ろうと諦めとも覚悟ともつかない思いを抱く今日この頃です。



45期  
坂本 団

マイナー

私はMacユーザーです。なので、一太郎は開けません。にも関わらず、弁護士等で一太郎ファイルを送ってくる人たちが後を絶ちません。そういう人に「Macなので、一太郎は開けないんです」と言いますと、「そんなのを使っているのが悪い」と迷惑がられます。日頃は「少数者の人権が大事!」とか言っている人が、自分が多数派の時はそのようなことを言うのです。

私はこれからも少数派でいきたいと思いません。ほかのことでも。



45期  
豊島達哉

ひとこと

今年はいよいよ50歳になってしまいました。年相応の落ち着きを得たいと思う今日この頃です。



45期  
中嶋 弘

思い出の食べ物はアップルパイ

学生時代、ある人とアップルパイをひとつ買って分けることにしました。私がきちんと半分にしぎり、左手に持ったほうを食べました。大きなリングがたっぷり入っており感動しました。この感動を伝えようと横を見ると、右手に持ったほうを食べた相手の人は「何も入っていない」とつぶやいていました。その女性が何年か後に妻になりました。それ以来、アップルパイを見ると、妻と顔を見合わせ、昔を思い出します。



45期  
堀 寛

春秋会50周年に寄せて

弁護士登録から間もなく丸16年が経過しようとしています。この間平成17年4月に事務所を移籍して現在は同期2人と私の3人で事務所を共同経営しています。プライベートの面では5歳と2歳の男の子、昨年8月に生まれた女の子の3人の子どもにも恵まれました。さて、春秋会も結成50周年と聞き、大変おめでたいことと思います。今後我々の業界を取り巻く環境はますます厳しさを増すことと思いますが、その中で弁護士会はもとより会派の果たす役割も重要となって来るかと思えます。その意味で春秋会がますます発展するよう祈念しております。



45期  
宮岡 寛

40周年記念誌には、息子とのツーショット写真を載せていただきました。あれから10年、息子も小学校6年生になり、妻よりも背が高くなりました。時の流れを感じます。



45期  
村井 潤

元気です!!



46期  
飯島 奈絵

いつのまにか

長男出産後、1週間の入院期間を経て自宅へ戻り、畳に座り込んで溜まっていた新聞を読みふけた後、立ち上がり、歩きかけ、畳の上に転がっていた長男を踏みそうになりました。「家に帰っても乳児がいるんだ。大学入学まで、あと18年もこの手の掛かる生き物の世話をしないといけないんだ。」と思うと頭がクラクラしました。が、いつしか月日は流れ、長男は中2になり、確実に親と住んでくれるのは、高校卒業まで、あと4年強。来年は次男（現在、小5）も塾が忙しくなり、大弁運動会にも、ついてきてくれなくなるのでしよう。同じような毎日でも、確実に過ぎていくんですね。毎日を大事に過ごさないと改めて思います。



46期  
大久保 康弘

50周年にあたって

春秋会は今年50周年を迎えましたが、昭和34年生まれの私にとっては、来年が50周年となります。雑事に追われ、なかなか長期的な計画のないまま、日々を過ごしておりますが、ここで一念発起して、何か記念になる事業をしようと考えております。でもその前に、倒幕の密勅や、フィギュアスケートの大会（NHK杯と全日本）を見る必要があります。これらを見て心を育て、その上で壮大な計画を立てようと思います。



46期  
奥村 秀一

雑感

弁護士になって15年。体力の衰えを感じる



46期  
片山 文雄

ひとこと

大学時代から煙草を吸い始め、弁護士になってからは、一層喫煙量が増えた。細君からは「臭い。身体に悪い。」と何度も禁煙を求められたが、煙草なしでは弁護士業務のストレスに耐えられないと抵抗した。しかし、年々煙草の吸える場所が減ってくると、喫煙コーナーがあれば食べるように煙草を吸う自分が徐々に浅ましく思えて、なんだか馬鹿馬鹿しくなり、思い切って2年ほど前に禁煙に踏み

切った。数日間は仕事に手が着かないほどの禁断症状に悩まされたが、何とか煙草のない生活に慣れることができた。やれやれと思っていたら今度は尿酸値が上がって酒も大幅に減らさざるを得なくなった。身体にいいことというのはつまらないものである。



46期  
越尾邦仁

近況

2006年4月に独立して、1人で執務するようになりました。

1人で仕事というのは、とても自由で快適です。資金繰りは大変ですが、一番変わったのは、外国人の依頼者が増えたということです。独立前にもいたのですが、前より増えました。中にはアメリカで離婚の裁判をしたくないなどという、関西弁と片言の標準語しか話せない私の能力をはるかに超える相談もあって、丁重にお断りすることもあります。



46期  
小林徹也

激動の時代の中、弁護士としてもがく毎日ですが、子どもたちが大きくなるにつれて、少しづつ地に足がついてきたような気がします。不当な格差をなくし、すべての子どもたちが健やかに成長することができる社会を作るため、微力ながらも頑張りたいと思っています。



46期  
島尾恵理

なんちゃってアウトドア派宣言  
数年前、これまでほとんど縁のなかったアウトドアの楽しみに突然目覚めた。森林や湿原を歩き回ったり、山に登ってみたり、湖のそばで野営したりする。カヌーに乗るのも大好き。ただし、漕ぐの



46期  
長尾博史

初心  
喜ぶ者とともに喜び  
泣く者とともに泣く



46期  
野上昌樹

私も春秋会の50年のように充実した50才を迎えたいですが、残された8年弱で何ができるかなと自らを省みると、まあ健康にぼちぼちやっていきたいと思っています。



46期  
平尾宏紀

50年について雑感  
春秋会は50周年を迎えた。10年ひと昔とすればもう大昔の領域である。激動のときも、平安のときも、春秋会の50年、これはもう立派に歴史だ。春秋会はこの間、日本の司法とともに歩んできたのだ。私も生まれてようやく50年(ただし、一の位を四捨五入して)。もともと司法界の末端に顔を出してからはまだ15年余り。春秋会同様、50年ぐらいいは司法とともに歩みたい。なんと、80歳を超えてしまうか。

は人任せで、私は時折アルコールなどを摂取しつつ、双眼鏡を覗いて鳥たちを眺めたりするだけの、「屋形船」状態。極めて軟弱な、「なんちゃってアウトドア派」なのであった。



46期  
下川和男

劇場版「メジャー」  
10代後半から20代にかけてよく映画を見た。結婚してからはとんと見なくなった。12月、6歳の娘にせがまれて久々に映画館に足を運んだ。「ポニョ」に代わる「メジャー」を観た。テレビ版で抜けていた「吾郎」の福岡時のリトルの物語だった。50歳を過ぎ、涙もろくなったのか、終わり近くには少しウルウル。



46期  
八木倫夫

ひとこと  
最近、どこでも同じこと言っています。東京地検を退職し、弁護士登録して3年半、開業して1年半が過ぎ、色々なことがありましたが、何とか「無事」にやっています、というのが率直な実感です。願わくば、より少ない事件をより丁寧にやりたいのですが、そうはいきませんね。最近の趣味は、深夜、スポーツクラブで泳ぐことです。



47期  
市瀬義文

今後ともよろしくお願い致します  
私は、平成7年から12年まで、上原綜合法律事務所にて務めさせて戴き、以後、独立して執務しております(市瀬法律事務所)。10余

年を振り返るだけでも、時代の大きな変動を  
思います。春秋会は50周年、これだけの星霜  
に、諸先輩方のご苦勞、ご努力を思います。  
今後ともどうぞよろしくお願い致します。



47期  
井上 楸子

春秋会50周年に寄せて

春秋会が発足した年、私は、大学生でした。  
当時は、エネルギー転換(石炭から石油)に伴  
う大不況の最中でした。ご多分に漏れず保証  
した父親が破産直前状態になりました。大学  
進学についても悩んだ末の進学でした。アル  
バイトをしながら実家から約2時間かけて大  
学に通っていました。「娘」を大学に行かせる  
くらいなら借金を返せと、債権者から父親が  
詰め寄られるのを憶えています。

卒業後就職に就いて、不況のもたらす家庭  
崩壊の悲惨さを実感し、男尊女卑という言葉  
を実感しました。今、経済が次第に安定し、  
男尊女卑自体も次第に解消されつつあること  
を嬉しく思います。経済安定や男女平等に向

けた多くの方々の努力の賜だと思えます。  
50周年、今また未曾有の不況というニュー  
スが流れています。微力ながら問題解決のた  
めに幾分でも寄与できればと思います。



47期  
岩谷 基

ひとこと

社会を動かす大きな物語がなくなったと言  
われて久しいが、個々人が自分の物語だけを  
抱えて参加する社会は、一体誰がどんな思惑  
で動かす社会になるのだろうか。とても危険  
な気がするものの、さればとって張りぼて  
のような物語に絡め取られるわけにもいかな  
い。みんな何を守りたいのか。家族、友人、  
職場、故郷、地域、国家。誰がそれをぶちこ  
わしているのか。よくよく目をこらして見る  
ほかない。

に入会させて頂きました。

たくさんの素敵な先生方とお知り合いにな  
ることができ、感謝しております。

私にとっての春秋会は、楽しくそして尊敬  
できる同業者と知り合える場所、です。



47期  
木下 和茂

地域で子育て

私には現在高1の長女と中1の長男がいま  
すが、長女が小学校に上がるとき、同じマン  
ションのお母さんに誘われて学童保育を立ち  
上げました。京都市からの補助金を得て、保  
護者の実家をただで借りてスタートしまし  
た。7、8人の中心メンバーで月に何度も集  
まって夜遅くまで話し合いをしたことを懐か  
しく思い出します。長女に続いて長男も学童  
保育に入所し、10年近く学童保育の運営に関  
わりました。最初は20人程度だった児童も最  
近は80人近くになり、逆にスペースが狭すぎ  
ることが悩みの種になっています。今では役  
職は退きましたが、OBとして関わっていま

す。明日は学童のお祭り、OBで協力して綿  
菓子を作ります。



47期  
黒田 愛

このたびアメリカから無事帰国いたしまし  
た。のんびりしたオクラホマで過ごした3年  
間のロススクール生活(質素な食生活のお陰  
で、減量に成功)、後半2年半は世界の経済の  
中心ニューヨークでのローファーム勤務と(早  
朝ジョギングで体調維持を図るも、飲み会増  
で体重も増)、充実した5年半でした。また、  
新たな気持ちで、大阪で頑張ります。よろし  
くお願い申し上げます。



47期  
岩本 朗

10年経って

10年前の40周年記念誌を取り出してみる  
と、当時は若手だったので、40期代座談会な  
るものに出て、偉そうに、好き勝手な発言を  
していた。一言集のほうでは、初めての子ど  
もができたことを書き、殊勝に、これに伴う  
責任のことを書いていた。10年経過し、すつ  
かり中堅になってしまった。財産は全く増え  
ず、髪の毛は減ってしまったが、2人に増え  
た子どもに対する責任だけは、何とか今のと  
ころ果たせていると言えそう。



47期  
勝井 映子

春秋会と私

弁護士登録とほぼ同時に、縁あって春秋会



47期  
篠原 俊一

マラソンにハマっています

数年前、85kgにまで増えた体重を減らすた  
めに始めたジョギングにハマり、毎年数回マ  
ラソン大会に出るようになりました。昨年は  
沖縄県北部の離島で開かれた「第13回伊平屋  
ムーンライトマラソン」で、5時間54分46秒と  
いう超ゆつくりタイムで念願のフルマラソン  
完走を果たすことができました。体重は現在  
72kg、それでも私の理想の体重よりは10kg  
多いようです。  
体重60kg台を目指して、これからも走ります。



47期  
白出 博之

なぜ「春秋」会なのか

私が初めて「春秋に富む」(司馬遷「史記」)

という言葉を知ったのは、修習中の弁論要旨起案に際してだが、その後の弁護士人生でこれほど「春秋」とご縁を頂けるとは思いもよらなかった。もともと、私が春秋会に魅力を感じるのは、単に「年若く、将来が希望に満ちている」からではない。むしろ時の弁護士会さらには法社会全体のあり方に対する監視・批判団体という春秋会の原点（この点は我がボス曰く）に対してである。そして、孔子が厳しく批判的に此事をとりあげながらも歴史的大局の関係を説いたのが「春秋の筆法」であるのなら、私たちが、その名に相応しくかつ原点を忘れずに活動し、新しい歴史を作ってゆきたいものである。



47期  
中道秀樹

近況報告とご挨拶  
50周年おめでとうございます。この1年間で事務所所属弁護士が7名↓4名↓6名と変動する等もあって日常業務に追われる日々を送っております。全く会務をさぼっております。

投稿自体憚られるところですが、来期は会のゴルフコンペ幹事を拝命しましたのでご挨拶方々寄稿させていただきます。



47期  
奈良嘉久

一言主神社  
「一言主神社」には「一言主の命」がまつられており、参拝者の願掛けに対し、「一言主の命」は沈黙することはないが、「それは叶う」との一言か「それは叶わぬ」との一言かのいずれか一言だけを返すとのことである。

この点、今回の「私の一言」の問いかけに対しても、とうてい一言等簡にして要を得た回答をする能力が私にはないと痛感した。



47期  
乗井弥生

10年後はペット弁護士?!  
今年1月から猫を飼い始め、仕事が終わるとそそくさと帰宅し、猫じゃらし片手に猫と遊ぶのが最近の楽しみです。子育ての終わった夫婦にちょっとした刺激を与えてくれる有り難い存在です。猫関係の本を読みあさり、現在「猫語」を学習中。家族からは、「10年後は『離婚弁護士』から『ペット弁護士』に鞍替えかな?」と笑われています。



47期  
浜田雄久

気がつけば中堅弁護士になってしまいました。春秋50周年の歴史と比較すれば、まあまだまだ短いわけですが、弁護士業をスタートしたときと比較し、弁護士業界の将来はどんな

どん不透明になってきたと思っていたところ、どこの業界も不透明な状況になってきました。不況型の事件というのが必ず一定程度あるというのがうちの業界の強みではあるのでしょうか。

一日一日常に前進するという気持ちをお忘れずに、日々すこして行きたいと思っております。春秋会には、運動会のリレー以外には、「たまたま」お手伝いするようにいたします。



47期  
松井 衡

春秋会の50周年に心からお喜び申し上げます。当職も春秋会に参加し、業務を上海事務所と日本の間を往復しながらの形態にしてからはや十年になろうとしています。上海からも、春秋会での議論を伺うことができる春秋ネットは貴重な媒体です。最近の法曹界をとりまく環境の変化は、日本も上海も、加速度的に早くなっている気がします。春秋会のますますの発展を祈念しています。



47期  
蕙井順子

理想と現実  
唐突ですが、昨年の10月に独立しました。当初の予定では、毎朝事務所に来るとC Dを掛け（江野尻さんありがとうございました）、ネスプレッソでコーヒーを煎れてからじっくり時間に追われずゆったり仕事をしていくはずでした・・・  
実際は・・・皆様の想像にお任せします。

2008年10月

株価は大暴落、未曾有の経済危機。今年の10月は歴史になんと記録されるのだろうか。私が95年に弁護士になってから10数年、非正規雇用と長時間労働が増大し、格差と貧困が幅をきかせている。雇用は、経済危機でますます厳しくなるだろう。微力なりに労働者側で労働事件に関わってきた者として、人としての尊厳が切り崩され続ける流れに歯止めをかけるには何をすればいいのかを、考えている。

47期  
原野早知子



47期  
真継寛子

弁護士活動を支える力  
私が成年後見人をしてしている女性。最初は、先月も訪問したのに「何ヶ月も来ないとは何事だ。」と怒りの電話が入ったり、調査官面談



48期  
石橋志乃

ピアノの椅子

子供のころ習っていたピアノを、最近また習い始めました。目からウロコなことがたくさんあります。椅子をもっとピアノから離すように言われました。最初は「なんかピアノが遠いよ」と思っていました。慣れると、その方が腕や肘が自由になり、ピアノ全体が見え、弾きやすいことが分かりました。仕事においても、少し距離をおいて全体を見ることが大事だなあ、と思う今日この頃です。



48期  
大川 治

春秋会50周年に寄せて

春秋会は50周年。ちなみに私が所属する堂島法律事務所は、1965年創設なので、今



48期  
高江俊名

10年後は30歳

山スキーには体力がいる。スキーをするため、自分の足で山に登る。今年、4年ぶりに山スキーに行くにあたり、にわかトレーニングを始めた。日常生活で、行き先が何階であってもエレベーター禁止。今日は日弁連で17階まで階段で上がった。特別に時間をとらなくとも出来るので、三日坊主の自分でも半年以上続いている。10月に40歳になったが、これからは体力年齢。1年ずつ若返れば、10年後は30歳!? (写真は鳥海(秋田)の山頂にて)



48期  
長澤哲也

変化

弁護士になったのが平成8年。その後、「イ

年43年目。一方、私は、今年39歳、修習48期なので弁護士歴13年目。春秋会も、事務所も自分より年上で大先輩である。それに「春秋会50年の歩み」をパラパラ見ると、先人の偉大さ、歴史の重さがよく分かる。では、自分? ...考えながら、歩んでいこうと思う。



48期  
岡本 岳

弁護士として13年目、さつと振り返るとあつという間でしたが、1年1年思い出すと色々な出来事があり、総括すると、楽しく悔しく充実した人生といって良さそうです。今後ですが、尚一層の弁護士としての能力向上、やりたいことを着実にこなして、その結果として家族、法曹界、そして社会に微力ながら尽くせたらと思います。



48期  
中世古裕之

インターネットや「携帯電話」が当たり前となった、「坊主頭」でいることへの抵抗感もすっかりなくなったり、いろいろ変化がありました。今は折しも「時代」が大きく変化している時期。混乱時だからこそ、起こっている変化が「反動」なのか「本流」なのかを区別する目を持ちたい。経済法を専門としながら、それを通じて社会にどんな貢献ができるかを考え続けようと思っています。

最近、資源や食糧の問題が、市民生活から国家経済レベルにまで深刻な影響を与えています。国際社会の中で日本がこれらにつき確固たる地位を主張できるようにする一つの方策として、他国ではまねのできないような技術革新を国家レベルで支援し、「技術を売り込む」ことで資源を獲得するといったビジョンで取り組むことも必要かと考えます。「物作り日本」の復権を願ってやみません。私もできる限り支援していきたいです。



48期  
河原 誠

ぼちぼちやっています。

48期  
白倉典武

私と春秋会

私が、今まで春秋会のお役にたてたことと言えば、弁護士会の運動会でリレーに出ることぐらいではなかったか、と思います。ところが、弁護士になって13年、私の脚もすっかり衰えてしまい、運動会に出ても全く役に立たないことから、今では運動会に出ることもなくなっていました。今後、どの様にして春秋会のお役に立つことができるのか、現在、模索しております。



48期  
鍋本裕之

10年前の創立40周年の時に、記念誌の編集委員をさせていただきました。年表作成の情報収集と一言集の原稿集めには大変苦労したこと、某大先生の原稿を紛失してしまったり冷や汗をかいたことなど、昨日のことのように思い出されます。

私自身は、今年4月に独立し、心機一転、頑張っております。



48期  
林 邦彦

春秋会50周年にあたり、木村保男先生を含むこれまで春秋会を支えて来られた諸先輩方に感謝申し上げます。弁護士13年目、前厄40歳。不惑には程遠く、未熟を痛感する毎日です。もう暫くは大学教員との2足の草鞋。当

面は弁護士会員として民法改正がテーマ。10年後には少しでも春秋会の諸先輩方に近づけるよう努力したいと思えます。ご指導の程お願い申し上げます。



48期  
藤井美江

お酒も飲んでいないのに：

おいしい物を食べると、後頭部から何かが出てきて幸せ気分になるので、事務所にある医学書等で調べてみたところ、セロトニンという神経伝達物質が分泌され、脳の視床下部にある満腹中枢を刺激していることが分かった。セロトニンは、別名「幸せホルモン」と言われ、不足すると気分が落ち込んだりするらしい。おいしい物を食べてセロトニンが出てくる限りは、ハードに仕事をしていても大丈夫なのでしょうか。ボス、どうでしょう？



48期  
堀内康徳

子供ができるのが遅かったため、遅い子育てに奮闘しております。平日は朝6時に妻が、私と長男（小学校1年生）をたたき起こします（妻はすぐに次男3歳のところに二度寝しに行きます）。長男と朝食をとり、7時に城東区の自宅を出て、天満橋にある息子の小学校まで、約2キロの道のりを歩きます。途中大坂城の遊歩道を歩きますので、気分は爽快です。私はそのまま北浜の事務所まで徒歩通勤をしています。次男が小学校を卒業するまで、あと10年間はこのような生活が続くそうです。でも全く痩せないのが、残念です。



48期  
村瀬謙一

目指せ！ 1番センター村瀬



49期  
石原真弓



49期  
植岡永作

リュック1個分

最近、山好きの同僚に触発され、低山ハイクを始めました。登録後3、4年目までは高山にも行ってきましたが、その後、大型リュック1個分ぐらいの余計な荷物が身体にまとわりついて……。この前行った丹波篠山の白髪岳は、最寄駅からすぐに始まる絶好のハイキングコース。麓の里中には美味しい蕎麦処もおすすめです。是非一度。



49期  
河野 豊

春秋会回生の鍵は？

春秋会草創期の方々は大変な気概を持たれていたのだと思います。その方々のご活躍無しには、今も春秋会活動は成り立ち得ません。逆に言うと、今や数の上では多数である若手会員の活躍の場が少ないということです。同期間の繋がりが薄くなることから、春秋会回生の鍵は何か？  
お金が出すが口は出さないベテランのご支援の下で、若者の自由な活動を保障すること、こういうことではないかと、今は考えています。



49期  
木村重夫

「篤姫」ブーム

今年（2008年）のNHK大河ドラマ「篤



49期  
伊加井義弘

近況

弁護士12年目になりました。相変わらず、旅行には、よく行っています。写真は、今年2008年8月の家族旅行写真です。パリ・ルーブル美術館がバックに写っています。わかると思いますが、左端が私です。



49期  
杉島幸生

近況報告です！

今、事務所の運営委員長というものをして

姫」は大ヒットであった。私も毎週楽しみに見るようになり、5月にはNHK大阪放送局の「天璋院篤姫」展を見に行った。8月には京都伏見に「寺田屋」が現存しているというので見学に行った。盆休みは鹿児島に旅行に行き、島津家別邸であった仙巖園を見学、中に「篤姫」の撮影スポットがあり、あのシーンはここだったのか、と感心した。泊まりは霧島温泉。小松帯刀の計らいで、寺田屋で襲われ負傷した坂本龍馬がお龍とともに訪れた温泉である。2人のツーショット銅像もばっちりビデオ撮影してきた。  
さて、現在の政治状況も維新前夜に似ているとか？ ならば徳川慶喜に松平春嶽ら四賢侯が加わった参預会議が結局機能しなかったように、中途半端な改革ではだめなように思いますが、どうなんでしょうかね？

います。とはいってもその実態は、まさに中間管理職。8人の先輩弁護士、4名の後輩弁護士、14人の事務局の間で、毎日、右往左往をしています（はやく普通の弁護士になりた〜い）。それにしても登録してから13年目になろうとしています。私が新人の時、30期後半の先生方がどれだけ頼もしく見えことか。それに比べ今の自分は：：愚痴をいっても始まりません。ファイト！



49期  
杉光章

心理学第3版

大学を卒業する頃、教養選択科目のひとつである心理学の教科書を探していた。

双書では薄いのではないか。相良は分厚いのではないか。

そのころ、心理学第3版（東京大学出版会）に偶然めぐりあった。犬も歩けば棒にあたる、である。心理学的なものの考え方がわかったような気がした



49期  
中村和洋

今後の抱負

10年間の検事生活を経た後、平成19年に弁護士登録し、春秋会に入会いたしました。

刑事事件のほか、行政・税務の案件を得意とする弁護士を目指して、日々精進しています。

他方、趣味の分野では、下手の横好きの将棋について、努力して腕を磨き、年を取ってからも楽しみにしていきたいと思っています。



49期  
二宮誠行

卒業旅行の思い出

春秋会に入会して11年。色々な思い出がありますが、その中でも06年度水田筆頭常幹の下で常幹を務めたメンバー7名で退任後に行った北海道旅行が心に残っています。北海



49期  
村上博一

道を知り尽くした大江先生のお勧めプランに従い、旭山動物園、富良野・美瑛、屈斜路湖のアイヌダンス、秘境の温泉など、いい年をしたおじさんと、お姉さん（！）が修学旅行生のようにしゃぎ回りました。1年間の苦労を忘れさせてくれる大変楽しい経験でした。

皆さんご無沙汰しております、村上です。最近春秋会にもご無沙汰しており、ただ、忘れられないよう、近況報告だけ：

村上は、関西学院大学のロースクールで教えているのですが、現在、訳あって、1日4コマ（90分×4コマ＝6時間）受け持っています。他の教員からも学生からも、会うたびに「大変ですよ。」といわれ続け、村上としても、当初、大きな不安があったのですが、何とか順調です（原稿作成時の平成20年11月5日現在で、7回目。全部で14回ですから、ちょうど折り返しです）。おそらく秘訣は、アイモンドグリコキャラメル。授業前に1粒口に

入れれば、元気一杯です。「スタミナもなくなってきた、そろそろガンリン補給をしながらでないといけない年齢になったのかな〜。」と思ったりもしていますが、補給すればまだまだいけることにも気付いて、ちよつとひと安心というところです。

以上、簡潔ですが「ひと言」とさせていただきます。



49期  
山本健司

近況

今年は縁あって事務所も自宅も移転致しました。2008年は私にとっても節目の年となりました。



50期  
有村とく子

最近思うこと

10月初め、心身共に充電の時間を取ろうと、事務所に「冬眠します」と宣言して1週間仕事を休みました。朝早くから溪流沿いを散歩したり、山に登ったり、お寺や旧跡を巡り歩いて過ごし、よいリフレッシュになりました。これまでは手帳にびっしりと仕事の予定が入っていなければ不安でしたが、「人生の午後」は、もっと余白のあるものにしていきたいと思っています。



50期  
上田純

春秋会の長所と弱点

私の春秋会歴は弁護士歴と同じく11年目です。春秋会は、修習期の上下や年齢の上下に



50期  
小川和恵

かわならず、（一定の節度は守りつつ）自由に意見を交わし、議論することができる大変風通しの良い会派だと思います。今後、このような長所を失わないように切望します。なお、他の会派に比べ、親睦が弱いようですので、今後は、親睦にもより一層力を入れて頂ければと思います。

夏風邪―近詠五首

何もできずただ夏だけが過ぎてゆく  
木綿のバジヤマを着ている間に  
こうやってまた信頼をなくしゆく  
しんどくてさみしいひとつのからだ  
「下獄します」あなたのか細い筆跡が  
夏風邪のように孤独ださき言った  
自分の言葉を反芻するとき  
ペゴニアは夏の盛りに咲き誇り  
体力を奪われて奪われて我は

50周年に寄せて

50期  
小野昌史

春秋会、設立50周年おめでとうございます。選挙活動や若手会活動の折りに、春秋会の諸先輩方と様々なお話をさせていただき、春秋会の懐の深さを感じております。これからも諸先輩方の経験を活かしていただける団体であって欲しいと思います。



50期  
柴野高之

最近：  
マイバックやマイボトルを携帯して、余計なゴミを出さない。なるべく車(タクシー)には乗らずに歩く。雨降りもありがたいと思う。朝ご飯もおいしく感じる。体も、10年前の弁護士になった頃の状態にほほりセットして身軽になった。心や頭も、染みついた先入観や思い込みをすてて、弁護士になった頃の新鮮

な気持ちにリセットしようと思う。自然に、無理せず、でもひたむきな姿勢を今後も継続していけるように。



50期  
高木吉朗

英語でない外国語  
ヨーロッパでは、隣の国の言葉を2〜3か国語話せるというのはごく普通のことだといわれます。ところが、東アジアはどうかといえば、あまりにもお寒い状況。というわけで、数年前から中国語と韓国語を少々かじっています。日本語を含め、似ているようでやっぱり違う、その微妙さに興味はつきません。  
日本もそろそろ、英語一辺倒の発想から卒業してはどうか、と私は思うのですが…。



50期  
中島宏治

仕事を通じて、世の中のことが少しずつわかってきたように思う。物事を解決するのに法律だけではダメで、政治の動きとか、経済の流れとか、人の心理、感性なども十分に理解しないとけない。  
このようなことを考えるにつれて、政治、経済、文化のどの方面にもバランスがとれた若者を育てたい、一緒に勉強したいという気持ちが湧いてくる。そんな中、憲法ミュージカルと出会った。呼びかけ人になり、事務局もやり、出演もするうちに、ああ、この企画は若者たちと一緒に未来を考える重要な取り組みであると考えはじめた。大阪で芽生えた取り組みを大切に育てていきたい、そんな気持ちでいっぱいだ。

51期  
上出恭子

今はまっている言葉  
「タフでなければ生きていけない。やさしくなければ生きていく資格がない」、少し前に新聞で見付けた言葉だが、アメリカのチャンドラーという人の言葉らしい。  
友人に嬉々として、「ええ言葉やろ」と言ったところ、「まるで、中年のオッサンのようだ」(春秋の中高年の先生方すみません…)と一喝された。春秋会が60歳のお目出たい還暦を迎える10年後、タフ&ジェントルな人間になれたら良いなと思っている。

をしたとのこと。

マクドの店長、配管工  
私、この業界入る前は、ごくごく普通のホワイトカラーをしていたのですが、10年で、その臭いは消えてしまったようです。で、思っても寄らない臭いが…



51期  
河村学

現在、労働問題を中心に取り組んでいます。早くも登録から10年が経ちましたが、まだまだ勉強することだらけです。今後ともよろしくお願いします。



51期  
尾崎一浩

職業臭  
今のマンションに引っ越して6年。近所つきあいが無いといいつつ、知り合いもちらほら。この間は、嫁同士で旦那の職業あてクイズ



51期  
小橋るり

プラス

弁護士になって10年が経とうとしています。人間の酷薄さや暴力それに蹂躪される結果としての不条理なことに日々接する仕事なので、美しいものを希求しており乍ら対置するそれらを浄化し改善する力の不足している私としては、マイナス。でもそれら不条理から目を背けることなく弛まず、種をまき続けるパワーを体にみなぎらせている尊敬できる弁護士さんや依頼者等に逢えたことそれはプラス。プラス面が圧倒している現在、あと少し弁護士、やります。



51期  
田中史子

私の趣味  
趣味と言ってよいかどうかかわらないのですが、5年程前からクラシックバレエを習っています。きっかけは、バレエのコンクールを見にいった、その美しさと緊張感に圧倒されたことでした。もちろん、私はこれまでバレエを習ったことはなく、全くの初心者からのスタートです。中学時代、バレエを習って

いた友人が、とてもスタイルがよく、歩き方も美しかったことが思い出されます。自分も今からでもバレエを始めればそのようになれるのではないかとあらぬ期待を抱きつつ、バレエ教室へ。

しかし、何十年もの間、運動らしいことはほとんどせずに生活してきたツケを、最初のストレッチの段階で実感しました。体はガチガチに硬く、筋肉もないため、周囲の人がやすやすとやっている（ように見える）ことが自分には全くできません。その現実に直面し、「まじめにバレエを習おう。」と改めて決意しました。それから週1回程度のレッスンスですが、なんとか今まで続けることができ、最近では、やっと周囲の人の動きについていける程度にはなってきました。

これからも、少しずつ上達することを楽しみに、バレエを続けていきたいです。



51期  
西村勇作

もうすぐ40になります。私が学生のころ、

南海ホークスの門田博光が不惑の4番打者なんて言われていました。当時の私は、門田を見て、「腹も出てるし、頭も薄いし、ものすごく老けたおっさんやなあ。」なんて他人事のように思っていました。すでに当時の門田と同じような歳になったと思うと少々ショックです。まだまだ迷ってばかりで、大人になりきれしていない自分のことがときどき嫌になったりしています。

51期  
松井淑子

さらに50年

春秋会が出来て50年という。私は弁護士登録をしてまだ10年。春秋会の50年の歴史がどのようにして形成されたのか、未だによく分かってはいません。ただ、会派の存在は、世の中のために繋がることだと思っています。国政に対する地方自治のようなものかと。私はあと50年も働けません、春秋会はさらにあと50年、無事に100周年を迎えてもらいたいと願っています。



51期  
山本 淳

これまで、仕事については手を抜かずやらねばと一応頑張ってきたつもりですが、最近、仕事以外のことで自分は何が出来たのだろうと悩む時があります。仕事以外に何も出来ないというのは寂しい話ですね。で、最近自分には何が出来るだろうかと就活前の学生のように思い悩み、模索中です。取りあえずは、①春秋会には出来る範囲での貢献はする、②ヨメには最大限の貢献はする、③住宅ローンを頑張って完済する、ぐらいでしょうか。



51期  
由良尚文

私の文化度向上計画  
遅読者の私の読書はなかなか進みません。昨年はどれくらいの本を読んでいるのかメモ

してみようと思い、「1年間に50冊の文庫本は読もう」と決意しました。通勤時間などを利用してコツコツと読んだつもりですが、結局年間45冊でダウンしました。今年は「1年間に文庫本50冊。鑑賞映画100本。時々はコンサートや美術展へ行く」を目標にしようと思います。



52期  
七堂真紀

52期は最後の2年修習で、色々な講演などもあり、和光の研修所での講演でお聞きした数学者の方の教育に関して述べられた一言が、今も印象に残っています。

「最近みんな改革改革と言うが、私はあえて言います、何一つ！変える必要はないと。変えれば良くなるというのは間違った思い込みで、本当は変えたら悪くなるのです」



52期  
高橋 徹

もうすぐ弁護士になって10年目を迎えます。仕事の話はさておき、この間、山登りやスキーを覚え、充実した生活であったと思います。おいしい物を食べられるようになり、体重も増えてしまいました。大きなイベントは、結婚とマイホームの購入、娘の誕生、といったところでしょうか。特に、娘の誕生は、生活環境や人生観を大きく変えてくれました。今は娘の成長が最大の楽しみです。春秋会の活動とは、あまり縁がありませんが、同会がもっとも人権課題に先進的であり続けることを願っています。



52期  
竹平征吾

52期の竹平征吾です。2000年の4月に

弁護士登録し、早いもので9年目になります。自分が新人弁護士の頃、9年目くらいの年次の先輩方がなさる仕事をみて感嘆した記憶があります。それに比べて自分がその時点の先輩方のような仕事ができているかという若干心もとない思いがあります。ただ、この奥の深い仕事はこれから勝負ですので、春秋ネットでの皆様のやりとりなどを拝見して勉強しつつ、がんばっていききたいと思えます。公私ともに充実した日々を送れるように精進したいと思えますので、末永くよろしくお願いたします。



52期  
寺尾 浩

近況

3年半前、東京のウイルス研究者と知り合い、すぐに結婚を決め半年後に入籍してしまいました。色々事情があつて妻は東京で研究者生活を続けざるを得ず、別居生活が続いております。月2〜3回のペースで東京に通い、毎日電話させられ、いや、しています。ジム

通いも2週に1回程度となり、あれほど没頭していたヒラマ釣りもこの4年で1回しか行っていません。春秋会釣りクラブを結成できるのはいつの日か…。



52期  
徳田 琢

今後とも

春秋会50周年おめでとう御座います。実年齢は4分の3にも、弁護士年齢は5分の1にも至らない若輩と致しましては、お祝いの言も覚束ないところですが、せめて自らの弁護士年齢が春秋会の半に至る頃まで(30幾年後)、共に発展させて頂くことを願います。

若手会の活動に携わって

今年度、若手会世話人として春秋会の活動

52期  
中筋利朗

レースに出た時の高揚感や、走り終わった時の清々しい気持ちは、これまでに感じた事がなかったものです。また、練習する事によって着実に記録が伸びてくるのは素直にうれしい。年齢を重ねては来たけれど、まだまだ気持ちは春秋に富む若者です。



52期  
増田 尚

50周年おめでとうございます。創設の経緯を思うにつれ、春秋会が今日の司法をとりまく閉塞状況を打破する力になりえるのだろうかとの疑念を禁じ得ません。野放図な増員による市場原理の導入は、人権擁護の担い手であるべき弁護士の存在意義を希薄化し、弁護士「ビジネス」を利潤追求の手段へと変容させつつあります。増員抑制も中途半端にしか打ち出せず、このまま、市場原理に浸食されがまま、弁護士自治の崩壊を迎えてしまうのでしょうか。どうか抵抗しようともがいていますが、春秋会の大勢と一致していないのが残念です。

にかかわらせていただいています。といっても、春秋会の活動・行事にはこれまでほとんど参加したことがなかったので、何をするか、という所から始まり、結局例年と同じようなことをして終わり、ということになりそうです。弁護士人口増加のなか、若手会の人数も大きく増えており、若手会をどのように位置づけるのか、よく考える必要があるのではと感じています。



52期  
中原 修

春秋会50周年おめでとうございます。ちょうど私も独立した年に重なりました。今後もしも弁護士として春秋会とともに歩ませていただきたいと思えます。私が弁護士になって以来新嘉手納爆音訴訟に参加してきましたが、その根底にある沖縄基地問題は解決の目処は立たず、沖縄の住民は基地の中で生活を余儀なくされています。この問題ができる限り早く解決し、戦後が終わることを願う今日この頃です。



52期  
増田 広充

50周年という区切りの年に会員であったことを幸運に思います。当会の07年度常任幹事の末席を汚した際、人権擁護、プロボノ活動に熱心な弁護士が多数属されていることを再認識しました。当会が大阪弁護士会内で長期間、最大会派で在り続けてきたことの現代的意義は決して小さくないと思えます。構成員のハードさに比し、組織力のルーズさも、実は美点の一つと思っています。次は10年後。どうなってるのか、楽しみです。



52期  
松本 智子

近況  
3人目の出産から復帰して、約1年半が経ち、ようやく仕事と生活のバランスが取れるよ



52期  
野村 祥子

記憶に残る事件

弁護士になりたての8年前、辿々しい英語で、娘が逮捕されたので助けてほしいと電話があった。それから20日間、イスラエルから飛んできた父親と被害店舗を回って示談し、検察官と面談し、本当に二人三脚の日が続いた。娘さんは無事不起訴となって2人は帰国したが、その年の誕生日、雑談の際に答えた私の誕生日を覚えていた父親が遠くイスラエルから電話をくれた。弁護士生活を振り返り、私の中で記憶に残る事件の一つである。



52期  
平山 敏也

マラソン  
ここ1年ほどランニングを楽しんでいます。

うになってきました。よく3人もいて、どうしてのと聞かれますが、久保井先生をはじめ事務所の皆様のご協力と、家族の見守りの下、自由にやらせてもらっています。仕事・家庭で、色々な役割があるから、気分転換にもなり、どちらも能率が上がるように思います。



53期  
愛須 勝也

雑感

名刺を整理していたら、同じ修習生の名刺が3枚も出てきた。いろんなところで修習生と名刺交換するが、会ったことも忘れて何度も名刺をもらっている。お互いにそんなに印象が薄いのか。相手は私の名刺を見て、「あっ」と思っているのかも。先日、事件の相手方代理人と名刺交換したとき、その名刺の修習生だと判明。弁護士になつたんだんの修習生は、親しそくに話しかけてきたので、きつと私の名前を覚えてくれたのであろう。どこで交換したのか、分からない名刺もある。飲み会の次の日に出てきた名刺などは特に。気をつけよう。



53期  
奥村裕和

50年は夢の如く  
50年。「敦盛」や「一炊の夢」によれば、50年は夢の如くあつと言う間の出来事とさせていただきますので、私の原稿もあつという間に終わりたいと思います。50年万歳。



53期  
川西絵理

ひとこと  
思えば私も弁護士になって8年超になりました。昨年独立して自由の身になったはずが、仕事に追われ自由な時間は減るばかりです。と言いつつながら変な時期に休みを取り、事務局から1週間休みと聞いて怒った依頼者に海外から電話を架けました。



53期  
半田みどり

け果たすことができるだろうか。数十年後(?)に弁護士を引退する時に振り返ってみたい。

53期の半田です。事務所が岸和田にあり、地元での生活保護問題などに取り組んでいます。離婚や多重債務と言った典型的な「地味でお金にならない事件」をする中で、貧困・格差問題への関心が深まり、ただの事件解決ではいけないと考えたことによりです。春秋会は名前だけの会員に等しいので、あまり出しゃばれないのですが、よろしくお願ひ申し上げます。



53期  
小関伸吾

仕事と遊びがうまく両立できるよう今後も頑張りたいと思います。

未熟者@春秋会

春秋会、50周年ですか……。すごいですね。私は、まだ法曹経験8年の未熟者ですが、春秋会に負けないよう、がんばります！



53期  
崎原卓

山、登っています。

去年12月に山登りを始めました。六甲山、金剛山、武奈ヶ岳等近隣中心に登り、夏には憧れの槍・穂高に行き、ニペソツ、立山も登りました。高校卒業以降まともな運動をして



53期  
吹矢洋一

オーロラ観測

オーロラ (aurora) とは、太陽からのプラズマ粒子と地球大気の衝突で起こる、極域近辺に見られる大気の発光現象で、その名称はローマ神話の暁の女神に由来するのだそうです。この冬、妻と2人で北欧の北極圏地方まで念願のオーロラ観測に出かけました。夜間はマイナス30度近くなる酷寒のなか4日間粘りましたが、ついに女神は微笑みませんでした。当分は「一生に1度はこの目で見たいもの」のままになりそうです…



53期  
藤田さえ子

春秋会にはすっかりごぶさたしています。私の近況は、10月に第二子・次男坊を出産



53期  
中西基

いなかっただけど、体を鍛えることの懐かしさも感じており、もっと鍛えて、雪山や岩登りにも挑戦したいです。子供は3人今年七五三で、妻共々皆元気です。仕事は、まあ楽しくやりがいを持ってできているかな。60周年の時もこんな調子でいられることを願って。

時代の転換点

1995年の日経連報告、1999年の派遣労働原則自由化、2003年の製造業派遣解禁と続いてきた労働分野における新自由主義・規制緩和路線も、この1、2年でいよいよその限界が明らかになりつつあると思う。アメリカでは労働組合の支持を受けたオバマが大統領になり、労働政策も大きく転換されるのであろう。戦後日本の発展を支えてきた日本型企業福祉主義が終焉を迎え、これからの日本の労働世界はどうなっていくのだろう。労働問題を扱う弁護士としてこの大きな時代の転換点に立ち会っていることの責任をどれだ

したところで、今は束の間の産休中です。泣く赤ちゃんを抱こうとすると4歳の長男が泣き、長男をかまうと赤ちゃんの泣き声がさらに大きくなり、しまいに2人に大号泣されて、こっちが泣きたくなるような毎日でしたが、人生最大の「モチ期」をしばし楽しみました。後ろ髪は引かれますが、もう復帰です。

53期  
松本光右

「鹿茸(ろくじょう)を鼻に当てて嗅ぐべからず。小さき虫ありて、鼻より入りて、脳を食むと言へり。」

私にとって「鹿茸」は何かと考える。もうすでに鼻に当てて嗅いでしまったような気がしてならない。



53期  
牟禮 大介

ひと言

夏に約2年間のアメリカ留学から帰国して参りました。

アメリカではミシガン大学のロースクールで一年、フィラデルフィアのローファームで一年おりました。久しぶりの日本の暑さに驚きながら、9月より業務を再開したところです。弁護士生活は留学を含めて8年目になります。初心に戻り頑張る決意を新たにしています。



53期  
梁 英哲

ペットと私

最近犬を飼い始めました。自然に家路を急ぐようになりました。帰宅すると大歓迎。早



54期  
鈴木 節男

近況報告

平日は仕事、休日は子守に追われる日々を送っています。気が付けば、弁護士になってから運動らしい運動もほとんどしておらずウエストも87センチに。そろそろ健康に気をつけなければいけない年齢にもなってきたこともあり、真剣にメタボ対策を考えはじめています。今日この頃です。



54期  
成見 暁子

祝50歳・春秋会へ期待すること

平和が奪われれば人権が奪われ、人権が奪われるところ平和も奪われる。人権擁護を職責とする弁護士として平和を愛する一市民として、これからも平和の種をまき、平和を奪う動きにささやかな抵抗をしていきたい。そして春秋会には、60数年前戦争賛成決議を上げて戦争の遂行に協力した大阪弁護士会が、平和憲法のもとで、戦争に繋がるあらゆる企てを拒否し平和の創造者の一員となり続けられるよう是非リードしてほしい。



54期  
南石 知哉

春秋会50周年おめでとうございます。弁護士になって以来、一番の楽しみは、弁護士会



54期  
大西 克彦

50周年を目指す

春秋会50周年おめでとうございます。春秋会といえば、私にはやはり選挙という印象が大きいです。頼もしく信頼できる先輩方とたくさん出会えたことに感謝しております。私は、平成19年10月から独立しましたが、春秋会のように50周年（今からだと90歳近くになってしまいますが）を目指して頑張っています。



54期  
塩田 勲

春夏秋冬

少し前からジャズを聴くようになりました。春秋会が発足した50年前ころの演奏が収録されたレコードを今聴いても、とても味わ



54期  
原 啓一郎

私と春秋会

春秋会には、運動会のリレーのバトンをつないだのと、選挙で一票を入れたくらいしか、貢献できていませんが、法律相談の交替やら、困ったときに質問や呼びかけがきたり、たぬになる企画に参加できたり、意外な「大物」が実は春秋会でつてが作りやすかったりなど、有効活用させていただいています。今後とも宜しくお願いいたします。



54期  
湯原伸一

春秋会設立50年おめでとうございます。私  
が生まれる前に既に誕生していたとのこと  
で、改めて歴史を感じます。さて、私は、8  
月に独立し、現在は本町周辺で執務しており  
ます。イン弁から経営者への立場の変更、弁  
護士らしき人が歩いていない周囲の変化な  
ど、様々な環境の変化に戸惑いもありまし  
た。現在は落ち着いてきました。弁護士が増  
員等今後大きな変化が生じるかと思いま  
すが、適応していきたいと思えます。



55期  
有馬純也

弱者の視点を忘れずに弁護士活動をして  
いきたいと考えていますが、そんなときに周  
りにいるのはだいたい春秋の皆さんです。い



55期  
大江祥雅

できることでしょうか。私にとって一番端的  
な例は、毎年恒例の旅行に参加し、時折死ぬ  
思いしながら習得中のスキーです。わずか  
2回の参加で上級コースに挑むことも躊躇さ  
せず、さらにそれが自分の特技とも思わせ  
てしまうほどの温かく、かつスパルタな指導、  
援助は、春秋会ならではでしょう。  
私も様々なことを吸収できる柔軟さを持ち  
続けていたいと思えます。

きっかけと広がり

縁あって、山田庸男先生の大弁会長選挙を、  
宮崎誠先生の日弁連会長選挙を、本当に微力  
ながら応援させていただきました。平成20年  
2月の新人歓迎旅行を機に、ダイビング部が  
できました。同期でも、時折集まり飲んで  
います。様々な研修での優秀な先生方のお話  
は、良い刺激です。春秋会を契機として、今  
後も色々な出会い、経験があると思うと、楽  
しみです。



55期  
石橋徹也

ごちが良いです。これからもよろしくお願  
いします。

体重のこと

登録から6年、久しぶりに会う友人に例  
外なく「貫禄ついたね(胴回り)」と言われ続  
け、一部に「実は石橋(？)は妊娠しているの  
ではないか？」という説まで飛び出しており  
ました。

しかし、実は、この1年で5キロ減量した  
のです。扇町プールに行くようにしたのが良  
かったのかもしれませんが。ともかく、幼子(1  
歳8ヶ月)のためにも、さらに体重管理に気  
をつけて頑張ろうと思う今日この頃です。



55期  
大前 治

第3子が生まれます

「この人と結婚できるなら何を失ってもい  
い！」と思って結婚してから5年半。(実際に  
は、全く何も失わなかった)。

彼女と語りあうことで、労働者の地位や権  
利、あるべき弁護士の姿、弁護士の品性につ  
いて多くを学んだ。彼女は、最大の同志であ  
り戦友である。

おかげさまで(？)、まもなく第3子が生ま  
れる。男子が2人続いたが、今度は女子と判  
明。育児は忙しくて大変だが、生まれてくる  
のが楽しみである。



55期  
亀若浩幸

弁護士になる前、金融機関に勤務していた



55期  
井上 泉

最近の散歩コース

起案で煮詰まったとき、近くの神社をお参  
りしてから古墳をまわって帰ってくるという  
のが最近の解決方法です。事務所が堺なので  
古墳には不自由しませんが、仁徳陵はさすが  
にちよつと遠くてかかするので、事務所近  
くの反正天皇陵という小さい古墳を一周しま  
す。方違神社で神頼みをしつつ向こう側の世  
界を感じてから、古墳でぎゃあぎゃあという  
恐ろしい鳥の鳴き声を聞いて帰ってきたあ  
とは、何となく仕事がかどるような気がし  
ます。

55期  
今春 博

視野や活動範囲が広がる春秋会との関わり

春秋会に参加することで最も大きなメリッ  
トは、そうでなければ経験しないことを経験



55期  
國本依伸

のですが、当時、いわゆる護送船団方式への  
批判と規制緩和の合唱の中で、金融の自由  
化が始まりました。その結果は皆さんご存じ  
のとおりです。そして現在、司法制度改革の  
名の下に、法曹界にも激変の波が押し寄せて  
きています。この様な時代だからこそ、弁護  
士を志したときの初心を忘れぬよう努めたい  
と考えています。

登録と春秋会入会から丸6年が経ちまし  
た。登録時は「会派ってめんどくさそうやし、  
無所属でいこうかな？」とも考えましたが、あ  
のとき春秋会を選んで良かったという  
のが、この6年間の実感です。今後よろし  
くお願いします。



55期  
清水伸賢

「ひとこと」と言われても

50周年おめでとうございます。  
申し訳ないのですが、「ひとこと」と言われても、私は春秋会についての歴史も深くは知らず、特に高尚なコメントをするほどの知識や能力もなく、弁護士としての経験も多くは積んでいませんので、良いコメントが何も浮かびません。今後とも日々研鑽を積み、100周年記念の際には何とかまともなコメントができるよう頑張ります。何卒よろしくお祈りします。



55期  
末弘婦紗子

7年目に入って

春秋会50周年、おめでとうございます。

スコを経て、南国グアムの法律事務所で見つけられたりしながら研修をしています。ところで今回のアメリカ滞在で一番感じたのは、「日本はなんて優れた国なんだろう」ということです。もちろん完璧ではありませんが、第二次大戦後、日本が奇跡の復興を遂げたのも当然だと思ふようになりました。この日本の優れた面を容易に潰さないよう、帰国後、私もがんばりたいと思います。



55期  
麦 志明

55期の麦です。

春秋会に入ってから今年度で6年目を迎えますが、なんと6年間で2度も会派関係の選挙をする(しかも1回は当事務所として)という機会を得て、会派内外を通じてたくさんの方々と知り合うことができました。

本年は4月より10月まで上海に長期駐在をしておりますので、弁護士や会派の活動には余り参加できませんでしたが、今後ともよろしくお祈りいたします。



55期  
中西伸之

6年間を振り返って

弁護士となり6年が経ちました。この間、色々な事件を経験させてもらいましたが、プライベートでも、結婚、長女の誕生と重大事件の連続でした。その度に、生活スタイルが一変しました。特に、昨年、長女が生まれてからは、子供中心の生活となり、休日も早起きになりました。また、ドライブしながら音楽を聴くのが好きなのですが、最近では、「おかあさんといっしょ」のCDばかり。でも、意外とはまってます。

私は、結婚・出産後に合格したので、弁護士スタートから家事と育児と仕事の両立が前提でした。しかし、かえって仕事上のストレスと家事・育児のストレスを、それぞれで解消することができ、自分には合っているのかなと思っております。これも、所長の田中先生をはじめ諸先生方のあたたかい御理解と御協力の下であります。今後も、これまで以上にそれぞれ頑張っていこうと思っております。



55期  
原 正和

春秋会と私

私は環境事件に最も興味があり、大阪弁護士会の環境委員会にも所属している。環境事件では弁護士を組むことが多いが、弁護士と一緒に仕事をする先生方の多くが春秋会に所属している。伝統的に公益活動に熱心に取り組んできた春秋会。自分もその一員であることを誇りに思う。春秋会がこれからも弁護士会、法曹界、さらには市民の立場からの情報発信源であり続けるよう、微力ながら私も努力していきたいと思う。



55期  
飛岡恵美子

春秋会50周年、おめでとうございます。春秋会主催の研修やメーリングリスト等で、所



55期  
中森俊久

先日、母校の高校(大阪府立三国高校)の特別授業で、弁護士の職業について話してきました。「こんな人でも弁護士になれるんや、私も頑張ろう。」という気持ちを与えることができたのではないかと自負しています。様々な問題が山積みかもしれませんが、志を高く持ち、純粋に、必死に頑張った未来の方々が、「弁護士になってよかった」と思える弁護士会に益々近づきましょう、自分自身気持ちを引き締めたいと思います。春秋会、50周年おめでとうございます。



55期  
西原和彦

この原稿を作成している時点では、私はシカゴのロースクールを卒業後、サンフランシ

属されている先生方が活躍され、議論されている様子を拝見する度、このような活発な雰囲気の中でこそ、個々の弁護士ひいては弁護士全体としてのスキルアップが図られてきたことを感じております。未だ春秋会に貢献するには至らず、ご指導をお願いすることばかりですが、今後とも何卒よろしくお祈り申し上げます。



55期  
平松亜矢子

雑感

50周年おめでとうございます。50年前とは比較にならないくらい弁護士は増えたのでしようが、多数の弁護士が様々な分野に関われることによって、物事が適正かつ円滑に進んでいき、暮らしやすい社会が実現されるよう、子どもたちの大切な未来のためにがんばっていききたいなと思っている今日のご報告です。春秋会の今後益々の発展を祈念しております。



55期  
松浦由加子

委員会整理

子供の権利委員会、広報委員会、裁判員実施本部大阪支部、人権擁護委員会、刑事弁護士会、多重債務者救済対策本部、取調の可視化実現大阪本部。近弁連は広報委員会、刑事弁護士委員会。ひよつとして人権擁護委員会も：何でこんなことになったのか、自分でもよくわかりませんが、完全に首が回りません。行きたい委員会にも全然行けないし。絶対に整理するぞ！！！！



55期  
三好吉安

昨年同じ事務所の山田庸男弁護士の会長立候補により、選挙活動に参加させていただきました。私は中国留学帰りで感覚がぼけてい

たのですが、怒濤のような選挙活動のうちに、同期を初め、春秋会の皆さんがお仕事の時間を割いて活動されているのを見て、触発され、また、胸が熱くなることもしばしばでした。本当にありがとうございます。平穏な時期は、食べたり、遊んだり、また食べたり、活動ばかり参加させていただいておりませんが、今後とも宜しくお願いします。

56期  
青砥洋司

お父ちゃんが書かないので、僕が書いとききました

皆さん、初めまして、「青砥大順（あおと・たいじゆん）」です。去年の3月30日に生まれました。お父さんは、僕のことを、「たいちん」と呼びます。

今日は、お父ちゃんに、おんぶしてもらっています。お父ちゃんの背中は大きいです。僕はお父ちゃんに、おんぶしてもらうのが大好きです。でも、お父ちゃんは、毎晩お酒を飲んで、なかなか家に帰ってきません。お父ちゃんが、お酒を飲んでいるところを見つけたら、早く家に帰るように言ってくださいね。



56期  
西念京祐

簡単バーニャ・カウダのつくりかた

まず、にんにくを二かけ用意して下さい。大好きな人は、すりつぶしてもよいですが、まあ、切り分ける程度で。アンチョビはチューブ入りのペーストで大きじ1くらい。ミルクパンくらいの小さなお鍋に、オリブオイルを深さ1センチくらい入れ、さっきのにんにくとアンチョビを入れて、ゆつくりとかき混ぜながら熱します。沸騰してきたら、レンジでチンしたカリフラワーやブロッコリー、人参などの野菜に付けてお召し上がり下さい。



56期  
長谷川武治

祝・50周年

56期の長谷川武治です。今年度は、若手会

の世話役を務めさせていただいています。幸運にも世話役として50周年記念を迎えることができました。私は、まだ会員となつてその10分の1である5年経過したに過ぎませんが、これからは春秋会の発展に有形無形の貢献をしていきたいと思えます。これからもよろしくお願ひします。



56期  
古本剛之

心を癒す風景

かつて、雲ノ平山荘という山小屋でアルパイトしました。北アルプス奥地の秘境で、峻険な峰々に囲まれながら、そこだけ平らかな高原が広がり、夏には高山植物が咲き誇る穏やかな楽園です。

草原に霧の漂う幻想的な風景、夕日に赤く染まる水晶岳などの美しい風景に感動し、ゆったりと流れる時間に心が癒されました。人間的な出来事が全てちっぽけで取るに足らないものを感じられます。しんどい時などに思い出すようにしています。



56期  
森平尚美

わたしのお手軽ヒーリング  
くいぬ・ウオッチング

犬、とくに子犬や小型犬のウオッチングが自己流のお手軽・即効性ヒーリングです。あの一瞬浮いているような独特の歩調やしっぽの動きが何ともリズムカルで、見ていて飽きません。街中で犬を飼うのは大変だと思いますが、いずれまた機会があれば飼ってみたいと考えております。



57期  
家郷資大

私と春秋会

私は、春秋会の活動としては登録1年目にして幹事をした以外ほとんどありませんが、これまでの仕事を振り返ってみると、春秋会の先



57期  
宇都宮一志

無題

弁護士になって5年目になり、少しは自信をもって事件処理ができるようになってきました。ところで、最近、行きつけの Pasta 屋に行ったら、いつもの料理長ではなく若い人が料理をしていて、いつもより味が落ちていてがっかりしました。勤務弁護士の自分に置き換えてみると、自分が主任として担当する事件で、依頼者に安心して任せてもらえるよう、研鑽を怠らないようにしなければならぬと再認識させてくれる出来事でした。



57期  
大森 剛

春秋会50周年おめでとうございます。当初はなぜ会派なんか必要なのだろうかと思っていました。登録後4年経過した今はその意味(すなわち、運動会のリレーのためだけではないこと)がおぼろげながらわかってきたような気がします。春秋会には尊敬できる先生方がたくさんおられ、お話をうかがうたびに自分の至らなさに恥じ入るばかりですが、少しでもこうした先生方に近づいていければと思っています。



57期  
奥津 周

50周年おめでとうございます。弁護士になって5年目に入りましたが、自分の未熟さを痛感するばかりで、最近成長が



57期  
川島 裕理

きた春秋会、そして、弁護士会に恥じないよう、これから50年後の100周年にむけ、弁護士業に励みたいと思います。宜しくお願いします。

春秋会50周年おめでとうございます。私は、今年の6月に三十路を迎え、10月に弁護士5年目に突入しました。50年という長い春秋会の歴史に比べれば、私の歴史は、人としても、弁護士としてもまだまだ浅いものですが、人として、また弁護士として成長できるような自分を磨きつつ、一步一步歴史を重ねていきたいと思っています。三十路を境に体の肉が全く落ちなくなっているの、体だけが(横に)成長しないように気をつけます。

止まっているのではないかと感じる今日この頃です。60周年のときには、この10年で成長できたと思えるよう努力しようと思います。50周年おめでとうございます。

57期  
尾田 智史

春秋会といえ

「春秋会」といえば、人それぞれイメージや思い出・思い入れがあるかと思うが、私が春秋会といってパツと頭に浮かんだのは、入会したときの春秋会旅行(一瞬、選挙も頭をよぎりましたが)。57期の行き先は韓国。今思い出しても、食事が美味く楽しかった。初年度しか参加出来ていないが、春秋会という会に改めて意識を向けると、旅行の記憶が蘇ってきたので、また機会をみて参加してみよう。



57期  
榮 真之

57期の榮真之と申します。司法修習で神戸に来て以来、関西に住み、はやいもので5年が経ちますが、依然として正確に関西弁をマスターできません。

最近生まれた子供(真乃介)にエセ関西弁がうつらないよう、はやく関西弁をマスターしたいと思います。

今度とも、どうぞ宜しくお願い致します。

57期  
新村 守

ダイエット(?)

今年で、弁護士4年を経過し、年齢も30歳の太台に乗りました。それとともに体重も大台に乗ってしまいました。これではイカンと思、岡田斗司夫の「いつまでもデブと思うなよ」という本を購入して、レコーディングダイエットに挑戦したり、任天堂WiiFitで毎日体



57期  
小野 順子

近況報告

春秋会50周年、おめでとうございます。私事ですが、本年10月1日、箕面市内に事務所を開設しました。裁判所からも遠く、駅からも遠い、不便なところですが、「何でそんなところにしたん?」と、多くの方から言われました。「失敗ちゃう?」とまで。でも、事務所から見える夕日はとてもきれいです。ここまで導いてくださった皆様への感謝は決して忘れません。



57期  
河合 順子

春秋会50周年おめでとうございます。50年前の弁護士とこれから50年後の弁護士はどんな風に違うのでしょうか。先輩方の築いて



57期  
富山 聡子

重を記録していますが、一向に体重が減ることとはなく、単に体重が増加する記録を付けているだけの今日この頃です。

ひと言

春秋会50周年おめでとうございます。次の節目である100周年も祝いさせていただけよう、「灰になるまで弁護士」を目指し、知力体力気力の充実に努めて参りたいと思います。



57期  
夏見 陽介

春秋会50周年おめでとうございます(自分も会員であるにもかかわらず、他人事のように

で申し訳ありません、幽霊会員なもので。個人的には、弁護士登録から4年が過ぎました。うち3年はアソシエイトとし、そして、平成19年10月からはパートナーとして執務しております。弁護士としてあと何年間働かなくてはならないのか!?、いや、働くことができるのかと考えることがたまにあります。正直なところ、嬉しいのやら悲しいのやらよくわかりません。ただ、自分がやりたいことは全てやり尽くし、最終的には弁護士となって良かったと言えるよう、これからもポチポチ頑張りたいと思います。



57期  
東山 俊

最近思うこと

平成20年9月25日に第一子として長女が誕生しました。

離婚等の裁判では、「お子さんのいらっしやらない先生には、分からないでしょうが……」と依頼者に言われることもありましたが、確かに、親が感じる子供への思いというのは、

実際に体験してみないと分からないものだと日々感じています。娘とともに成長していきたいと思っています。



57期  
藤木達郎

弁護士(会)の将来について

弁護士となって5年目を迎えました。昨年、修習生の時より関わってきた中国残留孤児訴訟に一定の道筋ができました。昨今の法曹人口の激増に伴い、経済基盤に乏しい若手が社会的弱者の人権を擁護する事件に取り組みることが環境的に困難となっけいきつつあるように思います。志をもって尊厳をもって仕事をしていける環境を構築していくことが今弁護士会に求められていることであると思います。



57期  
普門大輔

50年前というと1958年ですね。

この年は、4月1日に、売春防止法が施行され、その4日後、長嶋茂雄が4打席4三振の衝撃デビューを飾り、そうそう、近鉄が2階建て電車ビスタカーを登場させたこともありました。早実から王貞治が巨人軍に入団し、東京タワーが竣工したのもこの年でしたね。ミッチー・ブーム、特急「こだま」、新1万円札……。なつかしな。ウィキっちないました。春秋会50周年おめでとうございます。



57期  
堀川智子

春秋会、50周年おめでとうございます。激動の時代。100周年に向けてこれからの春秋の歩みを見ていきたいと思っています。



57期  
溝上絢子

弁護士登録した頃に、新人歓迎旅行で韓国に行かせていただいて以来、ほとんど会派活動に関わらずに来てしまいました。会派に所属している先生方には、事件や委員会等様々な場面でご指導をいただきました。会派に所属するということは、そのような意味もあると思いますので、今後、登録される方も、その良さを享受していただければと思います。



57期  
宮本 剛

か……という頼りない会員でございます。最近、専ら仕事と育児に奔走する日々でして、なかなか自由のきかない我が身故、しばしば配布されるイベントチラシを眺めながら、「一度は行ってみたいもんだ」とため息をつく日々。こんな会員でも、許してくれて、ありがとう春秋会。



58期  
浮田麻里

ひと言

弁護士登録をして瞬く間に3年がたち、このたび、両親の住む滋賀に移籍することになりました。大阪では、事務所の事件のほか、薬害肝炎弁護団やホームレス問題部会などに所属し、多くの貴重な経験をさせていただきました。

大阪から大阪まではJR新快速で40分です。これからも頻繁に大阪に顔を出すと思いますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

(平成21年1月に滋賀弁護士会に登録替えされました。(編集部))



57期  
峯田和子

ぐくたら会員からこの場を借りてひと言

春秋会50周年、おめでとうございます。対する私は、弁護士実務歴・春秋会歴とも4年の新参者。登録時から春秋会に所属しておきながら会派活動に参加したことがあったらう



58期  
姥迫浩司

2008年4月1日に入会しました。どうぞよろしくお願ひします。



58期  
奥田 慎吾

弁護士になって良かった

あっと言う間に3年余が過ぎた。様々な事件に出会った。興味のある弁護士にも参加してきた。恥ずかしい経験をしたこともあったし、プレッシャーで食欲がなくなることもあった。その一方で、依頼者に心から感謝されたり、思っていた以上の成果に背中がぞくぞくする経験もした。人の人生に関わることの難しさ、それを乗り越えて解決できたときのやりがいを感じてきた。弁護士になって良かったというのが今の実感である。



58期  
小津 充人

一日春秋

歳をとつたら時間の流れが早く感じる…と、



58期  
佐藤 俊

沖縄と基地

私は、新嘉手納爆音訴訟弁護士団に加入させて頂いていただいています。この弁護士団との出会いは春秋会の新人歓迎旅行でして、この弁護士団への加入により、私の弁護士人生は随分とバラエティに富んだものとなりました。弁護士として「沖縄と基地」という大きな問題に関与できるのは、非常に有難いことです。

今後も、春秋会の先輩方には若手をどんどんご登用いただき、弁護士団活動等を通じた研鑽の機会をご提供いただければと思います。



58期  
加藤 昌利

最近思うこと

掲載されている写真は、3年前に春秋会の新人自己紹介記事用に撮影したものです。現況は、この写真よりも10数キロ増加しています。最近では、会う人ほとんどから「太りましたね」と言われる有様です。横幅の成長に見合うだけ、内面の成長もできればと思います。



58期  
唐崎 浩司

弁護士3年間で…

弁護士になって丸3年が経過して、4年目に突入しました。

3年前、縁あって堺支部管内の事務所に就職しました。自分にとって大規模庁より、支部の方が性に合っているとつくづく思います。なんといっても裁判官と検察官と仲良くなれました。特に堺の検察庁には同期が3人いたので、気さくに事件の相談もできました。

そんな彼らも異動になってしまいます。なんだか寂しいなあと思う今日この頃です。



58期  
熊谷 卓也

大学教員の妻が在外研究という名目で今年4月から1年間、小学生の子供2人を連れて



58期  
佐藤 正子

春秋会50周年おめでとうございます。

私は、まだ弁護士となって4年目に入ったところですが、その短い間にも旅行や広報委員会などを通じて、春秋会のみならず親しくさせていただくことがたくさんありました。親族や友人に法曹界の知人がほとんどいない私にとって、親しくお話してくださる方ばかりでとても心強く思いました。今後もお世話になることばかりかと思いますが、どうぞよろしくお祈りいたします。



58期  
田村 ゆかり

好きな文字は「潜」

平成19年度常任幹事の親睦担当をさせて頂き、新人歓迎旅行先の沖縄で初めてのダイビングが楽しかった！そこで、もともとやっていた斎藤ともよ先生と大江祥雅先生に唆され、「春秋会ダイビング部を作ろう！」ということに。いそいそとライセンスを取り、今はうっとりとして石垣島情報を眺めています。全体の1/3くらいがライセンス未取得という「やる気さえあればOK」な集まりですので、



58期  
須井 康雄

海外ドラマにはまっています

ある日、NHKの人が来て、なかば強引に衛星放送が視聴できる状況にされ、衛星の受



58期  
中島康之

興味のある方は声をおかけ下さい♪

50周年の感想

50周年おめでとうございます。  
一口に50周年といっても、私が登録してから4年目であることを思うと、その歴史は相当のものであると実感しています。そのような長い歴史を持つ春秋会の一員として、その名に恥じぬ弁護士としての活動ができるようにと精進しなければならぬと思っています。まずは、60周年のときには、名文とまではいなくても、もっと内容のある原稿が書けるように努力しなければと考えています。

58期  
中平史

200年前からのメッセージ

年末、久しぶりに「第九」の合唱に参加しました。「抱き合え、世界中の人々よ」と歌い上げる歌詞がシラーの詩であることは有名ですが、歌詞は同時に「自分のものであるといえるたった一つの魂を持たない者はこの集まりから立ち去れ」と命じています。

解釈はいろいろだと思いますが、私たちに人間らしくあることを求めるとも厳しい歌詞だと思います。200年前からのメッセージは今もなお新鮮です。



58期  
名波大樹

弁護士4年目の心境

弁護士になったばかりのころは「今はこんなに仕事が大変だが、実力が付けば楽になる」と考えていましたが、最近「弁護士の仕事は



58期  
林堂佳子

ずっと大変なものなんだ。あきらめるしかない」という覚悟ができました。弁護士4年目にしてやっとこういう考えになるのは遅いかも知れませんが、この覚悟を大切にして、精進していきたいと思っています。

近況

平成17年10月に弁護士登録して丸3年が経過しました。まだまだ弁護士としてはひよこのため、日々悪戦苦闘です。最近では、他の事務所の先生と弁護士会を組んだり、修習時代にお世話になった女性共同法律事務所での勉強会に参加させてもらったりと、たくさん先輩弁護士から刺激を受けています。これからも事務所に関心をもっていかないで、積極的に刺激を求めて、外に飛び出したいと思っています。



59期  
安達友基子

59期の安達友基子と申します。早いもので、弁護士3年目に突入してしまい、あまりの早さに焦りを覚える今日この頃です。

私は委員会や弁護士会など、事務所の外で何か活動しようとするにつけ、春秋会の先生方にお世話になることがとても多いです。その度に、改めて、春秋会の先生方がいかにエネルギーギッシュに様々な活動をなさっているのかわかり、感服いたしております。  
今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



59期  
越川佳代子

した徳井先生を始め、春秋会の諸先生には、修習時代から大変お世話になっておりました。また、弁護士となってからも、若手会の活動に参加させて頂き、小橋先生を始めとして、諸先生からは様々なことを教えて頂きました。この度、春秋会の歴史を知り、改めて春秋会会員であることを誇りに思います。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

59期の越川佳代子と申します。一昨年の選挙活動のお手伝いくらいで会務活動にはほとんど参加せず恐縮ですが、同じ春秋会の先生にお会いすると何か安心します。春秋ネットからはいつも情報をいただき、とても助かっています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



59期  
浦寛幸

春秋会との出会い  
59期の浦寛幸と申します。弁護修習担当で



59期  
田中智晴

59期の田中智晴と申します。光陰矢の如し、弁護士になり、春秋会に所属してあっという間に2年が経ちました。日々の業務に追われてしまいがちですが、春秋会の熱いスピリットを忘れることなく、一步一步、経験を積んで、前進していきたいと思っています。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



59期  
藤内健吉

59期の藤内と申します。  
弁護士になって（春秋会に入会させていただいて）はや2年が経過しました。  
私が参加させていただいた新人歓迎旅行は、自分にとって初めての海外旅行（北京）であり、今でも思い出深く、またよい経験になっ

たと思っております。

今後機会があれば、春秋会の行事に参加させていただきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



59期  
松尾洋輔

おめでとうございます。

春秋会の一員として私も日々がんばっています。



59期  
山室匡史

59期の山室匡史と申します。春秋会に入会させていただきます。早2年が立ちました。

2年間で私にとって印象深かったのは、入会まもなく参加させていただいた北京旅行で

ご支援を賜り、誠にありがとうございました。小職自身、右選挙を通じて春秋会の大先輩と様々な議論をさせていただきました。多様かつ寛容な先生方のお考えに触れることで、多くの得がたい経験をさせていただきました。今後は少しでもこのご恩返しができればと考えております。今後とも何卒宜しくお願い致します。



現60期  
青木重人

雑感「弁護士といふもの」

春秋会が50周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。弁護士となってわずか1年半の私がよくわかってきた弁護士業とは、悩み続ける仕事だということです。ベテランの大先生方でも悩み、試行錯誤しながら事案の解決を図る姿に大変刺激されます。今後とも諸先生方にはご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。ついながら、ゴルフの方も伸び悩んでおりますので先生方には是非ご指導頂きたくお願い致します。

す。市内観光で天壇公園や故宫など様々な場所を巡ったことをなつかしく思い出します。

また、会内の政策の議論についても、いつも勉強させていただいております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



59期  
吉岡孝太郎

中之島に魅せられながら

私の勤務事務所から裁判所界限までは距離がありますが、自転車移動しています。旧川口居留地を越え、中之島西岸の堂島川と土佐堀川の川縁を走り抜けて行きます。太陽の光が反射してきらめく川、西へ沈んでいく夕日、歴史ある建築群、高層ビル群の夜景等々。中之島の見せる多彩な風景にすっかり魅了されています。バスや地下鉄を利用していった時には苦痛だった裁判所界限への移動は、今やリフレッシュできる時間となっています。

現60期  
伊東孝子

弁護士2年目に思うこと

弁護士2年目に入りました。最近、法律相談などで、様々な方とお会いし、お話を聞く機会があります。いずれも深刻な内容ですが、法律や訴訟では解決しきれない問題も多々あり、申し訳なく思うこともあります。そういった中でも、相談者の方々には、少しでも肩の荷を軽くして頂けるよう、限られた時間の中で、出来る限りよくお話を聞き、お役に立てるアドバイスをしたいと考えています。



現60期  
大久保貴彦

3度の飯より…

休日には、部屋で音楽をかけながら、思う存分歌います。一人でカラオケへ行く。ヒトカラ。(慣れる)



59期  
梁 栄文

59期の梁栄文と申します。春秋会に入会させて頂いた時期は、当事務所の所長が正に大阪弁護士会会長選挙に立候補しようとして頃でした。選挙の際には、多くの先輩会員の先生方や同期会員の方々に大変お世話になりました。ありがとうございました。選挙運動は、厳しいものでしたが、同選挙を通じて、多くの先生方と接することが出来たのは、私にとって貴重な財産となっております。今後とも、どうか宜しくお願い致します。



59期  
渡邊一誠

59期の渡邊一誠と申します。2008年、2009年度の日弁連会長選挙の折には、弊所宮崎誠弁護士に、本当に多くの先生方から

までは結構恥ずかしい。経験もある一方、修習生時代には、新地のスナックやピアノバーで歌うという大人の歌い方も学びました。1年ほど前から同期2人と始めたバンドでは、もちろん私がボーカルです。そういうわけで、私にとって、3度の飯より「歌」です。皆さんの「3度の飯より…」は何ですか？

現60期  
岡本大典

最近、知人の結婚式が立て続けにありました。年代が年代なので、これからはちよちよくありそうです。2日連続で結婚式に出席したり、1か月前に行ったのと同じ二次会会場にまた行くことになったりと、あわただしい時期もありました。ちなみに、余興デビューも果たしました。遠方の結婚式だと、結婚祝に交通費と出費がかなり大変ですが、新郎新婦の幸せそうな顔はやっぱりいいですね。



現60期  
木虎孝之

登録後1年経ちましたが、春秋会の諸先輩方の顔と名前どころか、同期さえ顔と名前が一致するか怪しいような気がします。「そんなもの」と諦めてしまっているのも、増員時代の弁護士だからかもしれません。  
こんな私ですがよろしくお願いします。



現60期  
鈴木百世

2年目の雑感

弁護士登録をして丸1年と少したちました。1年目は、何事にもチャレンジでやみくもに走ってきた感があります。2年目の今年もチャレンジは続きますが、そろそろ自分の現在地や方向を確かめつつ、ゆとりをもって進んでいけたらと思っています。春秋会50周



現60期  
長瀬信明

がいを感じるのと同時に、厳しいものであることを実感しつつあります。春秋会に入会してから、参加できたのは未だ新人歓迎会と、沖繩への新人歓迎旅行（春秋会の先輩の先生方と夜な夜な飲み歩いた記憶しかありませんが）のみです。なかなか会派の活動にまで手を伸ばせていませんが、春秋会の先生方には弁護団活動等にて大変お世話になっており、いつか恩返しできればと思っています。

春秋会50周年おめでとうございます。記念講演として開催された高村薫先生の講演には非とも行きたかったのですが、残念ながら行けず悔しい思いをしています。先生の「マークスの山」は映画にもなっているのでご存知の方も多いでしょうが、同じ合田雄一郎刑事のシリーズでは「照柿」がお勧めです。大阪も舞台になっていたりしますので興味の方は是非。ブックレビューのようになってしまいました。が、今後ともよろしく願います。

年と何って先輩方が築いてこられた歴史を感じますね。是非100周年記念誌でこうしてまたひと言を述べる機会が巡ってくればいいなと思います。



現60期  
高橋昌子

弁護士2年目

弁護士になって1年が過ぎました。やっと気分的に少し余裕が出てきたかなという感じですが。  
弁護士2年目は、時間的にも余裕を作って、いろいろな活動にどんどん参加して、多くの方と出会い、人間的に成長していきたいと思っています。  
今後とも、ご指導よろしく願います。



現60期  
松尾友寛

春秋会に入会して1年が過ぎました。日々の業務に追われて会派の活動にはあまり参加できていないのですが、春秋会には人権擁護の分野で素晴らしい活躍されている先生方が多数いらっしゃると思っています。諸先生方の活動に触れるにつけ、私は、忘れそうになる弁護士としての初心を思い出しております。今年も親睦委員を仰せつかっておりますので会派活動でお役に立てればと思っています。今後とも宜しく願います。



現60期  
安木志保

バス停までの道にはトンボが舞い、毎朝眺めてきた高架下の芙蓉や、青空に映える百日紅の花もそろそろ見納めようです。晩には虫の音が聞こえてきました。



現60期  
高橋礼雄

近況

春秋会50周年おめでとうございます。弁護士になってから1年、春秋会のさまざまな行事に参加させていただきました。中でも、新人歓迎旅行は、多くの方々と同じく知り合うことができ、また、人生で初めて飛行機に乗ったこともあり、一生忘れないものになると思います。  
近況ですが、今年の6月に結婚しました。相手は同期の弁護士です。研修所のクラスが同じ、実務修習も同じ和歌山ということで、何か縁があったのかなと思っています。



現60期  
谷 真介

50周年おめでとうございます

弁護士になって1年以上経ち、仕事のやり

この秋は、ため込んだ資料を読み報告書を書くとともに、滋賀でのシンポジウムの前に、個人的にもう一度琵琶湖を訪ねたいです。

現60期  
山上修平

50周年おめでとうございます

春秋会での沖繩旅行で、同じ事務所の某日先生と一緒に羽目をはずして楽しんでからもうすぐ1年が経ちます。あっという間の1年でしたが、すでに沖繩旅行時の新人としてのフレッシュさが消え、徐々にふてぶてしくなってきた今日この頃であります。  
また仕事に煮詰まり、息抜きが必要な際は、ぜひ春秋会のイベントに参加したいと思っています。今後ともよろしく願います。

現60期  
山本大輔

お母さん、受かっちゃった！  
家族ネタで恐縮ですが、12月に母親が宅建

試験に合格しました。ストイックに半年間受験勉強をしていましたが、その反動からか、10月末の試験後からは父を連れて各地へ旅行するなど、豪遊。合格後、母を簿記試験の参考書売り場で見かけたという噂もあり、元氣な母親の活躍とそれを陰で支える父親の寛大さに目頭が熱くなります。  
このような家族の末席に位置する者ですが、これからも慎ましく頑張つて参りたいと思います。



現60期  
梁 龍成

春秋会50周年おめでとうございます。500名(?)を超える大きな会派なので、なかなか諸先生方のお顔とお名前が一致しないのですが、これから少しずつ一致させていきたいと思っております。今後とも、よろしくお願い致します。



新60期  
足立賢介

最近の私の趣味は、少し度の過ぎた食べ歩きです。週末にカニを食べに金沢に行ったり、赤福を食べに伊勢に行ったりしています。弁護士になってまだ一年、これからはますます忙しくなるはずだけど、趣味に使える時間を作るために仕事を手際よくこなせる弁護士でありたいものです。



新60期  
池本順子

近況  
弁護士として仕事を始めてもうすぐ1年、いろいろな人、事に出会い、やりがいを感じ毎日を送っています。いつの間にか次の期の方も実務に出ていて、時間が流れているのを実感。これからは初心を忘れず、日々新鮮な



新60期  
浦田悠一

ガジュマルと私  
大阪に越して1年。弁護士になって1年。周りの人みんなに育ててもらっています。まだ恩返しできない私はブースでガジュマルを育てています。



新60期  
小田勇一

春秋会50周年おめでとうございます。私は、弁護士1年目も漸く終わり、2年目の弁護士となりました。  
50年という歳月を前にすると圧倒されますが、1年1年こつこつ頑張りたいと思います。

今後とも、よろしくお願いいたします。



新60期  
笠原麻央

バトンタッチ  
どういったわけか、現在、僕は新60期の幹事を務めています。そのため、幹事会などの会議に出席することがあって、大先輩方どうやって春秋会を盛り上げていこうかというのかを見ることができました。50周年という節目に弁護士登録ができたのだと思うと、これまでに引き継がれてきたものの大きさにただ圧倒されるだけです。いつかこのバトンを受けとって、めいっばい走ってやろうと思っています。



新60期  
川崎真陽

ひとこと  
弁護士になって早くも1年がたとうとしています。この1年は非常に充実した1年でした。一番心に残っているのは何と言っても、10月に国連規約人権委員会の日本政府報告書審査を見に行ったことです。ここで、世界の人権基準に照らした日本の人権状況の現実を知りました。そして、今後、弁護士として国際人権条約に関わる活動をしていこうと思えました。ライフワークを見つけた1年でした。



新60期  
神田洋一

100周年まであと50年  
春秋会50周年おめでとうございます。  
春秋会が50周年を迎えるこの平成20年の10



新60期  
金 英哲

被疑者援助の落とし穴  
刑事被疑者弁護援助を利用しました。1罪は否認、もう1罪は正当防衛を主張し、被害者を逆に告訴することになりました。結果1罪のみ起訴されました。起訴後、保釈や告訴をするため、国選受任手続を待つ時間がないので、援助決定が出たことを考慮して格安で私選受任しました。しかし、私選切り替えの場合は援助額が0になると言われました。パンフレット等には書かれてないので、今後この制度を利用する人は気をつけてください。



新60期  
河野雄介

春秋旅行の思い出

私、元ヤクルト監督の古田さんとの相似を指摘されることがよくあるのですが、今年の沖縄春秋旅行で宿泊したホテルに楽天球団がキャンプにきており、野村監督と同じエレベーターに乗り合わせました。このとき、かつての教え子として一言あいさつをしておけば、良い土産話になったのに惜しいことをしたというのが、楽しかった春秋旅行での唯一の心残りです。



新60期  
佐々木章

弁護士って面白い？

新60期の佐々木章と申します。弁護士登録をしたばかりですが、一人で法律相談をしたり、裁判をいくつか解決させたりして、少し



新60期  
高田和加子

自己紹介

初めまして。高田和加子と申します。私は弁護士登録後1年も満たない新人ですが、50周年という記念すべき年に入会させて頂き嬉しく思います。よろしくお願ひ致します。私の出身地は滋賀県守山市というのどかなところですが、あいにく実家から琵琶湖を望むことはできませんが、市内に移動動物園があり、幼い頃、道の向こうから夕陽を背に浴びてラクダを引いてやって来るおじさんを見た時は、本当にびびくりした覚えがあります。



新60期  
高橋俊之

裁判員裁判を迎えるにあたって

平成21年5月からいよいよ裁判員裁判が開



新60期  
高田真司

ずつ「弁護士の仕事とは何か」がわかってきました。やりがいがありますが、本当に弁護士の仕事は大変ですね。今は、仕事のことを一切考えずに、珈琲を飲みながらボールとすることがささやかな幸せです。  
一日でも早く「仕事が面白い」と堂々と公言できるようにになりたいものです。よろしくお願ひ致します。

まだ？もう？

「弁護士の高田です。」と名乗りはじめて、10ヶ月が経ちました。振り返ってみれば、これまでの人生では考えられないような経験をたくさんしたと思う反面、何もかも初めてのことばかりで、どきまぎしているうちに時間だけが流れていた、そんな感じの10ヶ月でした。まあ、急にいろんなことが出来るようになるはずありませんので、一つ一つの経験を糧に、焦らず一歩ずつ成長していきたいと思っています。



新60期  
立野嘉英

ロング グッドバイ

最近、レイモンド・チャンドラーの名作「ロング・グッドバイ」を読みました。主人公の私立探偵であるフィリップ・マロウは、警察やギャングにも屈しない反骨精神の持ち主であるとともに、クールで独特のユーモアがあり、すぐく気に入っています。名言「さよならを言うことは少しだけ死ぬことだ」。ロバートアルトマン監督の映画の方も、原作とは違った魅力があり、おすすめです。



新60期  
野口啓暁

その間に、いろいろな事件を経験できました。自分で処理できる部分もありますが、まだまだ分からないことも多く、精進しなければならぬと痛感しています。  
法曹の質が問われる現在、弁護士力をしっかり身につけていきたいと思っています。

この半年を振り返って

今年の1月から弁護士として働き始めて、あつという間に半年がすぎました。事務所の事件に加えて、薬害C型肝炎弁護団の活動や青法協の事務局の仕事など、はやくも首が回らない雰囲気になってきました。それでも、当初の目標であった少年事件を3件経験でき、弁護士としてのやりがいを感じる瞬間も多々あります。体調には気をつけながら、やれるだけやってみようと思います。



新60期  
竹中宏一

OJT

修習生のときには全く意識しませんでした。が、弁護士になってみて、オンザジョブトレーニングの重要性を日々実感しています。そして、自分が充実したOJTの環境にあることを幸せに思います。また、他の事務所の先生方と一緒に仕事をさせて頂くことにより、自分の未熟さを痛感することがよくあります。これからは、様々な事件や先生方との出会いを通じて成長していきたいと思っています。



新60期  
豊田祐介

これまでを振り返って

弁護士になってから、もうすぐ1年が経とうとしています。時の流れは早いです。



新60期  
廣瀬元太郎

60期の廣瀬元太郎と申します。弁護士となつてはや1年、色々なことがありましたが、特筆すべきは、事務所の奄美大島担当として月一回の頻度で通つたことです。事務所のパートナーの出身地の関係で、私の事務所には奄美大島の事件が多いのです。奄美大島は、たった一人の島の裁判官を描いたNHKドラマ「ジャッジ」の舞台です。テレビの通り美しい海と空の下、本物の「支部長」と事件の解決を目指しています。



現61期  
荒木晋之介

記念のときに  
「春秋会50周年」という記念のときに弁護士登録できたことを光栄に思っています。人々



現61期  
松嶋依子

新入会員の旧61期の松嶋依子と申します。はじめまして。この度、春秋会に入会させていただきますことになりました。50周年という記念の年に入会させていただくことになりましたのも、何かのご縁かと思えます。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



現61期  
村田充章

はじめまして  
はじめまして。今秋、春秋会に入会させていただきますました。弁護士法人英知法律事務所の村田充章と申します。弁護士として勤務を開始してから、はや2か月が経ちました。自らの未熟さを痛感するとともに、日々新しい発見もあり、充実した毎日を過ごさせていただいてお

が普通に生活できる世の中が実現できるよう、精進していきます。

また、新しく始まる刑事裁判手続への被害者参加、裁判員裁判、といった制度にも積極的に取り組みたいと考えています。春秋会と皆様方の益々のご発展をお祈り申し上げます。



現61期  
下迫田浩司

ユダヤ・行政・将棋・卓球・マジック  
私は、ユダヤ文化に大変興味があり、大学在学中に1年間休学してイスラエルのキブツやエルサレムに行き、卒業後、ヘブライ語(現代ヘブライ語・聖書ヘブライ語)講師、市役所職員(廃棄物行政、国民体育大会運営、図書館、障害者サービス、生涯学習、コンピュータ・システム管理等を担当)を経て、弁護士になりました。趣味は、将棋と卓球です。特技は、クロスアップ・マジックです。今後とも、よろしくお願いいたします。



現61期  
波田素子

自己紹介  
本年9月に大阪弁護士会に新規登録致しました。

50年もの歴史のある春秋会に入会することができ、大変嬉しく思っております。私は、休日に自然のあるところに出ることが好きです。先日は近江水郷めぐりに行き自然を満喫して参りました。今後も自然のあるところにお出かけをしたいと思いますので、お勧めのところがあれば是非ご教示ください。未熟者ですが、ご指導賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

ります。春秋会の諸先輩方におかれましては、未熟者ではありますが、どうか今後ともご指導ご鞭撻のほどを宜しくお願い申し上げます。